

キャンパス

第26回 学生生活実態調査報告書

レポート

26th
Tokushima Univ.
Campus Life



徳島大学
The University of Tokushima

ま え が き

本年は二年に一回実施される学生生活実態調査の年となります。この学生生活実態調査も半世紀を超え、今回で26回目となりました。ここにキャンパスライフ―「第26回学生生活実態調査報告書」―を皆様にご報告申し上げます。この調査は、本学学部生の生活の実態や要望を把握し、今後の修学支援並びに福利厚生施設等の改善に資する基礎資料を得る目的で、平成25年11月に、全学部の学生全員にアンケートを実施しました。本報告書には、①基本事項、②住居・通学、③収入・支出、④健康状態、⑤食事、⑥学生生活上の問題点、⑦修学状況、⑧課外活動、⑨進路・就職などについて、全部で79問の質問により調査されたアンケート結果に加えて、その結果から得られた各学部の現状と課題、これらをまとめた総括と提言が報告されています。

近年、少子化が招来し、我が国の大学教育は、大学全入時代を迎えています。これに伴い、知識、学習力・学習意欲、興味・関心、資質・能力、自主・自立性、職業観などの面で、多様な学生が本学に入学しています。一方、グローバル化が加速し、グローバル化に対応した教育環境づくりの整備も欠かせません。このような時代において、学生の能動的な活動を後押しし、社会を牽引するような人材、社会に貢献できる人材を大学から送り出すことが社会から強く大学に求められています。

本学は、「明日を目指す学生の多様な個性を尊重して、人間性に富む人格の形成を促す教育を行い、優れた専門的能力と、自立して未来社会の諸問題に立ち向かう進取の気風を身につけた人材の育成に努める」を教育目標としており、この目標に向かって学生、教職員共に協働しながら努力しているところです。しかし残念ながら、「大学全入時代」を迎え、入学後に将来の夢を持たず、目的意識・学習意欲を失い、留年や退学、また精神的に不安定に陥る学生が増加しているのも事実です。

教育の目的が豊かで健全な未来社会の実現に貢献できる人づくりであることを考えるとき、多様な人材の育成のためには、日頃の授業は勿論のこと、学生の立場に立ったきめ細かい正課外の教育支援や学生生活支援が不可欠であり、一人一人の学生に合った適切な指導を行い、学生と共に考えて行くことがわれわれ教職員の責務であります。本報告書が、これからの本学における学生の立場に立った教育改革に活用されることを強く望みます。教職員のみならず、学生諸君に大いに活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、徳島大学学生支援センター学生生活支援室運営会議の委員の先生方および学務部職員の方々には、この調査に関してアンケート項目の設定から、調査の実施、集計、結果の分析まで、ご多忙の中すべての事項について精力的に遂行していただき、早期に報告書を作成していただきましたことに対し、大政健史支援室長をはじめとする皆さんに心から敬意を表すとともに深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただいた学部生の皆さんにもこの場を借りて感謝致します。

平成26年3月

徳島大学理事・副学長(教育担当)
学生支援センター長

高 石 喜 久

目 次

まえがき	1
序 章 学生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 略語等の表示等	5
7 調査票の回収状況	5
調査票「平成 25 年度 学生生活実態調査（学部学生対象）」	7
第 1 章 住居・通学について	19
1-1 住居区分	19
1-2 1 か月の家賃	19
1-3 住居満足度	20
1-4 住居（部屋）の紹介・斡旋者	21
1-5 通学方法	21
1-6 通学時間	22
1-7 通学中の交通事故	23
第 2 章 収入・支出について	24
2-1 家庭の年収	24
2-2 授業料の免除について（年収が 500 万円未満の家庭）	24
2-3 1 か月の平均収入額【自宅外通学者】	25
2-4 保護者からの援助額【自宅外通学者】	26
2-5 1 か月の平均支出額【自宅外通学者】	27
2-6 1 か月の平均の食費【自宅外通学者】	27
2-7 経済状況	28
2-8 奨学金	28
2-9 1 週間のアルバイト従事日数	29
2-10 1 週間のアルバイト従事時間数	29
2-11 アルバイトと勉学	30
2-12 アルバイトの目的	30
2-13 アルバイトの種類	31
2-14 アルバイト収入	31
2-15 アルバイトの紹介者	32
2-16 アルバイトのトラブル内容	33
第 3 章 健康状態について	34
3-1 睡眠時間	34
3-2 気になる症状	35
3-3 喫煙について	36
3-4 飲酒について	37
第 4 章 食事について	39
4-1 朝食	39
4-2 昼食	40
4-3 夕食	40

4-4	昼食の利用場所	41
4-5	弁当を食べる場所	41
4-6	学生食堂について感じる事	42
第5章	学生生活上の問題点	44
5-1	大学生活の意義	44
5-2	悩みと相談	45
5-3	迷惑行為	47
5-4	教職員・友人との交流	53
5-5	大学事務室の対応への満足度	56
5-6	盗難等犯罪被害	57
第6章	修学状況について	60
6-1	本学を選んだ理由と所属学部の満足度	60
6-2	単位取得状況と授業出席状況	61
6-3	授業の満足度	62
6-4	授業予習復習時間とカンニング経験	63
6-5	オフィスアワーの利用状況	64
6-6	図書館の利用状況	65
第7章	課外活動について	67
7-1	サークル加入状況	67
7-2	活動状況	68
7-3	加入の動機	69
7-4	サークルに加入していない理由	71
7-5	学生行事	73
7-6	大学祭への参加状況	75
7-7	ボランティア活動	76
7-8	まとめと今後の課題	77
第8章	進路・就職について	78
8-1	進路情報入手手段	78
8-2	就職・進学希望について	78
8-3	就職先選択で重視するもの	79
8-4	就職情報の入手方法	79
8-5	希望する職種	80
8-6	就職セミナーへの参加	81
8-7	キャリア支援センターの利用状況	81
第9章	学部の現状と課題	83
9-1	総合科学部	83
9-2	医学部	84
9-3	歯学部	86
9-4	薬学部	89
9-5	工学部	91
第10章	総括と提言	93
あとがき		95

序章 学生生活実態調査の概要

1 調査の目的

この調査は、本学学生の学生生活の実状を把握し、今後の福利厚生等の改善及び修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の組織

この調査は、徳島大学学生委員会及び学生生活支援室運営会議の次の委員が中心となり、調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	所属	職名
委員長	大政健史	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教授
委員	石田基広	大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部	教授
委員	有澤孝吉	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	松山美和	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	山崎哲男	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	永瀬雅夫	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教授
委員	井崎ゆみ子	保健管理センター	准教授
委員	金成海	国際センター	教授
委員	三好徳和	全学共通教育センター	副センター長
委員	徳村彰	学生相談室	室長
委員	成行義文	キャリア支援センター	副センター長

3 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する学部学生全員 5,848 人（平成 25 年 11 月 1 日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、各学部の学務(教務)係及び学生委員会委員の協力を得て調査票を配付し、回答用紙(マークシート)を回収した。

4 調査の時期

この調査は、平成 25 年 11 月 5 日から 11 月 13 日まで実施し、11 月 1 日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を 11 月 15 日までとした。

5 調査の内容

調査項目については、調査の継続性も考慮しながら必要な見直しを行い、修学状況については、「図書館の利用目的」を調べることができる設問内容に変更し、79 項目とした。

6 略語等の表示等

本報告書中、一部の表記を以下に示すような略語表記として記載した。

また、端数処理の関係で合計が100%にならない場合や、複数回答の場合で実回答者数を母数としてそれに対する各設問の回答数を百分率で表したグラフには合計が100%を超えるものがある。

工学部昼間コース → 工学部昼間

工学部夜間主コース → 工学部夜間

平成21年度学生生活実態調査（学部学生） → 前々回調査

平成23年度学生生活実態調査（学部学生） → 前回調査

7 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者5,848人のうち回答数は4,060人で、回収率は69.4%であった。学部・学科別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。

平成25年度学生生活実態調査集計表

<学部・学科別>

学 部	学 科	対象者数	回 収 数	回収率(%)
総 合 学 部	人 間 文 化 学 科	407	235	57.7
	社 会 創 生 学 科	404	206	51.0
	総 合 理 数 学 科	258	125	48.4
	人 間 社 会 学 科	5	4	80.0
	自 然 シ ス テ ム 学 科	5	2	40.0
	計	1,079	572	53.0
医 学 部	医 学 科	663	472	71.2
	栄 養 学 科	207	176	85.0
	保 健 学 科	520	464	89.2
	計	1,390	1,112	80.0
歯 学 部	歯 学 科	245	153	62.4
	口 腔 保 健 学 科	57	56	98.2
	計	302	209	69.2
薬 学 部	薬学部共通学科	161	70	43.5
	薬 学 科	163	151	92.6
	創 製 薬 学 科	82	70	85.4
	計	406	291	71.7
工 学 部	建 設 工 学 科	395	250	63.3
	機 械 工 学 科	535	317	59.3
	化 学 応 用 工 学 科	354	311	87.9
	生 物 工 学 科	272	254	93.4
	電 気 電 子 工 学 科	499	280	56.1
	知 能 情 報 工 学 科	404	301	74.5
	光 応 用 工 学 科	212	163	76.9
	計	2,671	1,876	70.2
合 計		5,848	4,060	69.4

<学年別>

学 年	対象者数	回収数	回収率(%)
1 年	1,381	1,095	79.3
2 年	1,424	904	63.5
3 年	1,360	912	67.1
4 年	1,324	895	67.6
5 年	182	98	53.8
6 年	177	156	88.1
計	5,848	4,060	69.4

<男女別>

学 部	回 収 率(%)		
	男	女	計
総合科学部	43.6	60.5	53.1
医学部	72.2	86.6	79.9
歯学部	58.0	78.7	69.2
薬学部	66.0	77.7	71.7
工学部	67.9	86.1	70.2
計	65.1	77.4	69.4

平成 25 年度 学生生活実態調査(学部学生対象)

平成 25 年 11 月
徳 島 大 学

お 願 い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成 25 年 11 月 1 日現在、本学に在学する学部学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入してください。他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変とは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

[調査実施期間 11月5日～11月13日]

回答用紙(マークカード)の提出期限は、11月15日(金)です。

所属学部の学務(教務)係へ提出してください。

回答記入上の注意事項

- 1 平成 25 年 11 月 1 日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号を塗りつぶして回答してください。
ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けていますので、問 30 については気になる具体的症状を、問 44 についてはその具体的内容を、また学生生活全般について気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。
- 5 *は、前回からの継続調査項目です。

学生生活実態調査票

A. 基本事項について

1 *	【全員】 性別はどれですか。	1. 男 2. 女
2 *	【全員】 所属学部はどこですか。	1. 総合科学部 2. 医学部 3. 歯学部 4. 薬学部 5. 工学部(昼間コース) 6. 工学部(夜間主コース)
3 *	【全員】 学科はどこですか。	総合科学部 〔1. 人間社会学科 2. 自然システム学科〕 〔3. 人間文化学科 4. 社会創生学科〕 〔5. 総合理数学科〕 医 学 部 〔1. 医学科 2. 栄養学科 3. 保健学科〕 歯 学 部 〔1. 歯学科 2. 口腔保健学科〕 薬学部 〔1. 薬学科 2. 創製薬科学科〕 (薬学部1～2年生については、〔1. 薬学科 2. 創製薬科学科〕の選択は不要) 工 学 部 〔1. 建設工学科 2. 機械工学科〕 〔3. 化学応用工学科 4. 生物工学科〕 〔5. 電気電子工学科 6. 知能情報工学科〕 〔7. 光応用工学科〕
4 *	【全員】 何年生ですか。	1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. 5年生 6. 6年生

B. 住居, 通学について

5 *	【全員】 あなたの住居区分はどれですか。	1. 自宅(家族と同居) 2. アパート・マンション(家族と別居) 3. 学生寮 4. 間借り(下宿) 5. 親戚・知人宅 6. 国際交流会館・日垂会館 7. その他
6 *	【学生寮及び国際交流会館・日垂会館居住者を除く自宅外通学者】 一ヶ月の家賃(電気代, ガス代等諸費用を除く)はいくらですか。	1. 3万円未満 2. 3万円～4万円未満 3. 4万円～5万円未満 4. 5万円～6万円未満 5. 6万円～7万円未満 6. 7万円～8万円未満 7. 8万円以上

7 *	【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 現在の住居に満足していますか。	1. 満足している 3. どちらともいえない 5. 不満足である	2. ほぼ満足している 4. やや不満足である
8 *	【問7で「4」,「5」を選んだ方】 その理由はどれですか。 (複数回答可)	1. 狭い 3. 通学に不便 5. 周りの環境が良くない	2. 家賃が高い 4. 日常生活に不便 6. その他
9 *	【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 住居(部屋)の紹介・斡旋者は誰ですか。	1. 徳大生協 3. 友人・先輩 5. 新聞・雑誌	2. 徳大教員 4. 不動産業者 6. その他
10 *	【全員】 あなたの主な通学方法は 何ですか。	1. 徒歩 3. バイク(原付自転車・自動二輪) 5. バス・JR	2. 自転車 4. 自動車
11 *	【全員】 通学時間はどのくらい ですか。	1. 15分未満 3. 30分～1時間未満 5. 2時間以上	2. 15分～30分未満 4. 1時間～2時間未満
12 *	【全員】 通学中に交通事故をおこ したことはまたは交通事 故の被害にあったことが ありますか。	1. ある 2. ない	

C. 収入・支出について

13 *	【全員】 あなたの家庭の年収(税 込み)はどれくらいです か。	1. 250万円未満 3. 500～750万円未満 5. 1,000～1,500万円未満	2. 250～500万円未満 4. 750～1,000万円未満 6. 1,500万円以上
14 *	【問13で「1」又は「2」 を選んだ方(年収500万 円未満の家庭)】 授業料免除についてお尋 ねします。(直近のもの でお答えください。)	1. 授業料免除は知っているが申請していない 2. 全額免除を受けている 3. 半額免除を受けている 4. 申請したが不許可だった 5. 授業料免除制度を知らなかった	
15 *	【自宅外通学者】 あなたの1か月の平均収 入額(保護者等からの援 助を含む)はいくらです か。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満 7. 20～25万円未満 9. 30万円以上	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15～20万円未満 8. 25～30万円未満

16 *	【自宅外通学者】 保護者等からの援助はいくらありますか。	1. 全くない 3. 3～5万円未満 5. 7～10万円未満 7. 15～20万円未満	2. 3万円未満 4. 5～7万円未満 6. 10～15万円未満 8. 20万円以上
17 *	【自宅外通学者】 あなたの1か月の平均支出額(授業料支出は除く)はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満 7. 20～25万円未満 9. 30万円以上	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15～20万円未満 8. 25～30万円未満
18 *	【自宅外通学者】 1か月の平均の食費はどのくらいですか。	1. 2万円未満 3. 3～4万円未満 5. 5～7万円未満	2. 2～3万円未満 4. 4～5万円未満 6. 7万円以上
19 *	【全員】 現在の経済状況について	1. ゆとりがある(家計支持者からの仕送りのみ) 2. 普通(あまり不自由を感じない) 3. やや苦しい(奨学金あるいは軽度のアルバイトで充足できる) 4. 大変苦しい(定期的なアルバイトが必要である)	
20 *	【全員】 奨学金を受けていますか。	1. 現在受給中であり、受給の継続を希望する 2. 現在受給中であるが、更に増額を希望する 3. 現在受給中であるが、次は希望しない 4. 現在受給していないが、新たに受給を希望する 5. 現在受給していないし、希望もしない	
21 *	【全員】 現在、アルバイトをしていますか。1週間の平均従事日数は何日ですか。	1. いいえ 3. 2日 5. 4日	2. 1日 4. 3日 6. 5日以上
22 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 1週間の従事時間は合計何時間ですか。(移動に要する時間も含む)	1. 5時間未満 3. 10～15時間未満 5. 20～25時間未満	2. 5～10時間未満 4. 15～20時間未満 6. 25時間以上
23 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 アルバイトによって勉学に支障が生じていますか。	1. 支障が生じている 2. 支障は生じていない	
24 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 アルバイトは主にどのような目的でしていますか。(複数回答可)	1. 生活費や学費のため 2. レジャー・旅行費のため 3. 日常の娯楽・嗜好品等のため 4. 高額商品(自動車・パソコン等)購入のため 5. 課外活動費のため 6. 社会体験のため 7. その他	
25 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 どのようなアルバイトをしていますか。(複数回答可)	1. 家庭教師・学習塾講師等 3. 受付・接客 5. 商品販売 7. 飲食店等手伝い 9. 引越しスタッフ	2. 会場設営・撤収、搬入搬出 4. イベントスタッフ補助 6. 商品等整理・包装 8. 駐車場整理員 10. その他

26 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 あなたのアルバイトによる収入（1か月平均）はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15万円以上
27 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 そのアルバイトはどこで（誰に）紹介してもらいましたか。 〈複数回答可〉	1. 学務部 2. 友人・先輩 3. アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ 4. 教員 5. 家族 6. 自分で開拓 7. その他	
28 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。 〈複数回答可〉	1. ない 2. 給料の不払い 3. 給料が契約より低かった 4. 客とのトラブル 5. 解雇 6. 雇用者との意見の不一致 7. 事故・ケガ 8. その他	

D. 健康状態について

29 *	【全員】 1日の睡眠時間は平均何時間ですか。（休日を除く）	1. 4時間未満 3. 6～8時間未満 5. 10時間以上	2. 4～6時間未満 4. 8～10時間未満
30 *	【全員】 現在気になる症状は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 特にない 3. アトピー・アレルギー 5. 動悸・不整脈 7. 咳・痰 9. その他（マークカードの裏面の自由記入欄に具体的な症状を書いてください）	2. 頭痛・めまい 4. 不眠 6. 下痢・便秘 8. 生理痛・生理不順
31 *	【全員】 喫煙について	1. 喫煙したことはない 2. ときどき喫煙している 3. 毎日喫煙している 4. 過去に喫煙していたが、現在はしていない 5. その他	
32 *	【全員】 飲酒について	1. 飲酒はしない 2. たまに飲酒する 3. 1週間に1～2日飲酒している 4. 1週間に3～4日飲酒している 5. 1週間に5日以上飲酒している	

33 *	【問32で「4」～「5」を選んだ方】 1回に飲む量はどのくらいですか。 (日本酒ならコップ1杯(180ml), ビールなら中瓶1本(500ml)を1合としてお答えください。)	1. 1合未満 2. 1合以上2合未満 3. 2合以上3合未満 4. 3合以上4合未満 5. 4合以上5合未満 6. 5合以上
---------	---	--

E. 食事について

34 *	【全員】 朝食を取りますか。	1. 毎日食べる 2. 時々食べる 3. ほとんど食べない
35 *	【全員】 昼食を取りますか。	1. 毎日食べる 2. 時々食べる 3. ほとんど食べない
36 *	【全員】 夕食を取りますか。	1. 毎日食べる 2. 時々食べる 3. ほとんど食べない
37 *	【全員】 昼食は主にどこを利用していますか。	1. 常三島第1食堂(生協) 2. 常三島第2食堂(工学部構内) 3. 蔵本会館食堂 4. 弁当を購入 5. 自宅(下宿) 6. その他
38 *	【問37で「4」を選んだ方】 どこで食べていますか。	1. 教室 2. 屋外 3. 自宅(下宿) 4. その他
39 *	【全員】 学生食堂について感じていることはどれですか。 (複数回答可)	1. メニューが少ない 2. 昼食時の混雑がひどい 3. 値段が高い 4. 開店時間が短い 5. 場所が不便 6. 特にない 7. その他

F. 学生生活上の問題点

40 *	【全員】 あなたは、大学生活で何を第一においた生活をしていますか。	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 勉強や研究</td> <td style="width: 50%;">2. サークル活動</td> </tr> <tr> <td>3. 趣味・娯楽</td> <td>4. 豊かな人間関係を結ぶこと</td> </tr> <tr> <td>5. 将来を考えた資格等の取得</td> <td>6. アルバイト</td> </tr> <tr> <td>7. 特に重点もなく程々に</td> <td>8. ただ何となく</td> </tr> <tr> <td>9. その他</td> <td></td> </tr> </table>	1. 勉強や研究	2. サークル活動	3. 趣味・娯楽	4. 豊かな人間関係を結ぶこと	5. 将来を考えた資格等の取得	6. アルバイト	7. 特に重点もなく程々に	8. ただ何となく	9. その他											
1. 勉強や研究	2. サークル活動																					
3. 趣味・娯楽	4. 豊かな人間関係を結ぶこと																					
5. 将来を考えた資格等の取得	6. アルバイト																					
7. 特に重点もなく程々に	8. ただ何となく																					
9. その他																						
41 *	【全員】 現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。 (複数回答可)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ない</td> <td style="width: 50%;">2. 経済状態</td> </tr> <tr> <td>3. 勉学</td> <td>4. 交友・異性関係</td> </tr> <tr> <td>5. 身体的不調</td> <td>6. 家族関係</td> </tr> <tr> <td>7. 自分の性格</td> <td>8. 就職や進路</td> </tr> <tr> <td>9. 生き甲斐や目標</td> <td>10. その他</td> </tr> </table>	1. ない	2. 経済状態	3. 勉学	4. 交友・異性関係	5. 身体的不調	6. 家族関係	7. 自分の性格	8. 就職や進路	9. 生き甲斐や目標	10. その他										
1. ない	2. 経済状態																					
3. 勉学	4. 交友・異性関係																					
5. 身体的不調	6. 家族関係																					
7. 自分の性格	8. 就職や進路																					
9. 生き甲斐や目標	10. その他																					
42 *	【全員】 悩み事は誰に相談しますか。 (複数回答可)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 友人</td> <td style="width: 50%;">2. 家族</td> </tr> <tr> <td>3. 教員</td> <td>4. 学生相談室</td> </tr> <tr> <td>5. 学務(教務)係</td> <td>6. その他</td> </tr> <tr> <td>7. 誰にもしない</td> <td></td> </tr> </table>	1. 友人	2. 家族	3. 教員	4. 学生相談室	5. 学務(教務)係	6. その他	7. 誰にもしない													
1. 友人	2. 家族																					
3. 教員	4. 学生相談室																					
5. 学務(教務)係	6. その他																					
7. 誰にもしない																						
43 *	【全員】 あなたは、クーリング・オフの制度について知っていますか。	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. はい</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td>2. いいえ</td> <td></td> </tr> </table> <p>※クーリング・オフとは 普通、一度成立した契約は一方的に解消できないが、分割払いの割賦販売、セールスマンによる訪問販売などで勧誘にのせられ、つい不要なものの購入契約をした消費者が、一定の期間(通常8日間)内なら違約金無しに契約の解除(契約申し込みの解除)ができるという制度。</p>	1. はい		2. いいえ																	
1. はい																						
2. いいえ																						
44 *	【全員】 あなたは、これまで迷惑行為を受けたことがありますか。 (複数回答可)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 受けたことはない</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td>2. 悪徳商法に引っかかった</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. いたずら電話を受けた</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. ストーカーにあった</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 大学内でセクハラを受けた</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 大学内でアカハラを受けた</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. サークルを辞めようとしたが、辞めさせてもらえなかった</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. サークル内でいじめ(嫌がらせを含む)を受けた</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. カルトの勧誘を受けた</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. その他</td> <td></td> </tr> </table> <p>(※「2」～「10」を選んだ方：マークカードの裏面の自由記入欄に具体的内容を書いてください)</p> <p>※アカハラ(アカデミック・ハラスメント)とは 大学などで、指導教員等が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。</p>	1. 受けたことはない		2. 悪徳商法に引っかかった		3. いたずら電話を受けた		4. ストーカーにあった		5. 大学内でセクハラを受けた		6. 大学内でアカハラを受けた		7. サークルを辞めようとしたが、辞めさせてもらえなかった		8. サークル内でいじめ(嫌がらせを含む)を受けた		9. カルトの勧誘を受けた		10. その他	
1. 受けたことはない																						
2. 悪徳商法に引っかかった																						
3. いたずら電話を受けた																						
4. ストーカーにあった																						
5. 大学内でセクハラを受けた																						
6. 大学内でアカハラを受けた																						
7. サークルを辞めようとしたが、辞めさせてもらえなかった																						
8. サークル内でいじめ(嫌がらせを含む)を受けた																						
9. カルトの勧誘を受けた																						
10. その他																						
45 *	【問44で「5」又は「6」を選んだ方】 誰に相談しましたか。	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 友人</td> <td style="width: 50%;">2. 家族</td> </tr> <tr> <td>3. 教員</td> <td>4. 学生相談室</td> </tr> <tr> <td>5. 学務(教務)係</td> <td>6. その他</td> </tr> <tr> <td>7. 誰にもしない</td> <td></td> </tr> </table>	1. 友人	2. 家族	3. 教員	4. 学生相談室	5. 学務(教務)係	6. その他	7. 誰にもしない													
1. 友人	2. 家族																					
3. 教員	4. 学生相談室																					
5. 学務(教務)係	6. その他																					
7. 誰にもしない																						

46 *	【全員】 学生相談室を利用したことがありますか。	1. 利用したことがある 2. 学生相談室があるのは知っているが、利用したことはない 3. 学生相談室があるのを知らない
47 *	【全員】 あなたは、今年度中に教員と話や質問をしたことがありますか。	1. 全くない 2. 1回はある 3. 2～3回程度したことがある 4. 4～6回程度したことがある 5. 7回以上したことがある
48 *	【全員】 あなたには、親しい教職員や親しい友人はいますか。 〈複数回答可〉	1. 親しい教職員がいる 2. 親しい友人がいる 3. 親しい教職員も親しい友人もない
49 *	【全員】 大学事務室の対応に満足していますか。	1. 満足している 2. ほぼ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である
50 *	【全員】 あなたは、入学以来、盗難（盗み）、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。 〈複数回答可〉	1. 被害に遭ったことはない 2. 盗難（盗み） 3. 強盗 4. 傷害 5. 痴漢 6. その他
51 *	【問50で「2」～「6」を選んだ方】 あなたは、どこで被害に遭いましたか。 〈複数回答可〉	1. 大学構内 2. 自宅、アパート 3. 路上 4. その他

G. 修学状況について

52 *	【全員】 あなたが本学を選んだ主な動機は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 地元の大学だから 2. 親や親戚に進められたから 3. 高校の進学指導による 4. 希望する学部・学科があったから 5. 就職等将来を考慮して 6. 国立大学だから 7. ただ何となく 8. 先輩や友人に勧められて 9. その他
---------	---	---

53 *	【全員】 あなたは所属している学部・学科に満足していますか。	1. 満足している 2. ほぼ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である
54 *	【全員】 これまでの単位の取得状況はどうですか。	1. 全部取得できた 2. ほとんど取得できた 3. 半分程度取得できた 4. あまり取得できなかった 5. 全く取得できなかった
55 *	【全員】 授業によく出席していますか。	1. 全部出席している 2. ほとんど出席している 3. 出たり出なかつたりしている 4. ほとんど出席していない 5. 全く出席していない
56 *	【問 55 で「3」～「5」を選んだ方】 授業を欠席する理由はどれに当たりますか。 〈複数回答可〉	1. 勉学の意欲がわからない 2. 授業に魅力がない 3. 授業が理解できない 4. その他
57 *	【問 56 で「3」を選んだ方】 あなたは、授業内容が理解できなかった場合、どのようにしていますか。 〈複数回答可〉	1. 教室で質問する 2. 教員に後で個人的に質問する 3. 先輩・友人と議論・相談する 4. 参考書等で調べる 5. 気になるけど何もしない 6. 気にしない 7. その他
58 *	【全員】 あなたは、受講している授業に満足していますか。	1. 満足している 2. ほぼ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である
59 *	【問 58 で「3」～「5」を選んだ方】 授業が満足できない理由は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 授業内容が難し過ぎて理解できない 2. 授業内容がつまらない 3. 教員の教え方に工夫が足りない 4. 受講者が多すぎて精神集中できない 5. 休講が多すぎる 6. 試験・レポートが多すぎる 7. 単位認定が厳しすぎる 8. その他
60 *	【全員】 あなたは、1日平均何時間ぐらい授業の予習・復習をしていますか。 ただし、試験期間中は除いてください。	1. 1時間未満 2. 1時間以上～2時間未満 3. 2時間以上～3時間未満 4. 3時間以上～4時間未満 5. 4時間以上～5時間未満 6. 5時間以上

61 *	【全員】 あなたは、カンニングをしたことがありますか。	1. はい 2. いいえ
62 *	【全員】 オフィスアワーを利用したことがありますか。	1. 利用したことがある 2. オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない 3. オフィスアワーがない 4. オフィスアワーについて知らない
63 *	【問62で「2」を選んだ方】 オフィスアワーを利用しない主な理由は何ですか。	1. 講義内容を充分理解できるのでその必要がない 2. オフィスアワーの時間が短く利用しにくい 3. オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる 4. 教員に相談するのが面倒である 5. 講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない 6. その他
64 *	【全員】 図書館を利用していますか。	1. 毎日 2. 週2, 3回程度 3. 週1回程度 4. 月2, 3回程度 5. 月1回程度 6. 利用しない 7. その他
65	【問64で「6」以外を選択した方】 図書館を利用する主な目的は何ですか。 (複数回答可)	1. 図書等の貸し出し 2. 図書等の閲覧やコピー 3. 自習 4. グループ研究(学習) 5. パソコンの利用 6. 気分転換 7. 授業等の間の時間調整 8. その他

H. 課外活動について

66 *	【全員】 学内外のサークル(以下同好会を含む)に加入していますか。(文化系及び体育系サークルの両方に加入している人は、主として活動している方に回答してください)	1. 学内の文化系サークルに加入している 2. 学内の体育系サークルに加入している 3. 学外の文化系サークルに加入している 4. 学外の体育系サークルに加入している 5. 以前加入していたが現在は加入していない 6. 加入したことがない
67 *	【問66で「1」～「4」を選んだ方】 サークルでの活動状況はどうですか。	1. かなり熱心に活動している 2. まあまあ熱心に活動している 3. どちらともいえない 4. あまり活動していない 5. ほとんど活動していない 6. その他

68 *	【問66で「1」～「4」を選んだ方】 サークルに加入した主な動機は何ですか。	<ol style="list-style-type: none"> 1. サークルの活動内容に魅力があったから 2. 集団活動に魅力があったから 3. 友人を得るため 4. 先輩・友人に勧められたから 5. 学生生活を豊かにするため 6. 健康増進のため 7. 自分の特技を伸ばすため 8. 自分の短所を補うため 9. その他
69 *	【問66で「5」,「6」を選んだ方】 サークルに加入していない主な理由は何ですか。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業の妨げとなる 2. 練習がいやである 3. 活動するための体力・能力に自信がない 4. 個人の自由が束縛される恐れがある 5. 集団生活についていけない 6. アルバイトをしているので時間的余裕がない 7. 通学に時間がかかるので時間的余裕がない 8. 個人の金銭的負担が多すぎる 9. 魅力的なサークルがない 10. 特に理由はないが何となく
70 *	【全員】 新入生歓迎会や大学祭などの学生行事について、どのように考えていますか。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 必要だと考えており積極的に参加している 2. 必要だと思うがあまり参加していない 3. どちらでもいい 4. なくてもいい
71 *	【全員】 あなたは今年の大学祭に参加しましたか。	<ol style="list-style-type: none"> 1. はい 2. いいえ
72 *	【全員】 あなたは、大学入学後ボランティア活動をしたことがありますか。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人でしたことがある 2. 団体（組織）に入ってしまったことがある 3. ない

1. 進路・就職について

73 *	【全員】 進路を考える上での情報入手手段は何ですか。 (複数回答可)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導教員 2. 就職担当教員 3. 先輩・知人 4. 直接会社に照会 5. 就職情報誌・新聞・マスコミ 6. 家族等 7. 大学内資料 8. インターネット 9. キャリア支援センターの情報 10. その他
74 *	【全員】 就職希望ですか。進学希望ですか。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就職 2. 進学 3. その他

75 *	【問74で「1」を選んだ方】 就職先選択で重視するものは何ですか。 〈複数回答可〉	1. 収入 2. 就職先の将来性・安定性 3. 就職先の社会的評価 4. 能力を発揮できること 5. 勤務地の地理的条件 6. 研究評価をしてもらえるところ 7. 先端技術を駆使しているところ 8. 人間関係の良いこと 9. その他
76 *	【問74で「1」を選んだ方】 就職に際して、会社等の情報をどのように入手しましたか。 〈複数回答可〉	1. 就職担当教員 2. キャリア支援センターの情報又は就職相談員 3. 新聞・就職情報誌 4. インターネット 5. ダイレクトメール 6. 直接会社等に照会 7. 会社等説明会 8. 先輩・知人 9. 親・親戚 10. その他
77 *	【問74で「1」を選んだ方】 希望職種は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 大学・官公庁の教育・研究職 2. 1以外の公務員 3. 技術職 4. 企業等の研究職 5. 総合職・営業職 6. 事務職 7. 教育職 8. 専門職(医師・看護師等) 9. マスコミ関係 10. その他
78 *	【全員】 大学が行う就職セミナーに参加しますか。	1. 参加する 2. 時間があれば参加する 3. 参加しない
79 *	【全員】 本学のキャリア支援センターを利用したことがありますか。	1. 現在も利用している 2. 以前に利用したことがある 3. 利用したことがない

ご協力ありがとうございました

第1章 住居・通学について

1-1 住居区分 (図1-1)

全体として最も多いのがアパートとマンション(57%)、次いで自宅(28%)となっている。他に間借り(下宿)12%、学生寮2%、親戚・知人宅1%となっている。全体としては前回調査と比べて変動は小さい。学部別に見ると、総合科学部の自宅割合が高く、薬学部でその割合が小さい。総合科学部については前回に比べて5ポイント自宅の割合が減少しているが、アパート等の割合は変わらず、間借りが4%増えている。総合科学部の変動については、今回のアンケート回収率が改善されていることも影響しているのかもしれない。薬学部においても間借りは3ポイント上昇しているが、前回に比べて有意な差があるわけではない。工学部についても大きな変動はない。今回の調査で目に付くのは、歯学部の自宅割合が有意に増えていることである(前回19%)。今後、その動向を慎重に見極める必要があると思われる。

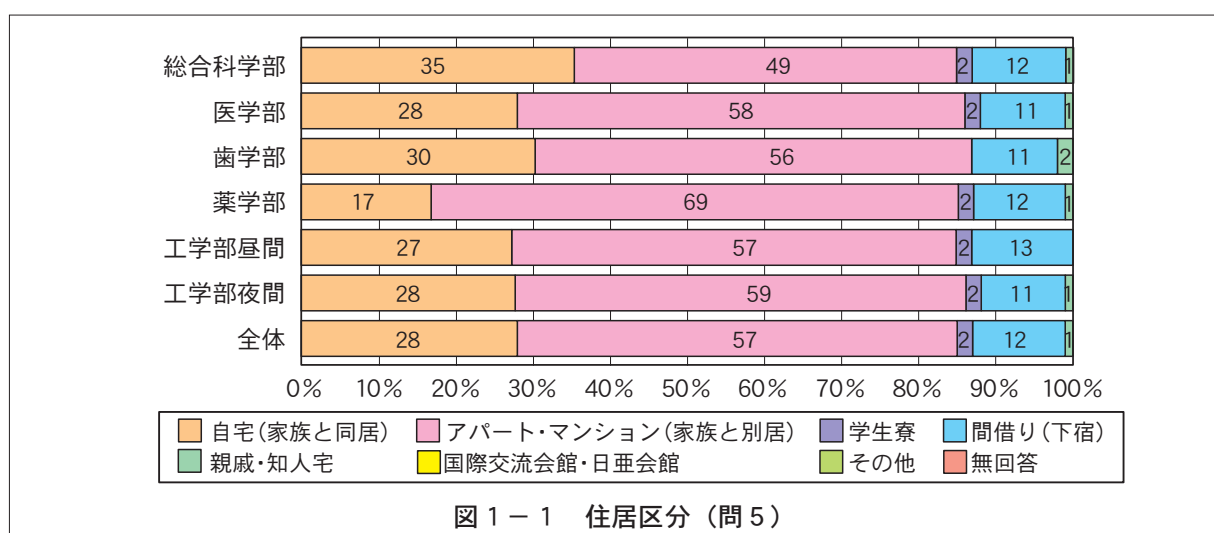


図1-1 住居区分(問5)

1-2 1か月の家賃 (図1-2)

全体として5万円未満の割合が86%であり、前回の調査から4ポイント増加している。学部ごとに家

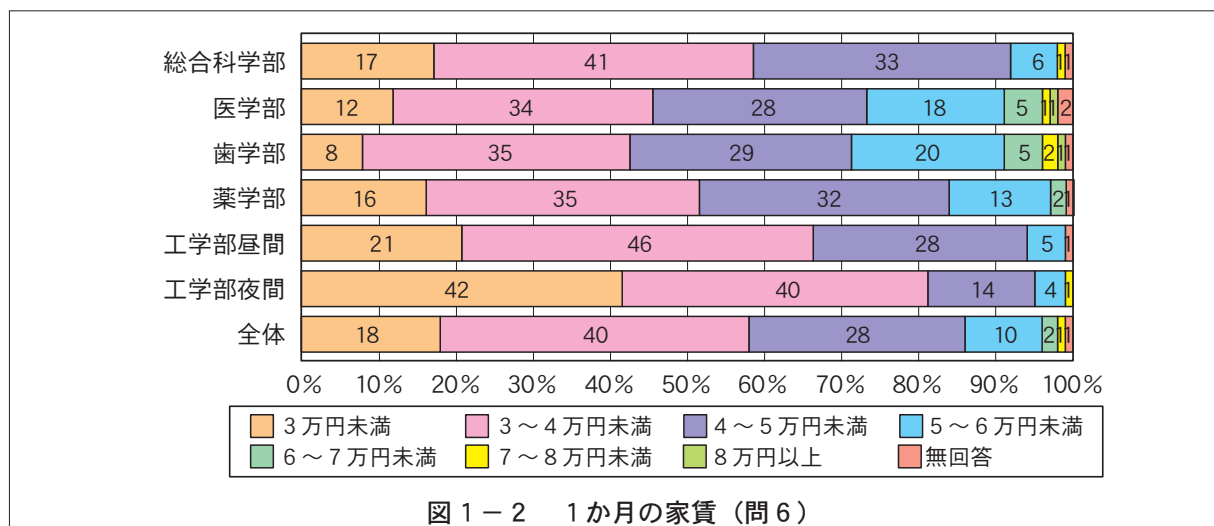


図1-2 1か月の家賃(問6)

賃支出の割合が大きく異なり、総合科学部と工学部では4万円未満の物件の割合が多いが、医学部、歯学部、薬学部では4万円以上の物件が半数を超えるか、あるいは半数に近い。これは、蔵本周辺の家賃相場や学生の家庭状況を反映している可能性もある。いずれにせよ、家賃支出が抑えられる傾向が続いているようである。

1-3 住居満足度 (図1-3①, 図1-3②)

自宅や学生寮等以外の、アパート等に住んでいる自宅外通学者における住宅満足度では、「満足している」が42%あり、「ほぼ満足している」が34%で合計は76%となる。不満を感じている場合は、その半数が「狭い」ことをあげている。続いて「日常生活に不便(30%)」、「周りの環境がよくない(25%)」と続く。これらは家賃支出が抑えられ気味であることと連動していると思われる。住宅を斡旋する業者、とりわけ大学生協に対しては、物件情報の積極的な開示と、個別学生のニーズにより耳を傾けてもらうことを期待したい。

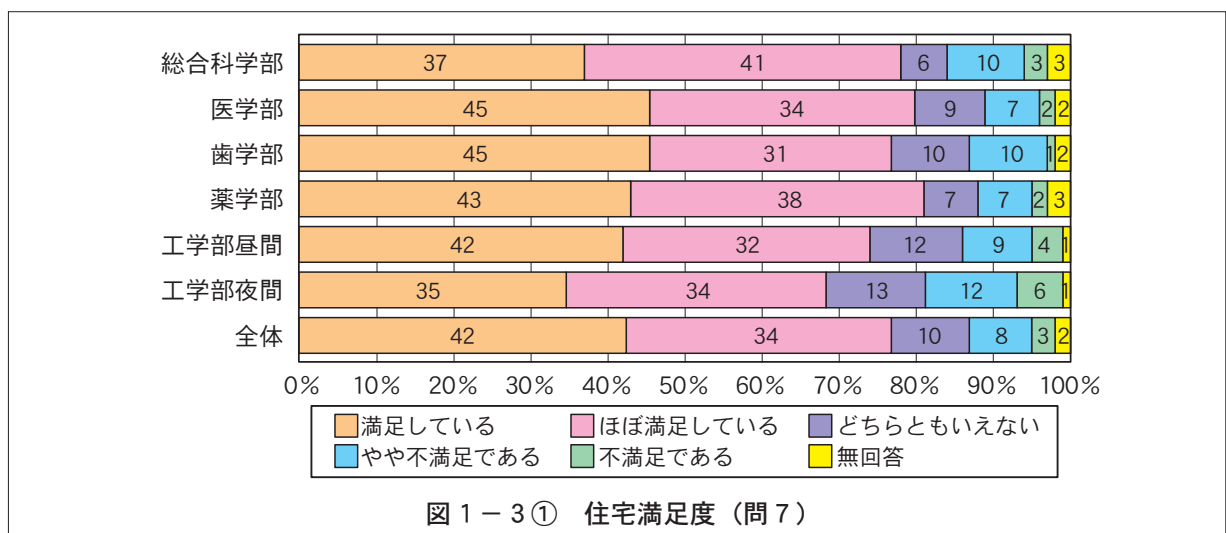


図1-3① 住宅満足度 (問7)

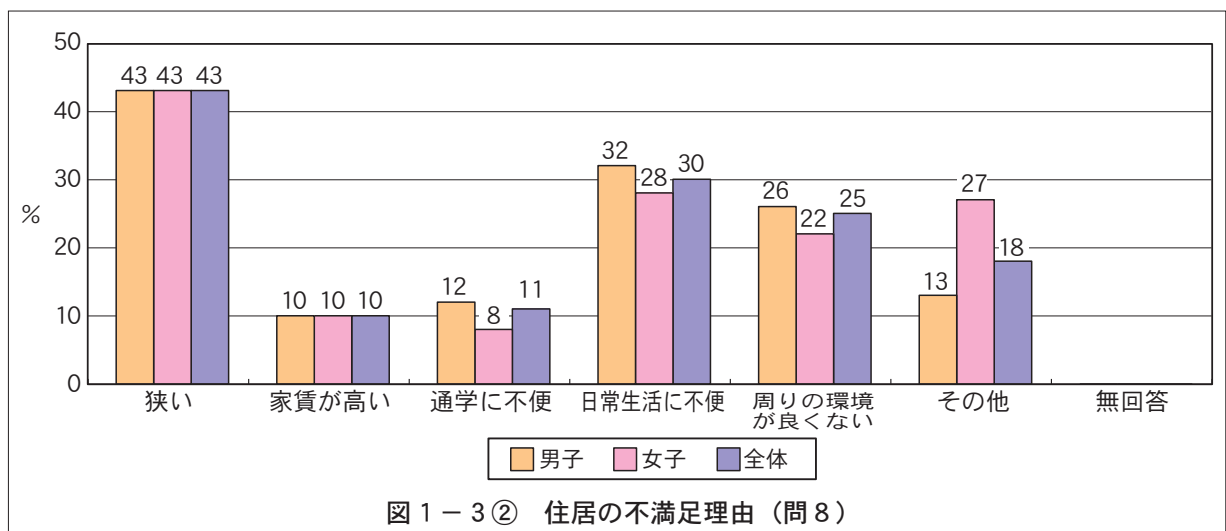
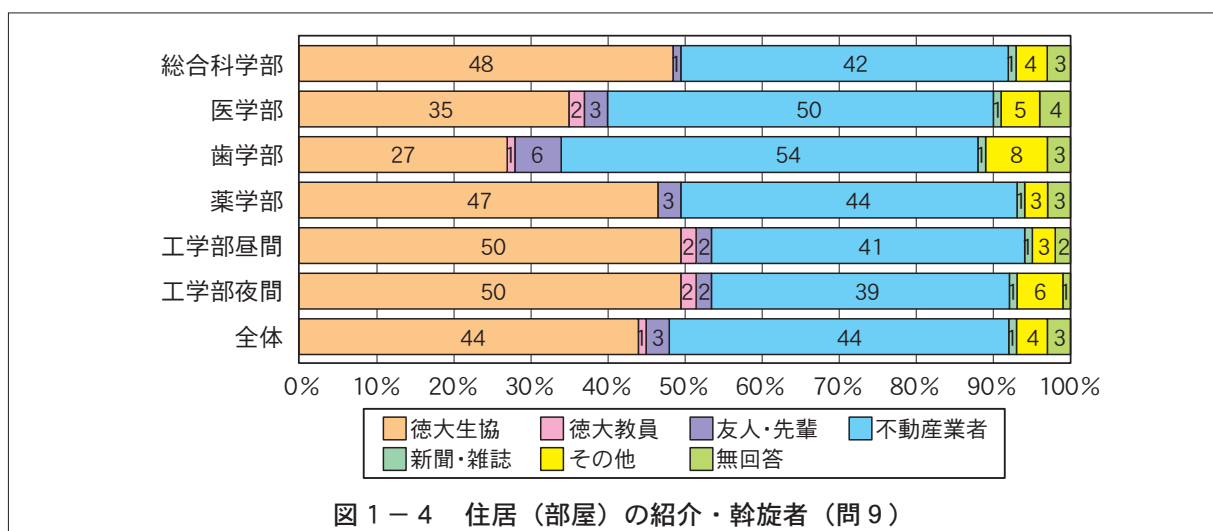


図1-3② 住居の不満足理由 (問8)

(※問8は複数回答のため合計は100%にはならない。)

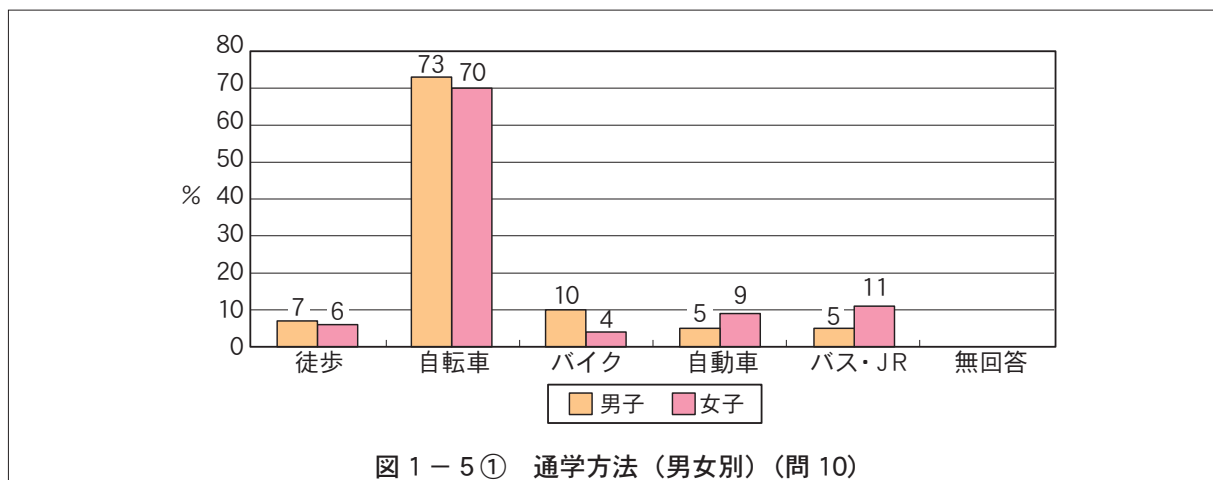
1-4 住居（部屋）の紹介・斡旋者（図1-4）

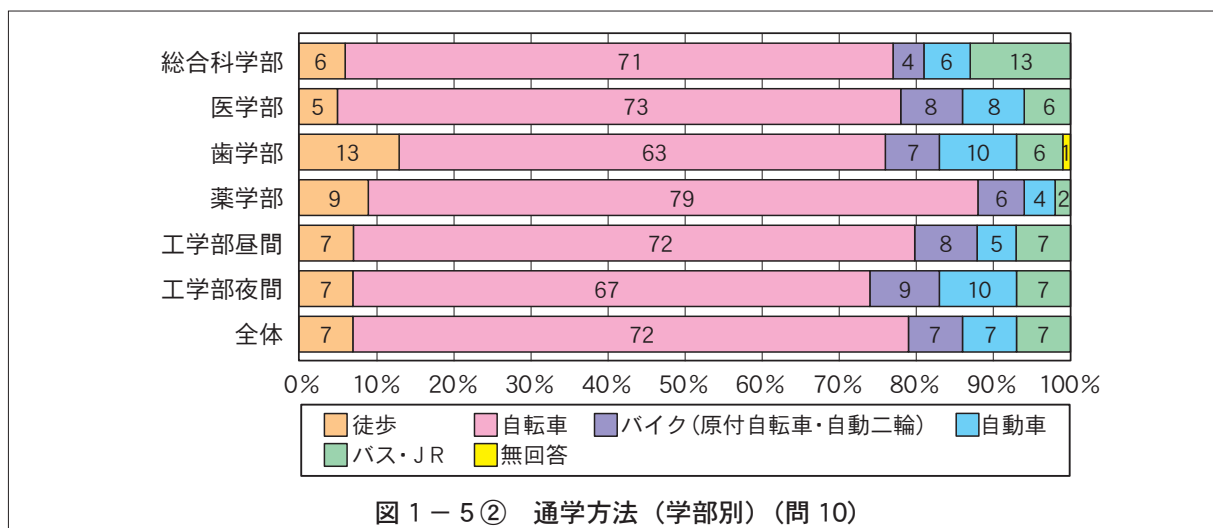
学生寮を除く自宅外通学者の住宅斡旋は、全体では徳島大学生協が44%、不動産業者が44%となっており、大学生協の果たす役割が非常に大きい。個別にみると、医学部と歯学部については不動産業者の斡旋割合が高い。これはアンケート項目1-2で医学部、歯学部の学生の場合、家賃が比較的高額な物件の割合が高いことと相関していると考えられる。いずれにせよ、住居の紹介・斡旋において徳大生協のシェアが高いことから、生協に対しては、前項の「住居の不満足理由」に関連する情報の提供など、より積極的な協力を期待したい。



1-5 通学方法（図1-5①, 図1-5②）

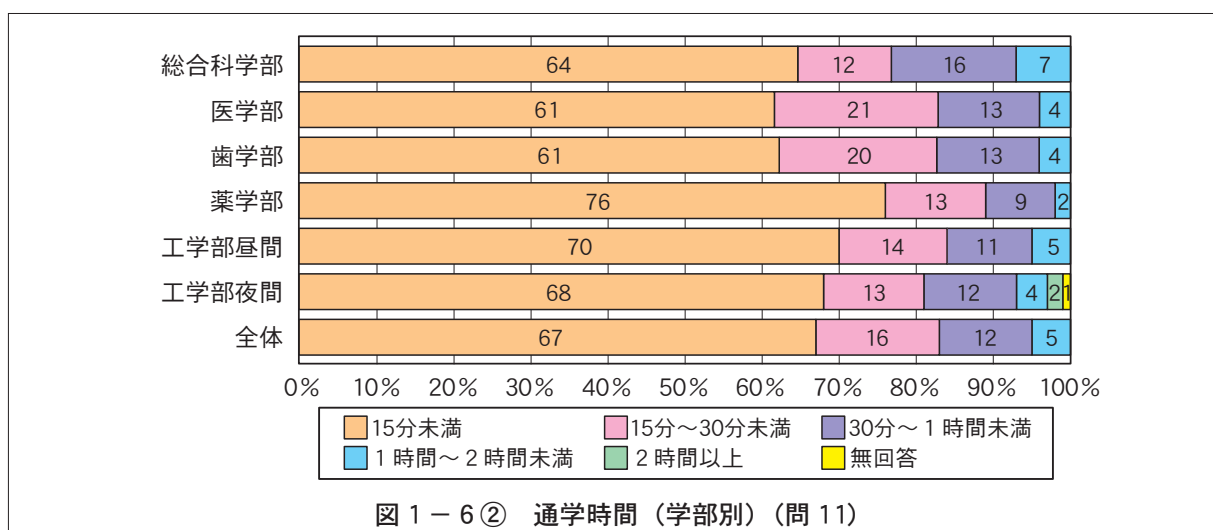
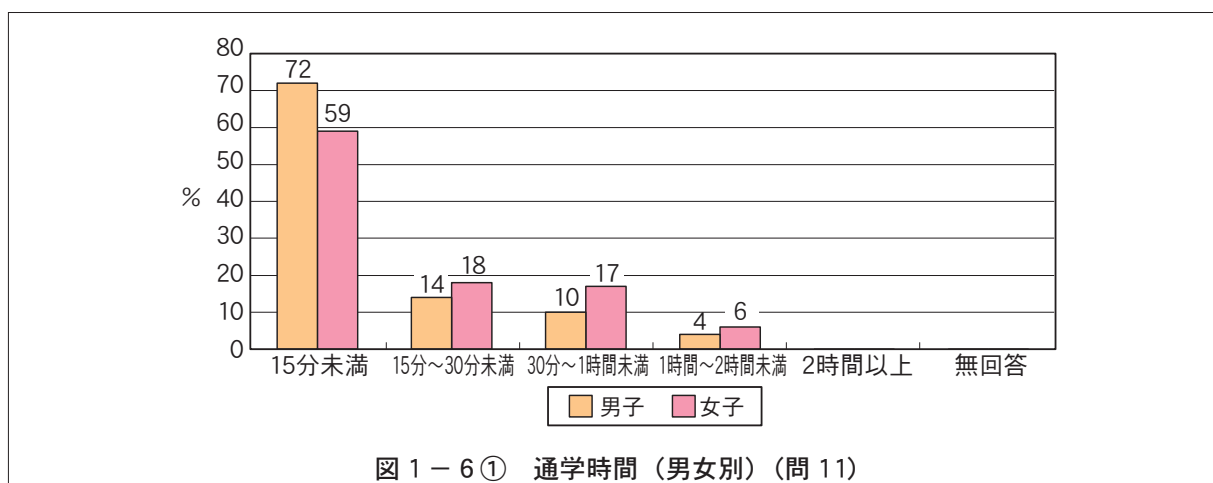
全体としては自転車72%で主要な通学手段であることに変化はない。徒歩、バス・JR、バイク、自動車通学については、いずれも7%である。男女別にみると男子では自転車、バイク、徒歩、自動車、バス・JRと続き、女子は自転車、バス・JR、自動車、徒歩、バイクの順である。学部別では、県内出身者の多い総合科学部でバス・JRの利用者が多く（13%）、歯学部では徒歩通学者の割合がやや高い（13%）ことがわかる。なお工学部夜間主で徒歩とバイクの割合が減り、自動車通学者が増えている。





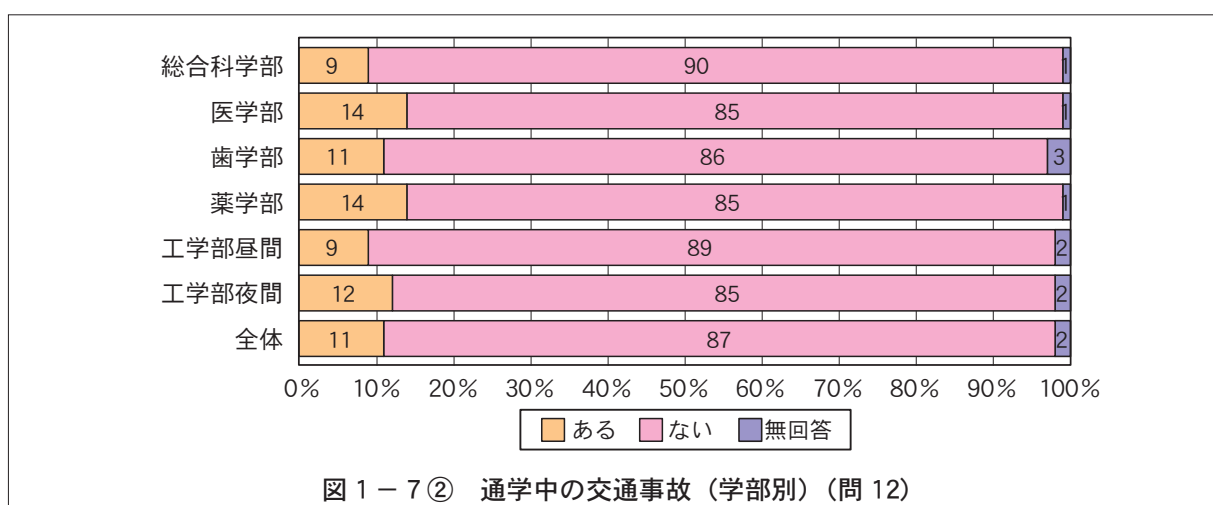
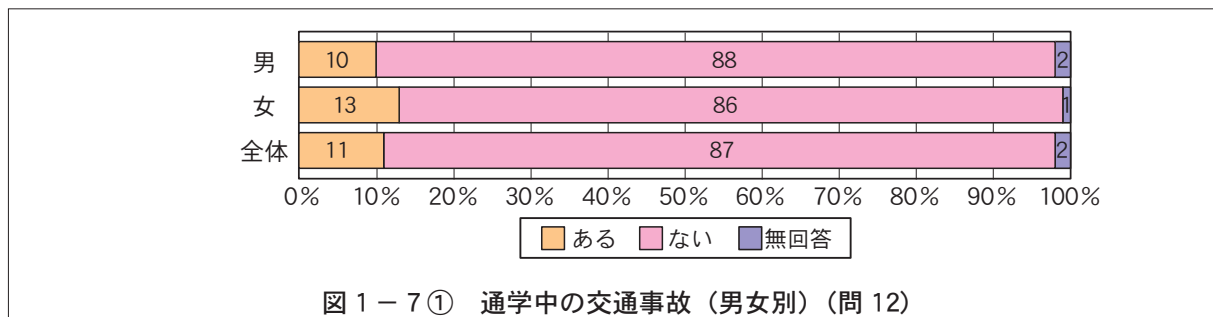
1-6 通学時間 (図 1-6①, 図 1-6②)

通学時間 15分未満が67%と最も多く、15分-30分未満をあわせると83%となり、ほとんどの学生は通学時間が30分未満と短い。なお通学時間が15分を超えるとする回答では、女子の割合が男子より高い傾向が、引き続き認められる。



1-7 通学中の交通事故 (図1-7①, 図1-7②)

交通事故を起こしたか被害に遭った学生の割合が前回の調査と同じ11%にのぼり、少ないとはいえな
い。平成24年12月に改正道路交通法が施行され、自転車に対する規制が厳格化されており、今後さら
に自転車通学者への安全指導に力を入れる必要がある。



第2章 収入・支出について

2-1 家庭の年収 (図2-1)

前々回より、授業料免除や奨学金貸与の参考資料とするために、年収の低いグループ（年収500万円未満のグループ）について細かく分析しており、今回も前回同様250万円未満と250～500万円未満と細かい項目に分けて調査を行った。

家庭の年間収入について、大学全体では250万円未満（9%）、250～500万円（20%）と500～750万円（32%）までで約60%を占め、次いで750～1000万円（19%）、1000～1500万円（9%）、1500万円以上（4%）である。前回の調査時に比べてほとんど変化していないが、無回答の者が6%あった。前回、前々回と比べても大きい変化ではないが、この数年間の日本全体の景気が依然として厳しい状況であることを反映したものと考えられる。

なお、この設問においては、学生が家庭の年収をどの程度まで正確に把握しているかという問題点もあることを念頭に置いておく必要があるが、大まかにはその分布が反映されていると思われる。

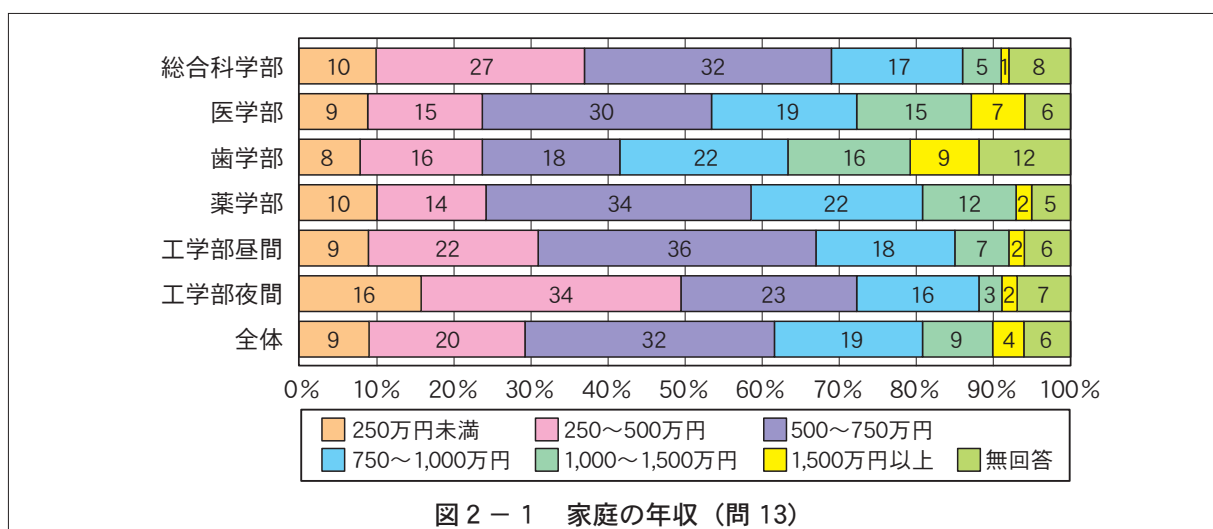


図2-1 家庭の年収 (問13)

学部別に見ると、歯学部学生の家庭は高収入であるが、それでも年収250万円未満の家庭が8%、年収250～500万円でも16%ある。工学部夜間では年収250万円未満が16%と他の学部と比べて多い。これは前回とほぼ同様であった。年収500万円未満合計は50%を占めていたが、前回の55%より若干減少していた。全体では年収250万円未満が9%、実数377名で、年収250～500万円の20%、実数824人と併せて実に1,201名になり、前回調査より87名増えている。

2-7で出てくる「経済状況」において「大変苦しい」と答えている学生の多くは、年収500万円未満のグループに属すると考えられる。

2-2 授業料の免除について (年収が500万円未満の家庭)

(図2-2①, 図2-2②)

授業料の免除状況について、年収が250万円未満の家庭では、「授業料免除は知っているが申請していない」が前回調査と同じく41%であり、「授業料免除を受けている」割合が合計で38%になり前回より3%増加している。また、「申請したが不許可だった」が11%であった。収入的には十分授業料免除対象になると思われるが、免除には成績も加味されるため、アルバイト等で勉学に専念できず、不許可に

なった可能性は高い。1回は成績に関係なく授業料免除を行って、それ以降は成績を加味するといった制度であっても良いのかもしれない。

年収が250～500万円未満の家庭では、「授業料免除は知っているが申請していない」が55%で、「授業料免除制度を知らなかった」が11%あり、授業料免除を申請していない割合が合計で66%になっている。これに対して、「全額免除を受けている」が15%、「半額免除を受けている」9%であった。また、「申請したが不許可だった」が9%であった。

年収500万円未満の家庭での、「授業料免除制度を知らなかった」が、全体で10%もいたことは問題で、周知方法を考える必要がある。

「授業料免除は知っているが申請していない」は41～55%と大変多いようであるが、なぜなのか調査する必要がある。一度申請したが成績で「不許可」になったのだとしたらより一層、一度の受給は検討してみる価値があると思える。

学部別では、薬学部で「授業料免除は知っているが申請していない」の割合が41%で、大学全体の51%と比較して少なくなっている。歯学部は、「申請したが不許可だった」の割合が16%で、大学全体の9%と比較して多くなっている。

「授業料免除制度を知らなかった」が、歯学部は6%と他学部に比して低く、制度の周知が徹底されている。

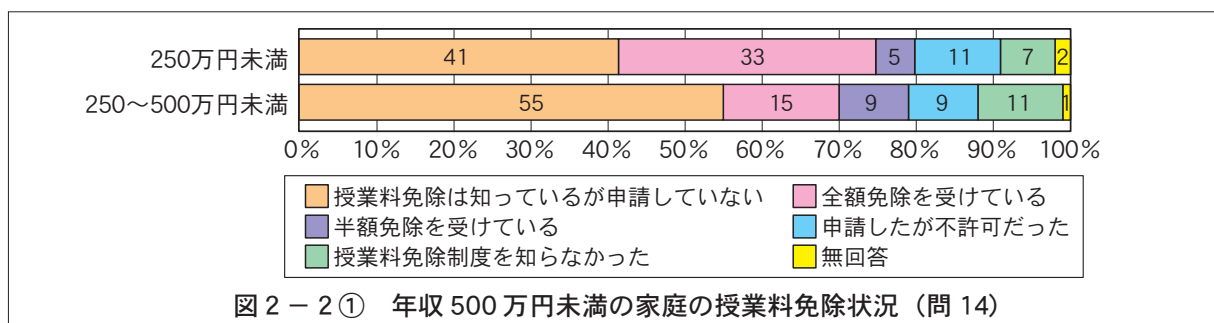


図 2-2① 年収500万円未満の家庭の授業料免除状況 (問14)

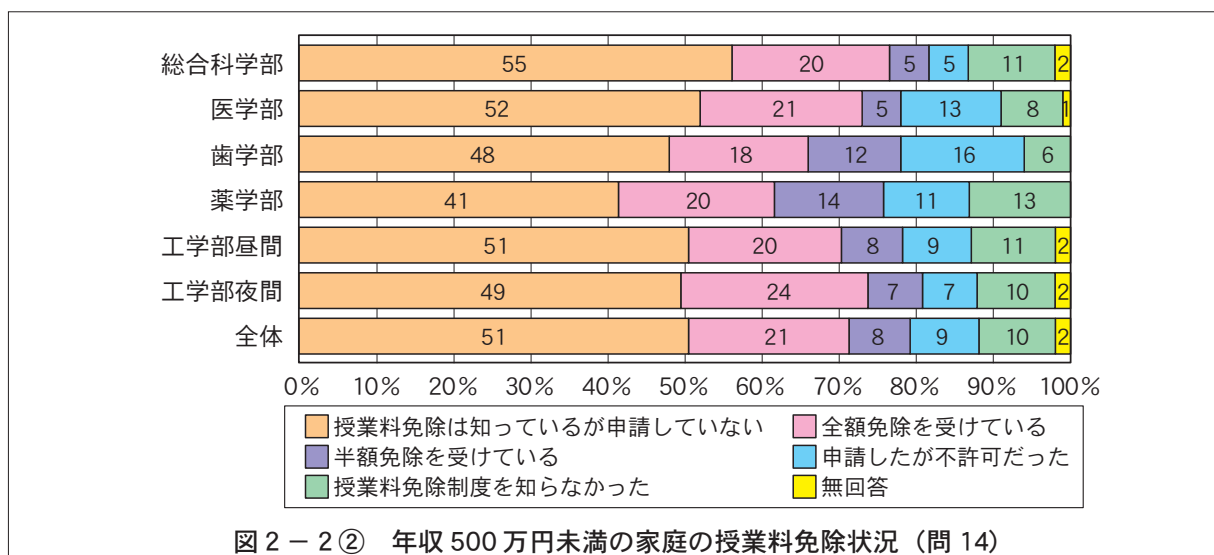


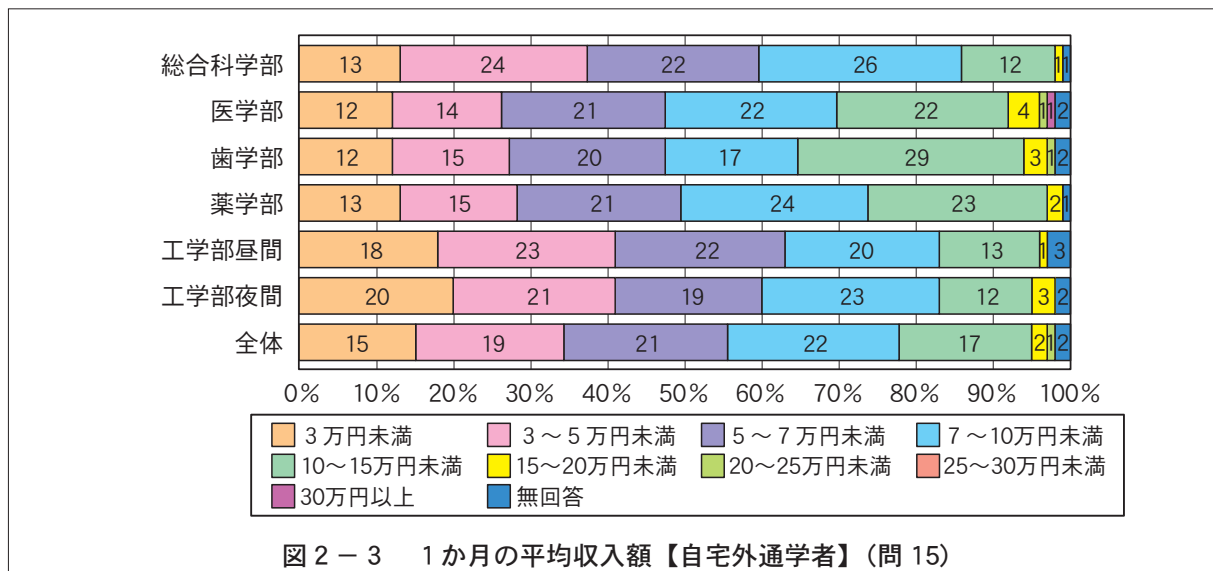
図 2-2② 年収500万円未満の家庭の授業料免除状況 (問14)

2-3 1か月の平均収入額【自宅外通学者】(図2-3)

全体では、自宅外通学者の1か月の平均収入(保護者等からの援助を含む)の最も多い区分は7～10万円未満の22%で、続いて5～7万円未満の21%、3～5万円未満の19%、10～15万円未満の17%であり、この4つの区分(3～15万円未満)で79%を占めている。また、3万円以下の区分は15%、

15万円以上の区分は3%である。前回の調査結果では、1カ月の平均収入額が、3万円未満が13%、3～5万円未満の区分が19%、5～7万円未満の区分が19%、15万円以上の区分が5%であったが、今回の調査では5万円以下の区分が若干増加している。15万円以上の区分の割合はやや減少していた。

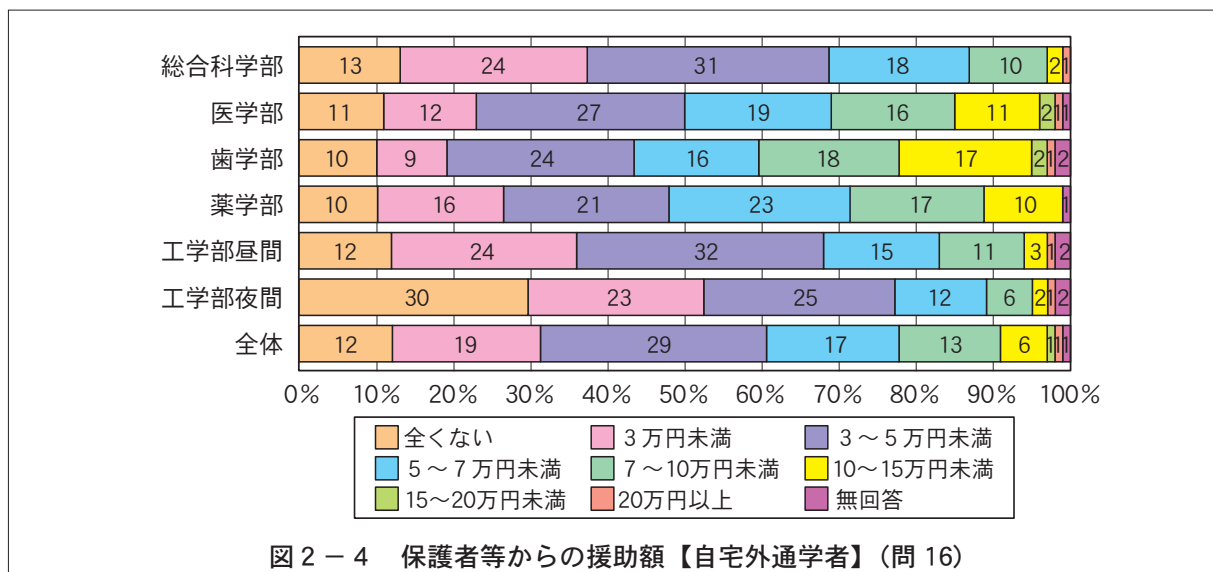
学部別では、医学部と歯学部で、10万円以上の区分の割合が合計で28～33%と多い。また、工学部（夜間）で3万円以下の割合が20%と高かった。



2 - 4 保護者からの援助額【自宅外通学者】(図 2 - 4)

今回の調査では自宅外通学者のみを対象にしているが、大学全体で、保護者からの援助額で最も多い区分は3～5万円未満の29%である。続いて3万円未満の19%、5～7万円未満の17%になっている。また、「援助が全くない」学生が12%おり、10万円以上援助を受けている学生は約8%いる。

学部別では、7万円以上保護者から援助を受けている学生が、医学部と歯学部では30%を超えている。工学部の夜間では、3万円未満の区分が23%で、「全く援助を受けていない」の30%と合わせると3万円以下の援助となる学生が50%を超えている。これは、仕事やアルバイトなどにより収入がある学生が多いためと思われる。



2-5 1か月の平均支出額【自宅外通学者】(図2-5)

この項目でも自宅外通学者のみを対象にしているが、大学全体で、1か月の平均支出額（授業料支出は除く）で最も多い区分は3～5万円未満の30%で、続いて5～7万円未満の26%、3万円未満の19%になっている。これらの3つの区分を合わせた場合（7万円未満）では75%になる。また、10万円以上の区分が8%で、前回調査（11%）に比べてやや減少し、3万円以下の区分が19%（前回14%）と増加している。

学部別では、医学部、歯学部、薬学部で、1か月に7万円以上支出している学生が30%を超えているが、総合科学部と工学部（昼間）では17～19%で、やや割合が少なくなっている。また、自宅外通学者で3万円未満の平均支出額の学生が、学部によって異なるが10～26%おり、このことから学生の1～3割弱は、支出を切り詰めていることが分かる。これらの学生への援助が必要と思われる。

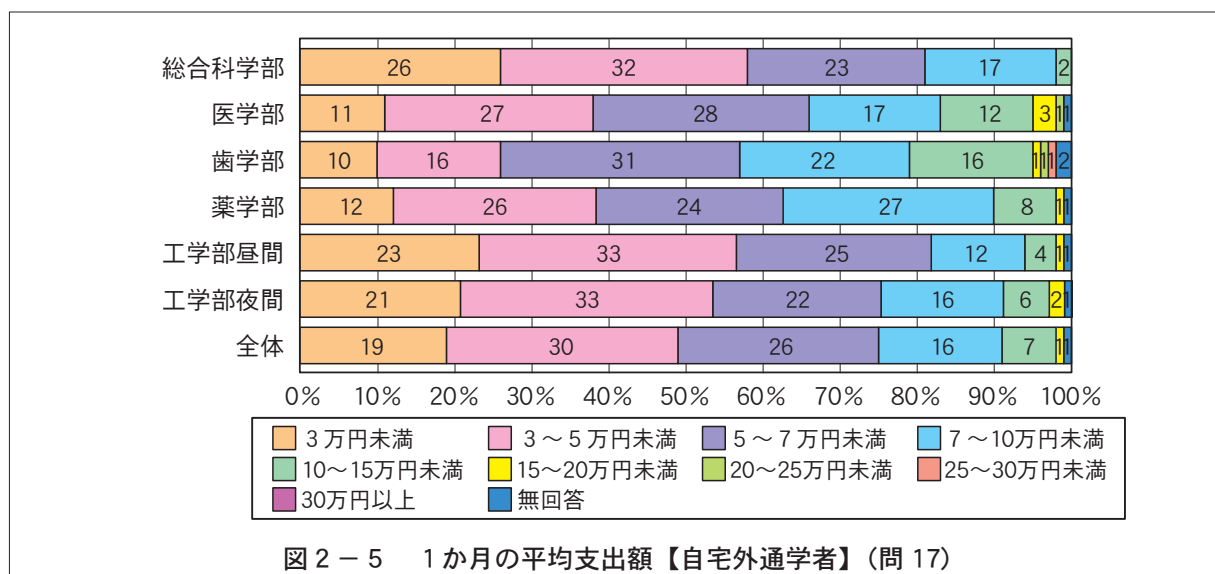


図2-5 1か月の平均支出額【自宅外通学者】(問17)

2-6 1か月の平均の食費【自宅外通学者】(図2-6)

次に、1か月の平均の食費についてであるが、この項目も自宅外通学者を対象にしている。大学全体では、「2～3万円未満」の区分41%が最も多く、「2万円未満」が35%、「3～4万円未満」が17%と続いている。これらの3つの区分を合わせると、4万円未満の区分が約93%になる。また、逆に3万

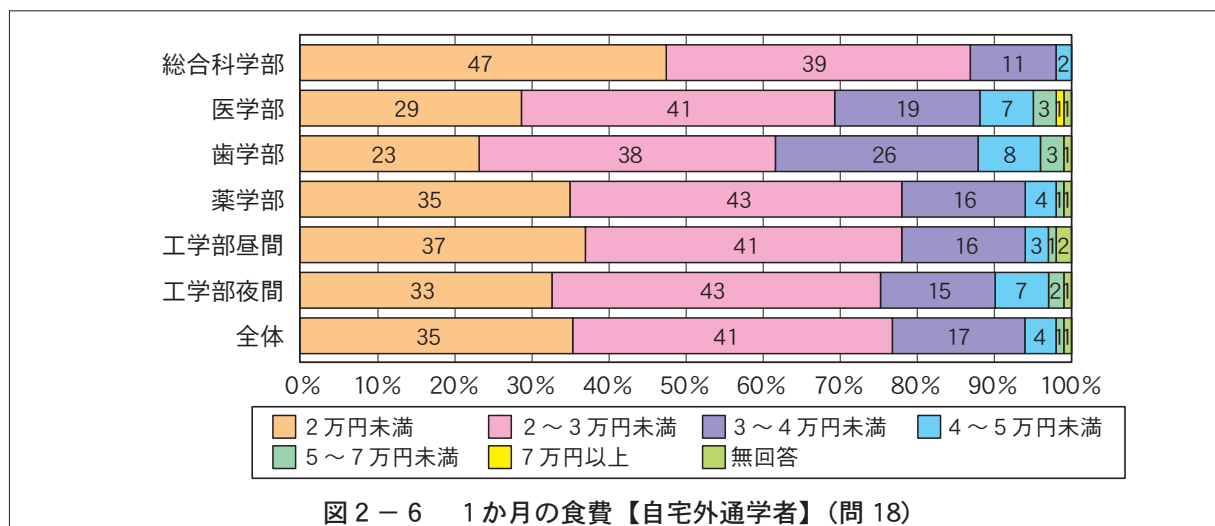


図2-6 1か月の食費【自宅外通学者】(問18)

円以上の区分を合計すると約 22%になる。

前回の調査では、「2～3万円未満」が最も多く 41%、「2万円未満」が 32%、「3～4万円未満」が 18%、「4～5万円未満」が 6%であった。

学部別では、歯学部では 3万円以上が合計で 37%になっており、他学部と比較すると食費を多く支出していることが分かる。

近年は、食事を削って他の支出へ回す学生も多く、また、栄養食品に頼る学生も増加している。健康な学生生活を過ごすためには、食事をきちんととることが必要であり、食費の変化は今後とも注意していく必要がある。

2-7 経済状況 (図 2-7)

この項目からは自宅通学者も含めて全員が対象である。大学全体では、「普通(あまり不自由を感じない)」の区分が最も多く 49%となった。続いて、「ゆとりがある(家計支持者からの仕送りのみ)」が 16%となっている。また「大変苦しい(定期的なアルバイトが必要である)」と回答した学生が 9%おり、経済的に困っている学生が約 1割いることが分かる。

前回の調査では、全体で「普通(あまり不自由を感じない)」の区分が 49%、「やや苦しい」の区分が 26%、「ゆとりがある(家計支持者からの仕送りのみ)」が 15%、「大変苦しい(定期的なアルバイトが必要である)」と回答した学生が 9%で、今回の調査とほぼ同じ割合であった。

学部別では、歯学部で「ゆとりがある」と回答した学生が 20%でやや多く、また、工学部夜間で「大変苦しい」と回答した学生が 20%で多い。

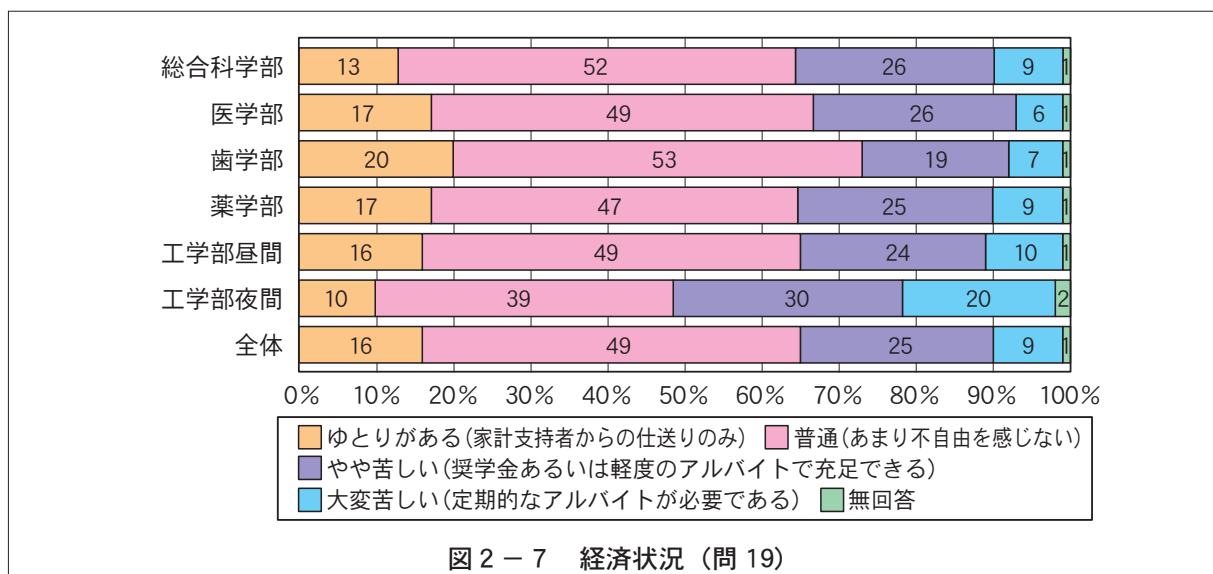
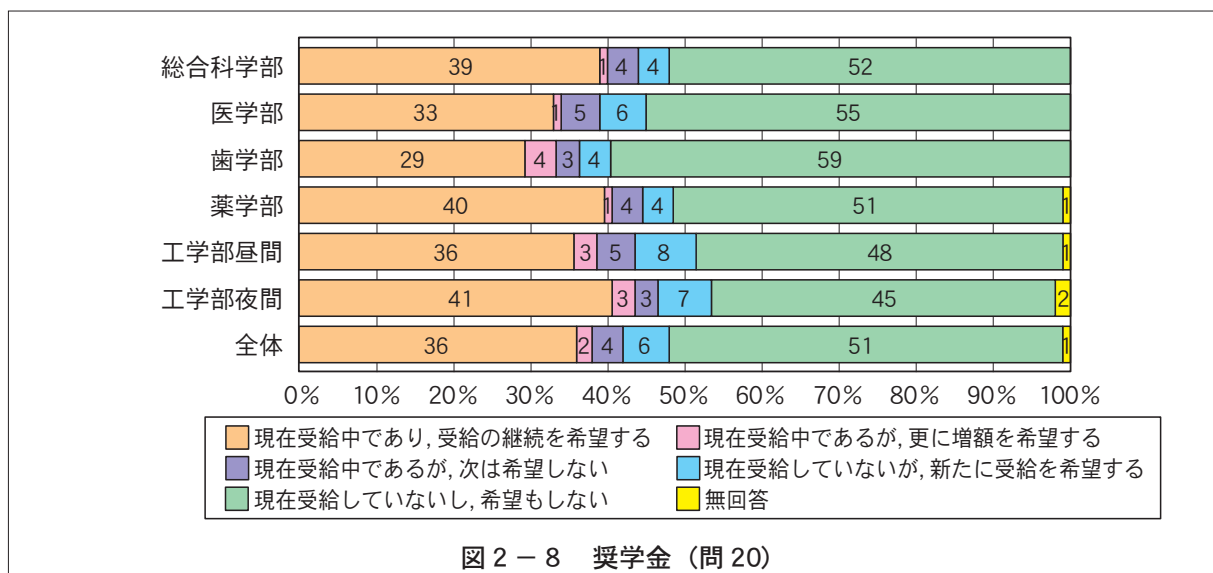


図 2-7 経済状況 (問 19)

2-8 奨学金 (図 2-8)

大学全体では、「現在受給中であり、受給の継続を希望する」が 36%あり、これに「現在受給中であるが、更に増額を希望する」2%と「現在受給していないが、新たに受給を希望する」6%を加えると、合計で 44%になる。すなわち 2人に 1人弱は奨学金の受給を今後も希望している。

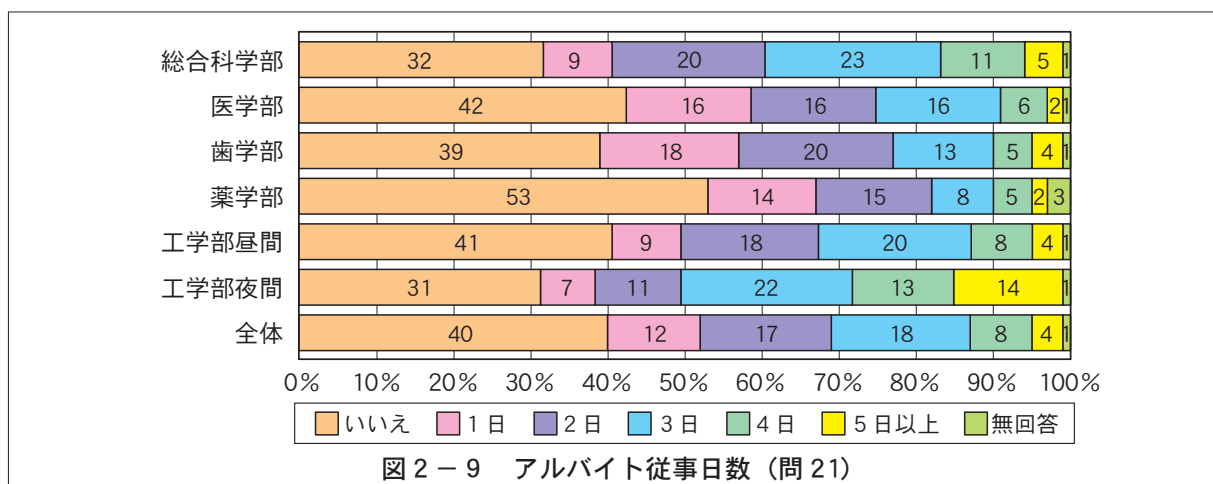
学部別では、工学部(昼間と夜間)で、他学部と比べて希望者がやや多くなっており、歯学部ではやや少なくなっている。



2-9 1週間のアルバイト従事日数 (図 2-9)

大学全体では、アルバイトをしていない学生の割合は40%で、アルバイトをしている学生の割合は、3日している割合が18%、2日している割合が17%、1日している割合が12%、4日している割合が8%で、5日以上が4%となった。アルバイトをしている学生の割合は合計で59%になり、半数以上の学生がアルバイトをしていることが分かる。この結果は前回の調査と同じである。

学部別では、アルバイトをしていない学生の割合が、薬学部で53%と多く、工学部夜間と総合科学部では31-32%で少なくなっている。

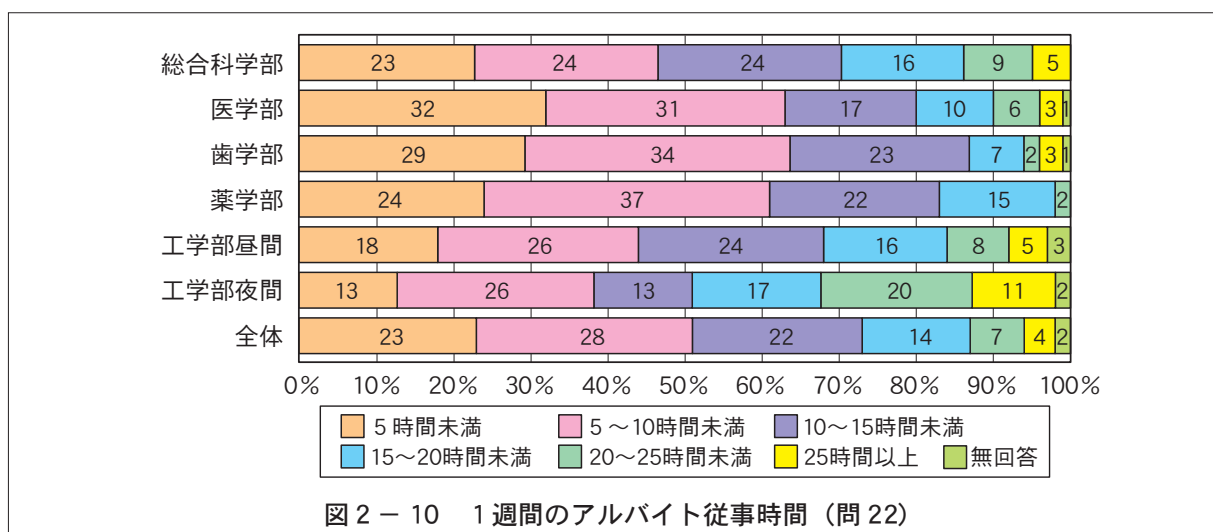


2-10 1週間のアルバイト従事時間数 (図 2-10)

問 21 で、アルバイトをしていると回答した学生に1週間のアルバイトの平均従事時間（移動に要する時間も含む）について尋ねた。大学全体では、5～10時間未満の割合が28%で最も多く、次いで5時間未満23%、10～15時間未満22%、15～20時間未満14%、20～25時間未満7%、25時間以上4%となった。1週間に5時間以上している割合を合計すると75%になり、アルバイトをしている学生の4人に3人が、平均して一日当たり5時間以上のアルバイトをしていることが分かる。

学部別では、工学部夜間で25時間以上が11%と多くなっているが、このコースの性格によるものと

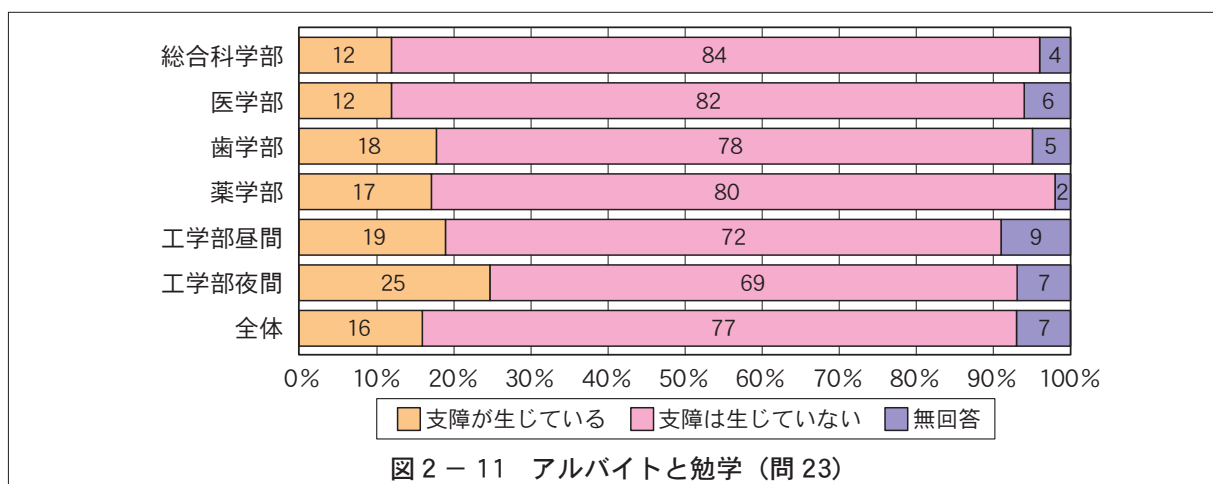
思われる。医学部では、5時間未満が32%であり、他学部と比較してアルバイトをしている時間数がやや少なくなっている。



2-11 アルバイトと勉強 (図 2-11)

アルバイトによって勉強に支障が生じているかを設問した結果である。大学全体では、「支障は生じていない」と答えた学生が77%で、「支障が生じている」と答えた学生は16%であった。「支障が生じている」の割合は、前回の調査と比較しても、変化はみられなかった。ただ、この「支障が生じている」と答えた学生の家庭の年収をみて、年収が低ければ授業料免除などが考えられる。

学部別では、工学部夜間で、「支障が生じている」と答えた学生が25%おり、他学部と比較して多くなっていた。前回調査が全体17%、工学部夜間23%であったことから、前回とあまり変わっていない。



2-12 アルバイトの目的 (図 2-12)

アルバイトの目的について、複数回答可能で設問をした結果である。男女を合わせた全体では、「日常の娯楽・嗜好品等のため」が50%、「生活費や学資のため」が45%で、この2つの割合が高い。その他は、「レジャー・旅行費のため」27%、「社会体験のため」18%などが目的としてあがっている。これらの傾向は、前回の調査とほぼ同じである。また、今回の調査で「生活費や学資のため」が全体で45%の割合になっており、2~7の経済状態に関する設問で、「やや苦しい」26%と「大変苦しい」9%を合わ

せた合計 35%の割合と、関連しているものと思われる。

男女の違いでは、女子では「レジャー・旅行費のため」が35%と「社会体験のため」が24%で割合が多くなっており、男子では「生活費や学費のため」が49%で割合が多くなっている。

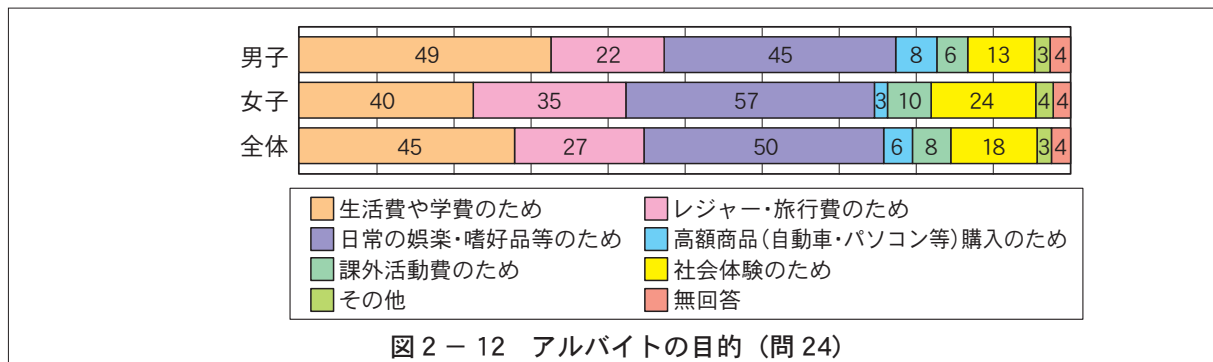


図 2 - 12 アルバイトの目的 (問 24)

(※問 24 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

2 - 13 アルバイトの種類 (図 2 - 13)

全体 (複数回答可能) では「飲食店等手伝い」が36%で最も多く、続いて「家庭教師・学習塾講師等」が33%、「受付・接客」が21%となっている。男女別でもほぼ同じ傾向で、この3つのアルバイトで割合が高い。

前回の調査では、全体で「飲食店等手伝い」が31%、「家庭教師・学習塾講師等」が28%、「受付・接客」が15%で、今回の調査と順位が同じであった。

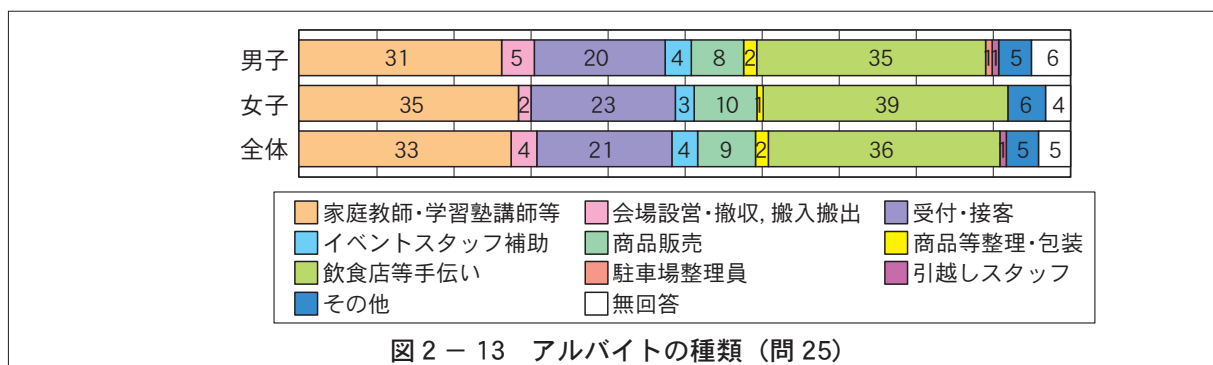


図 2 - 13 アルバイトの種類 (問 25)

(※問 25 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

2 - 14 アルバイト収入 (図 2 - 14 ①, 図 2 - 14 ②)

アルバイトによる学生の1ヶ月間の平均収入は、大学全体では、「3～5万円未満」が36%で最も多く、次いで「3万円未満」32%、「5～7万円未満」17%、「7～10万円未満」8%となっている。「10万円以上」も1%ほどの割合になっている。

学部別では、工学部夜間でアルバイトをしている学生の56%が「5万円以上」の収入を得ており、これはコースの特性によるものと思われる。一方、薬学部では「3万円未満」が52%で、アルバイトによる収入が少ない。また、「3万円未満」は医学部が37%、歯学部が45%で、これらの学部でもアルバイトによる収入は少ない。男女間で比較すると、女子は「3万円未満」で割合が多くなっており、男子は「5万円以上」の区分で女子に比べて割合が多くなっている。これは、男子は、2 - 12のアルバイトの目的で「生活費や学費のため」の割合が49%と、女子の40%と比較して多いことに関連して、アルバイトに多くの時間を費やしているか収入の多いアルバイトをしていることによるものと思われる。

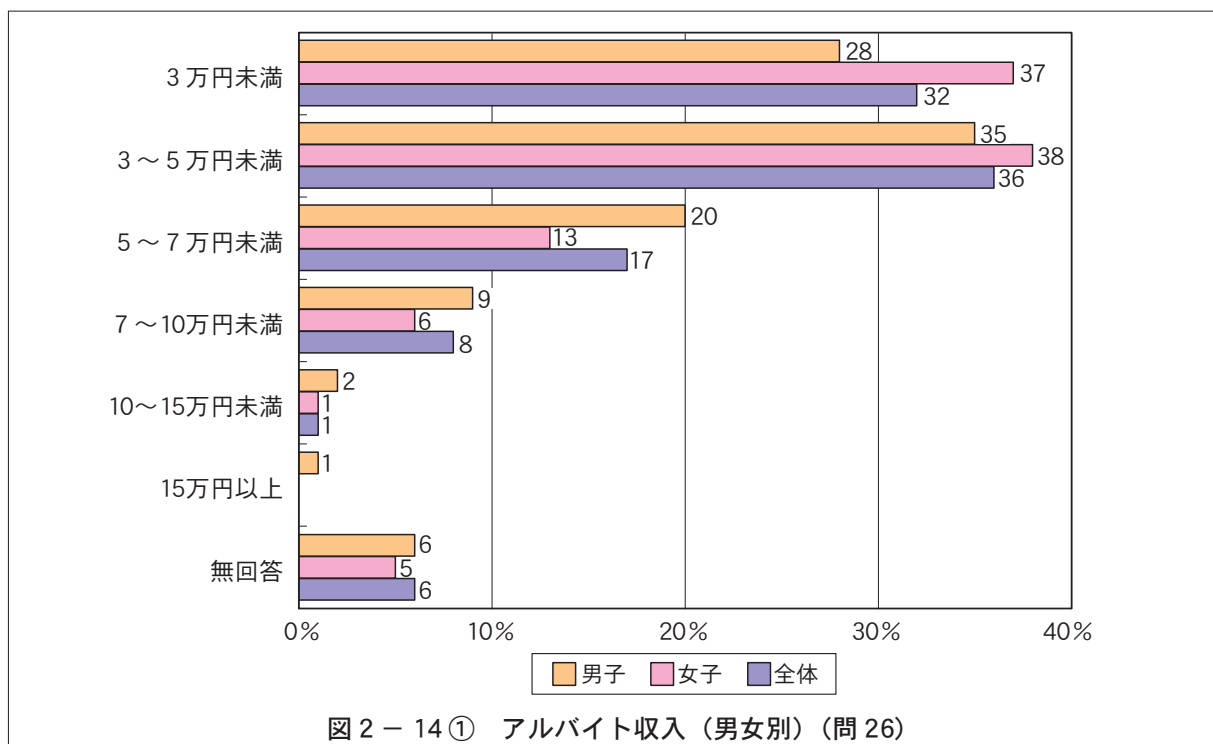


図 2 - 14 ① アルバイト収入 (男女別) (問 26)

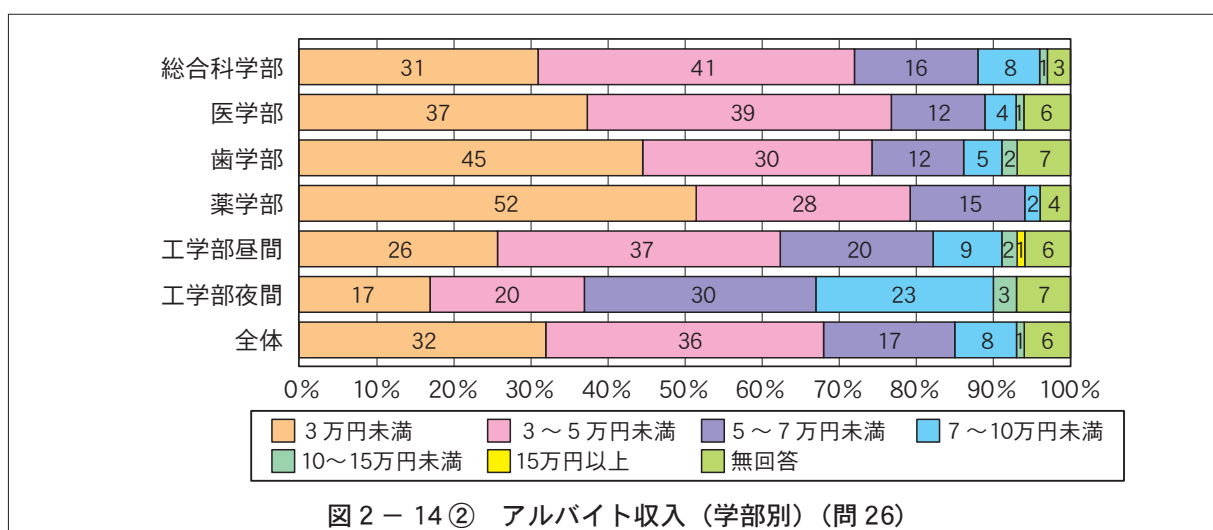


図 2 - 14 ② アルバイト収入 (学部別) (問 26)

2 - 15 アルバイトの紹介者 (図 2 - 15)

大学全体 (複数回答可能) では「友人・先輩」が最も多く 41%で、次いで「アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ」で 29%である。

前回の調査では、「友人・先輩」が 36%、「アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ」が 32%であった。「学務部」は、前々回の調査では 4%、前回は 3%、今回の調査が 3%と非常に低い割合である。「学務部」の割合は少なくとも 20%以上に引き上げることが望ましいと思われる。

男女別でも、男子、女子とも「友人・先輩」の割合が最も多く、それぞれ 39%および 42%であった。

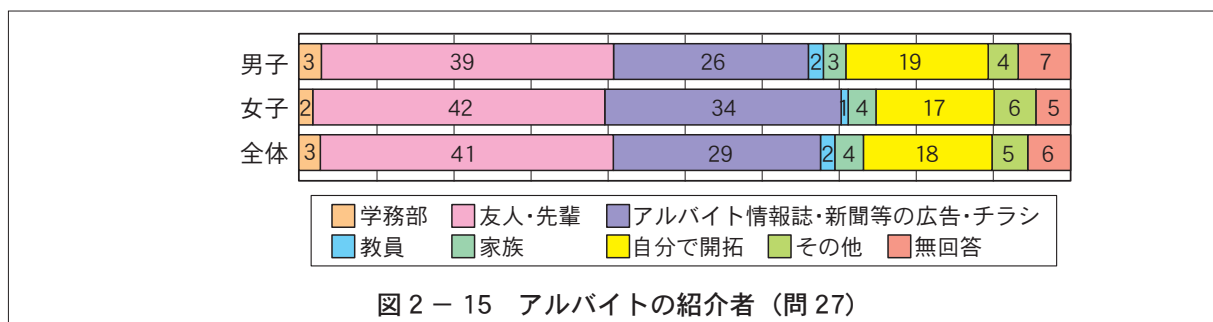


図 2 - 15 アルバイトの紹介者 (問 27)

(※問 27 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

2 - 16 アルバイトのトラブル内容 (図 2 - 16)

アルバイトにおけるトラブルについては、「ない」と回答した割合が全体 74% であった。前回の調査では、71% であったので、今回もほぼ同じ割合である。次に、トラブルがあった場合の内容 (複数回答可能) は「客とのトラブル」が 7%、「雇用者との意見の不一致」が 4% などである。トラブルの発生割合を合計すると 19% で、アルバイトをしている学生の 5 人に 1 人はトラブルを経験していることになり、かなり高い割合と考えられる。学生がアルバイトで事件や事故に巻き込まれないように、トラブルの内容を具体的に把握して注意喚起する必要がある。

学部別では、工学部夜間でアルバイトの従事時間が多いために、トラブルの発生割合が多くなっている。その他の学部では医学部、歯学部、薬学部が 13 ~ 14% と発生割合がやや少ない。これは、アルバイトの従事時間が少ないためと思われる。

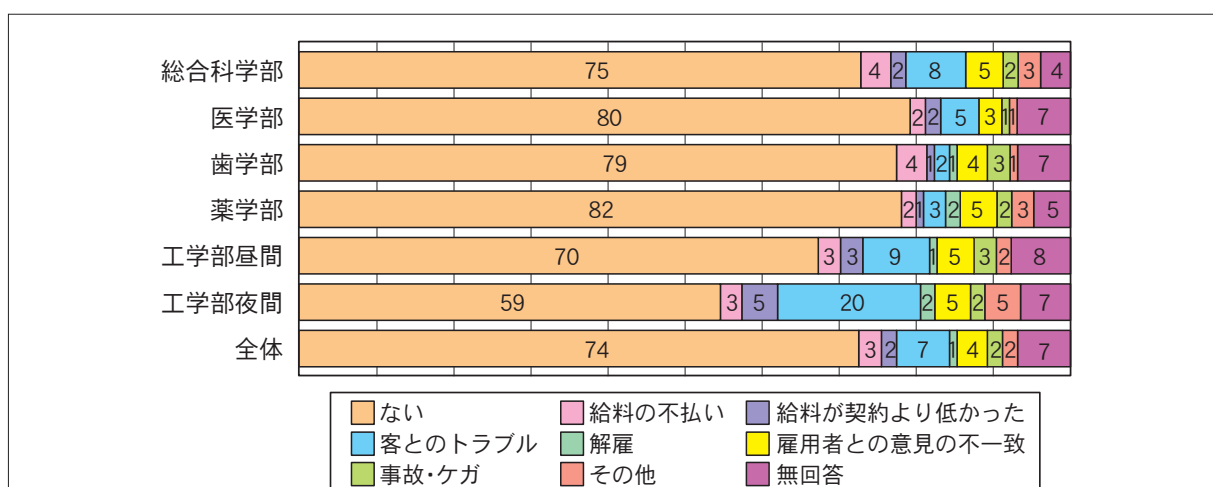


図 2 - 16 アルバイトのトラブル内容 (問 28)

(※問 28 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

第3章 健康状態について

3-1 睡眠時間 (図3-1①, 3-1②)

健康的な睡眠時間である「6～8時間」が男子女子ともに48%と最多であるが、男子40%、女子46%で「4～6時間」と睡眠不足傾向、さらに男子5%、女子3%は「4時間未満」で過度の睡眠不足がみられ、前回、前々回調査とほぼ同じ傾向であった。睡眠不足の状態が続くと、活動性の低下や注意力・集中力の低下、および心身の変調を引き起こしやすいため、学業・心身の健康両面にとって睡眠時間を確保することの重要性を改めて認識させる必要がある。

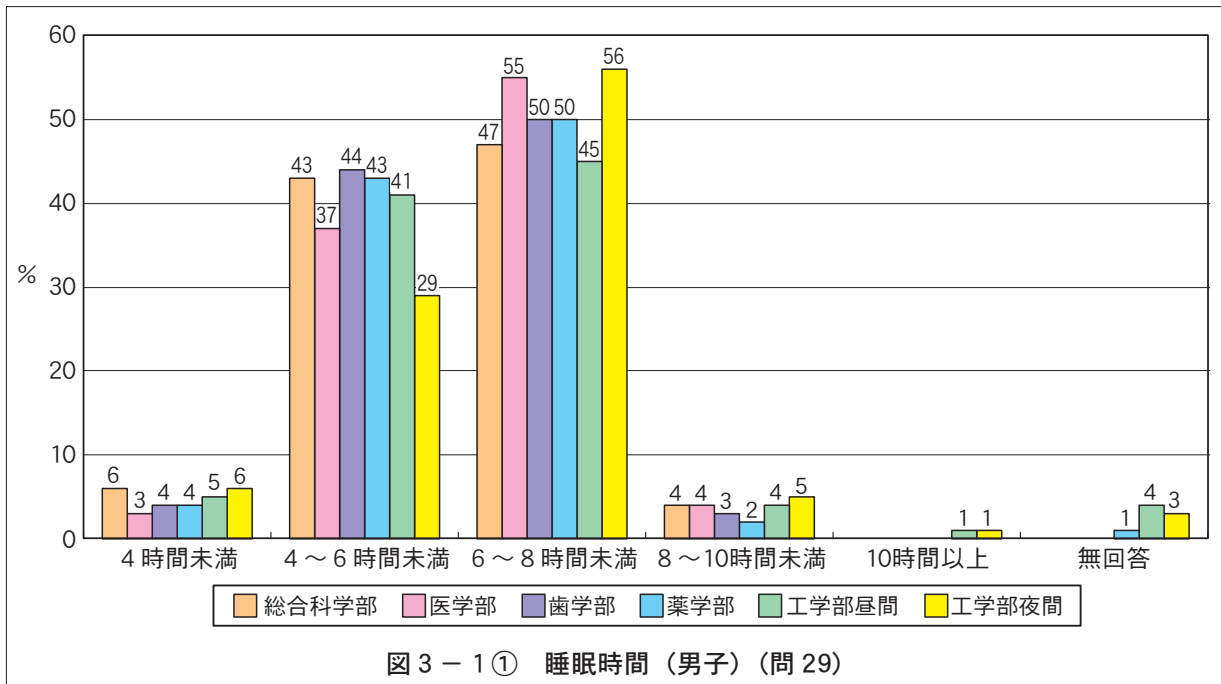


図3-1① 睡眠時間 (男子) (問29)

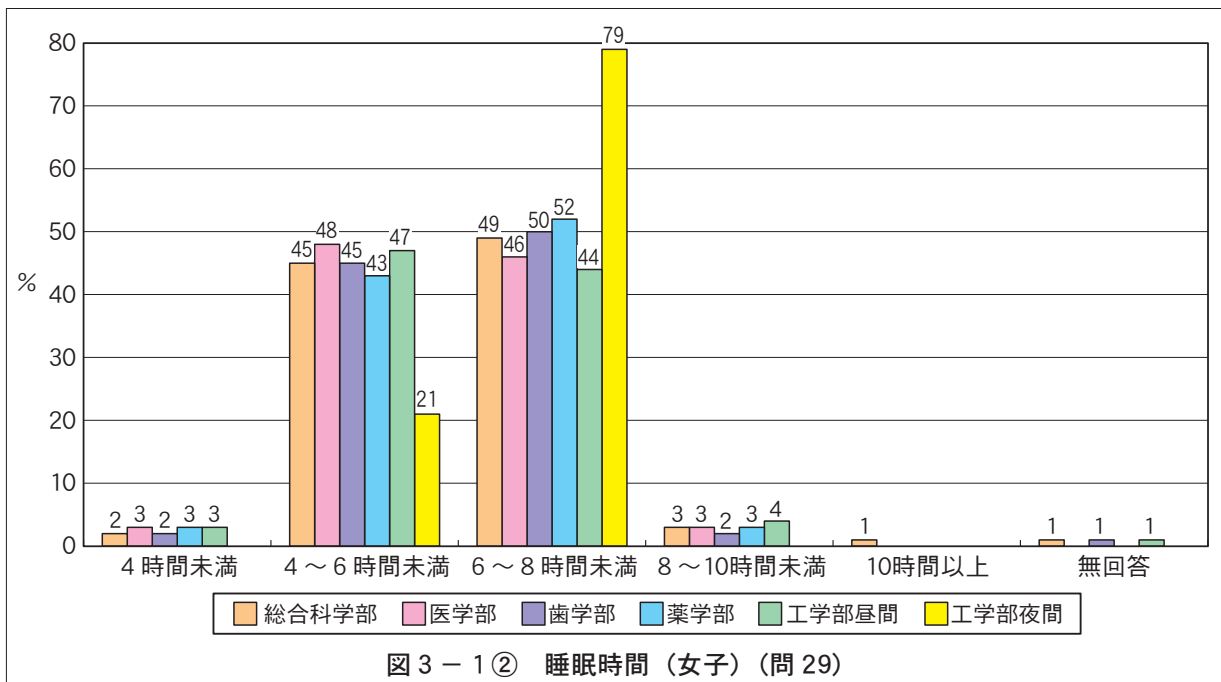
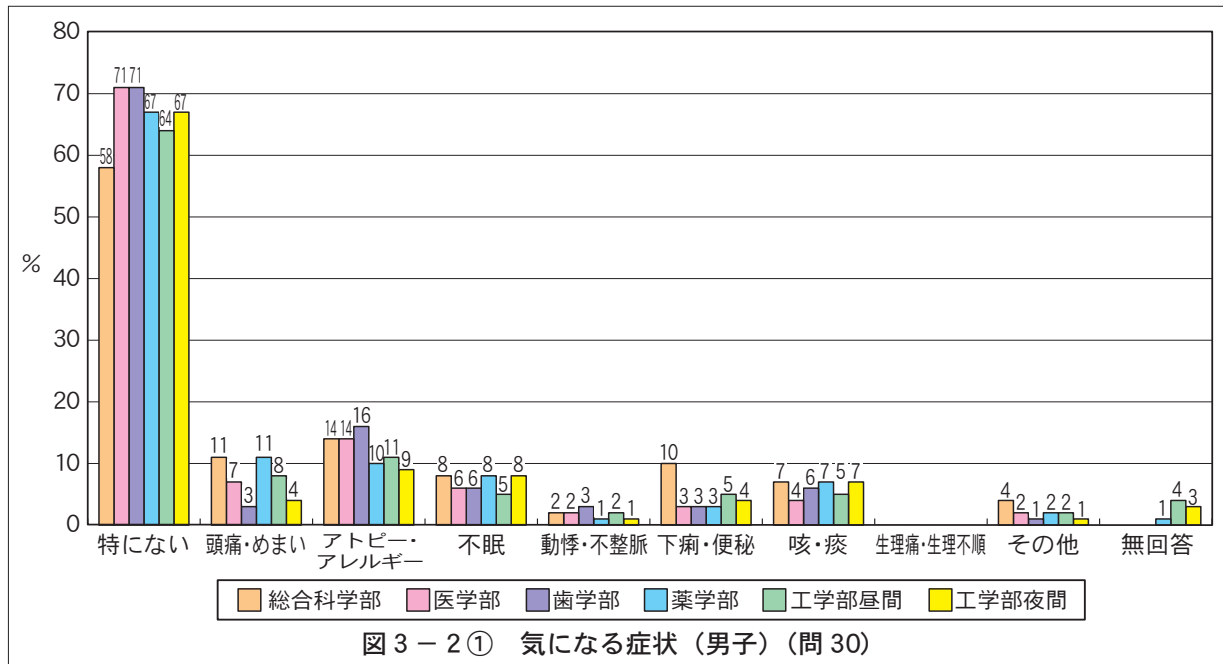


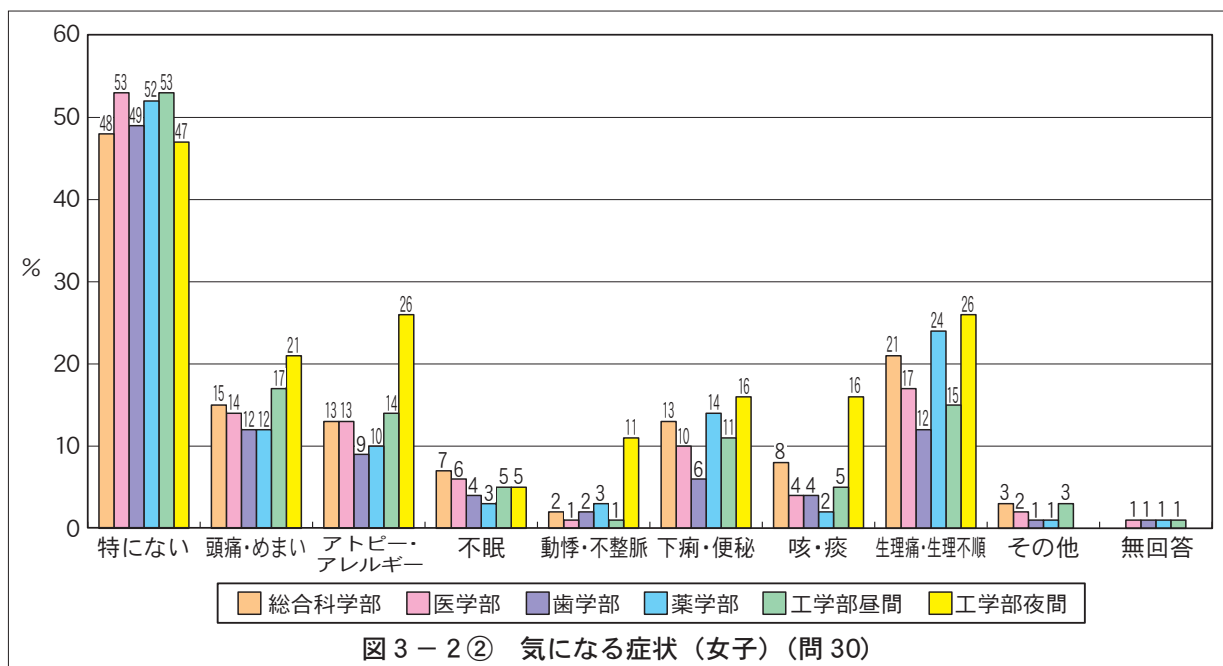
図3-1② 睡眠時間 (女子) (問29)

3-2 気になる症状 (図3-2①, 図3-2②)

何らかの気になる症状がある学生は、男子で34%、女子で48%であり、前回調査と変化はなく、男子よりも女子が何らかの不調を多く抱えており、また女子では気になる症状を複数抱えている傾向が認められる。症状の内容も、前回調査と同様で、男子では「アトピー・アレルギー」が12%、「頭痛・めまい」「不眠」がそれぞれ8%、6%認められ、女子では「生理痛・生理不順」が18%、「頭痛・めまい」が15%、「アトピー・アレルギー」が13%、下痢・便秘を11%、不眠を6%に認めている。慢性的に続いている症状については、症状への対処とともに、生活習慣などの生活面の指導なども必要で、今後も学内の保健管理部門がその役割を担っていく必要がある。



(※問30は複数回答のため合計は100%にはならない。)



(※問30は複数回答のため合計は100%にはならない。)

3-3 喫煙について (図3-3①, 図3-3②, 図3-3③)

「喫煙したことがない」学生は男子で78%（前回調査76%）、女子で95%（前回調査95%）であり、「過去に喫煙していたが現在はしていない」学生を合わせると男子で82%、女子で96%が喫煙していないという結果となった。前回調査に引き続いて、今回調査でも非喫煙率が上昇した状態が続いており、よい傾向である。「ときどき、もしくは毎日喫煙している」学生は男子で14%、女子で3%と、前回調査とほぼ同率であり、また男子で喫煙率が高くなっているのも同様である。平成24年の日本人の喫煙率21%（男性34%、女性12%）と比較して低いが、さらに低くすることが望ましい。学年別でみると、1年生では95%が非喫煙だが、4年生で81%、6年生で82%と非喫煙率が下がっており、学年が上がることで、卒前学年で喫煙者が増える傾向が伺える。長期間の喫煙習慣が様々な有害作用を健康に及ぼすことから、学生時代に喫煙を習慣づけないように指導するべきである。

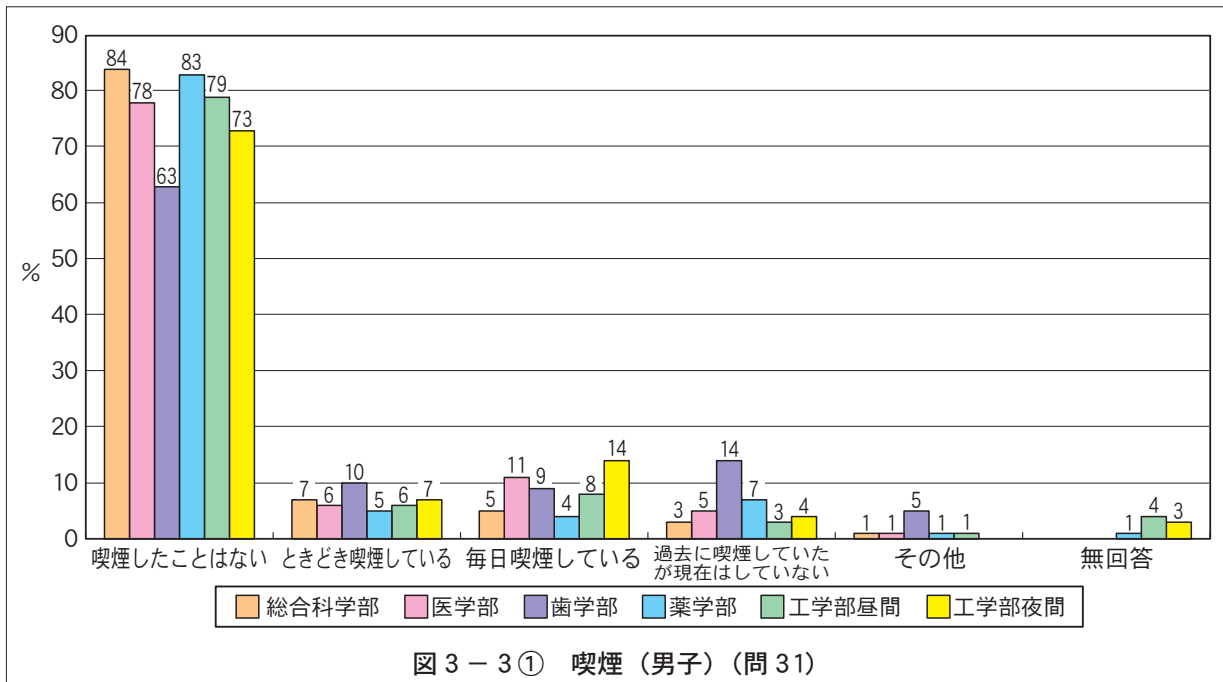


図3-3① 喫煙（男子）（問31）

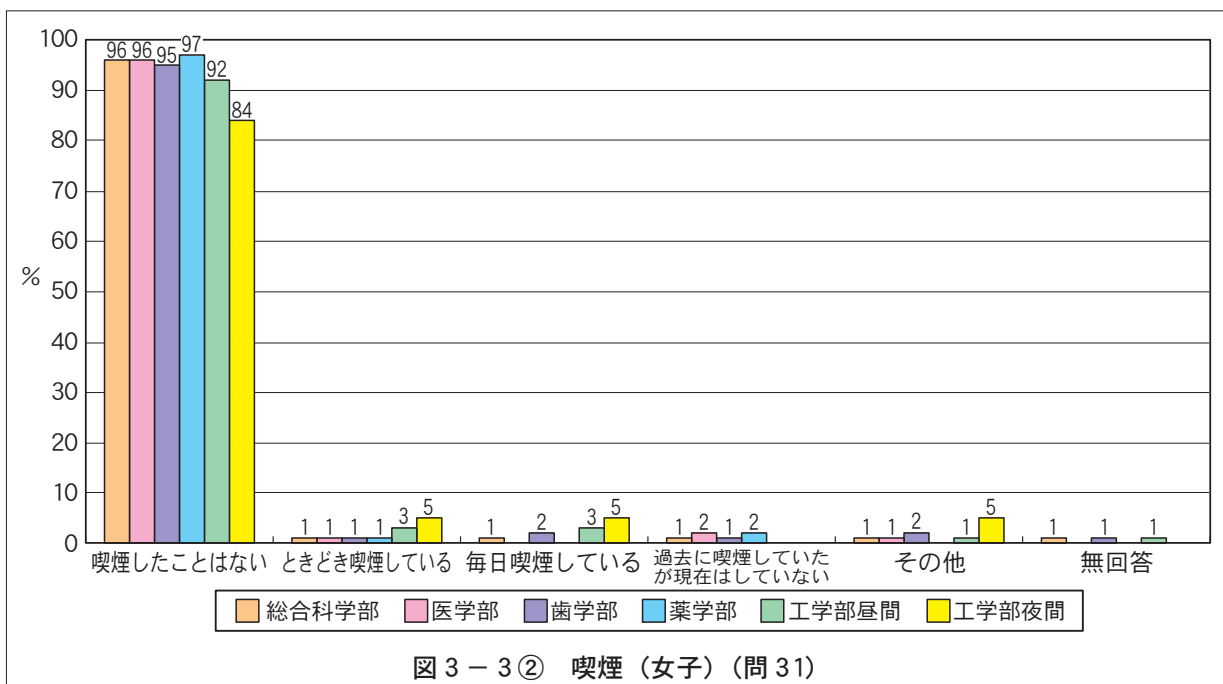
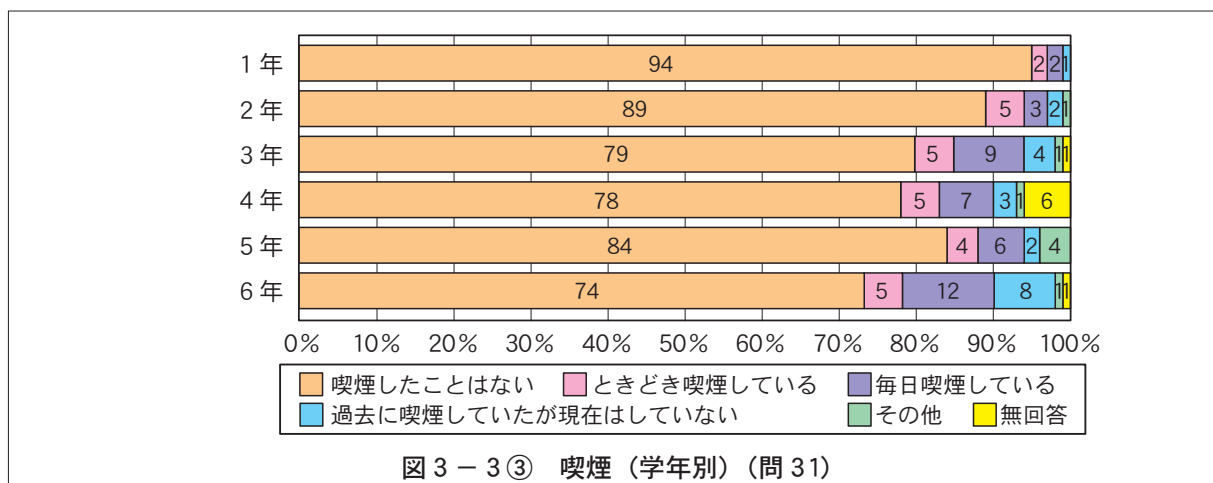


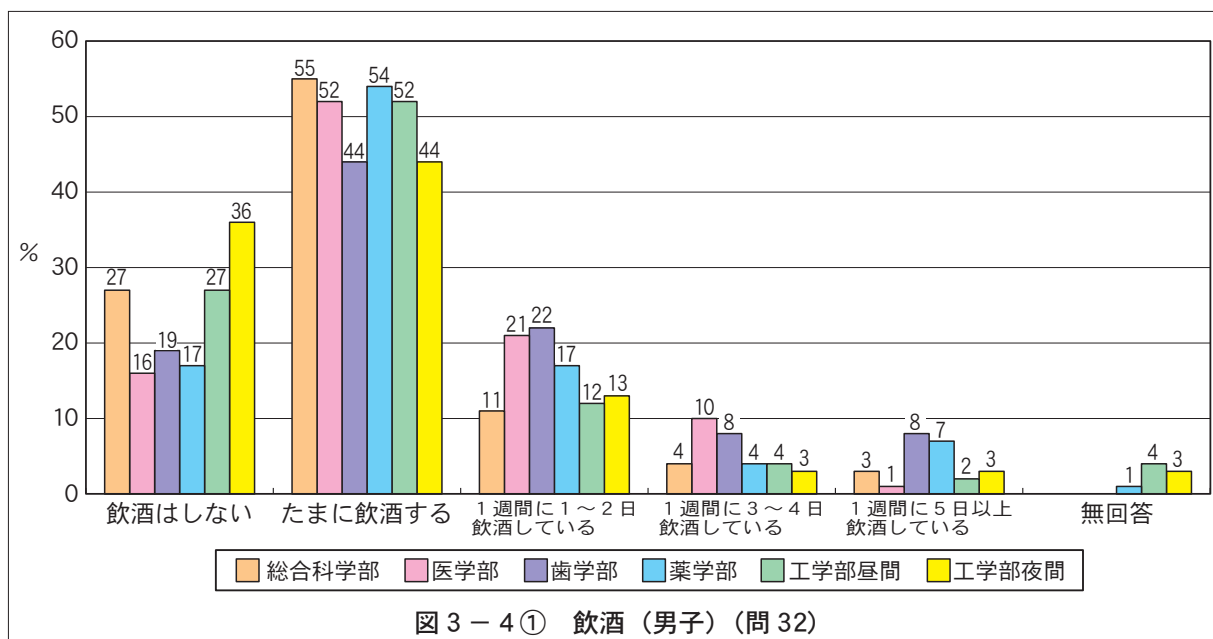
図3-3② 喫煙（女子）（問31）



3 - 4 飲酒について (図 3 - 4 ①, 図 3 - 4 ②, 図 3 - 4 ③, 図 3 - 4 ④)

「飲酒はしない」と答えた学生は男子、女子ともに25%であり、飲酒しない学生が前回調査より男子で4%、女子で7%増加している。「たまに飲酒する」と答えた学生は男子51%、女子62%で前回調査と同様であった。合わせて男子76%、女子87%の学生に飲酒習慣がなく、多くの学生にとって飲酒は身近なものではない傾向にある。一方、飲酒習慣のある学生のうち、週3、4日以上飲んでいる学生が男子で7%、女子で3%（いずれも前回調査と同様）見られるが、1回の飲酒量が問題となる。

週3回以上の飲酒習慣があると答えた学生のうち、1回あたりの飲酒量は3合未満が男子74%、女子88%で、前回調査より男子で3%、女子で11%増加しており、この飲酒量であれば多量飲酒にはあたらないといえることから、望ましい傾向であるといえる。しかし、男女合わせて50名程度の学生が、1日平均純アルコール量で60g（日本酒3合）前後を習慣的に飲酒している可能性があり、これは長期間継続するとアルコール関連健康障害などの酒害に発展する飲酒レベルである。アルコールの適量は1日平均純アルコール20g（日本酒1合）といわれており、アルコールの過剰摂取には十分気をつけるよう指導しなくてはならない。



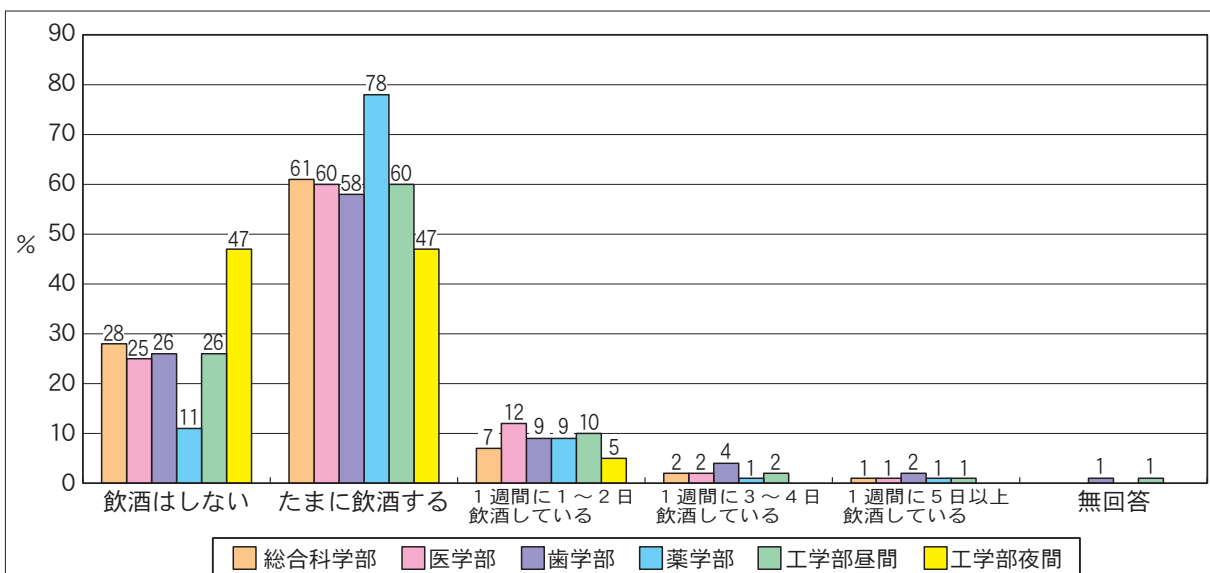


図3-4② 飲酒(女子)(問32)

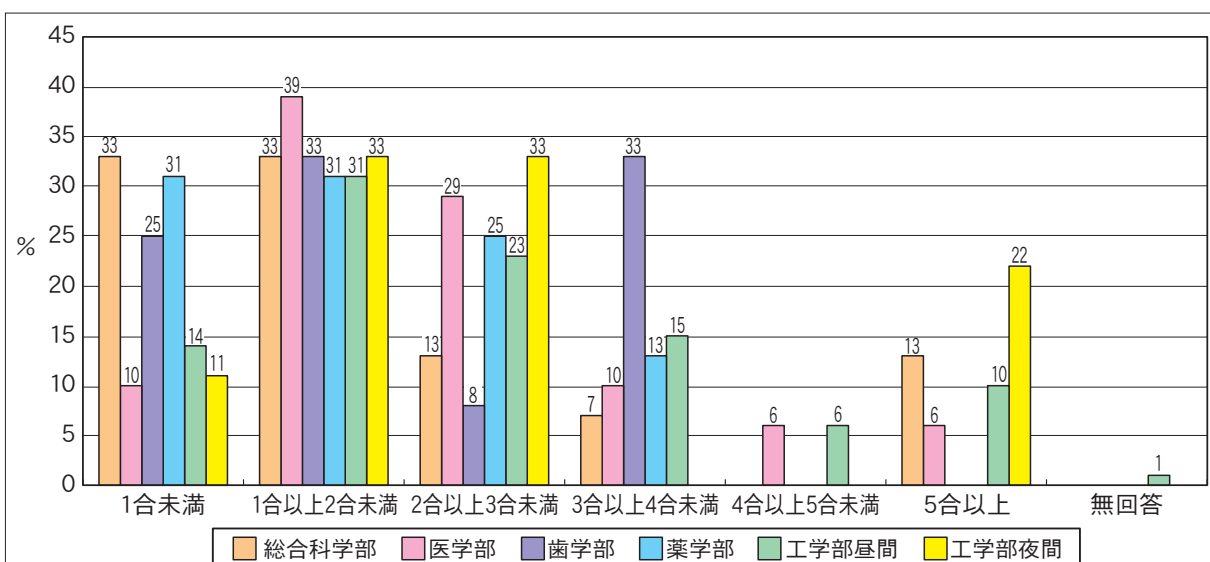


図3-4③ 1回当たりの飲酒量(男子)(問33)

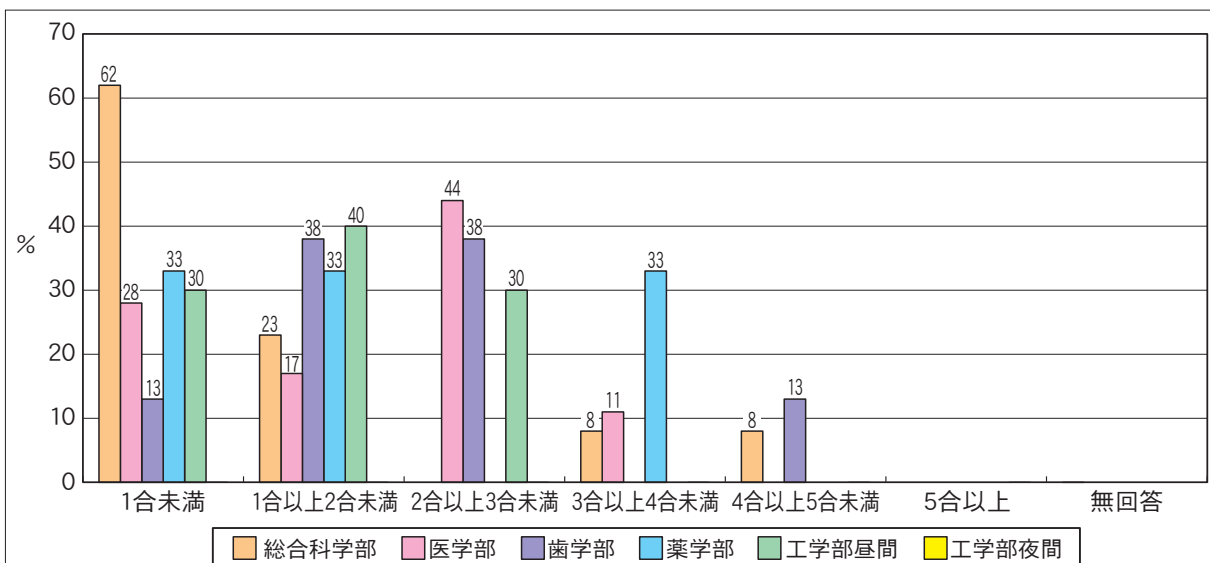


図3-4④ 1回当たりの飲酒量(女子)(問33)

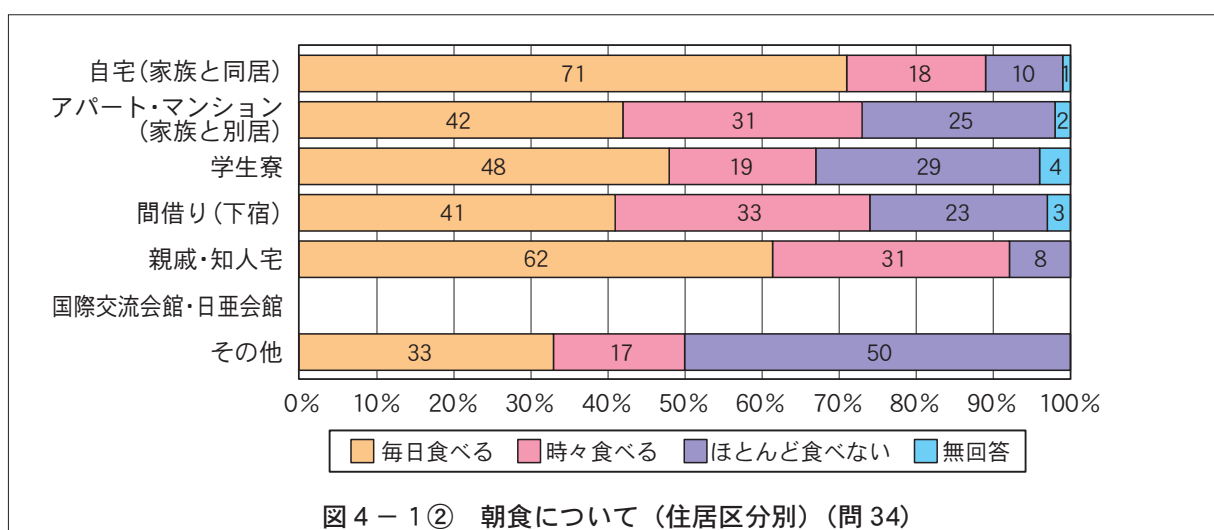
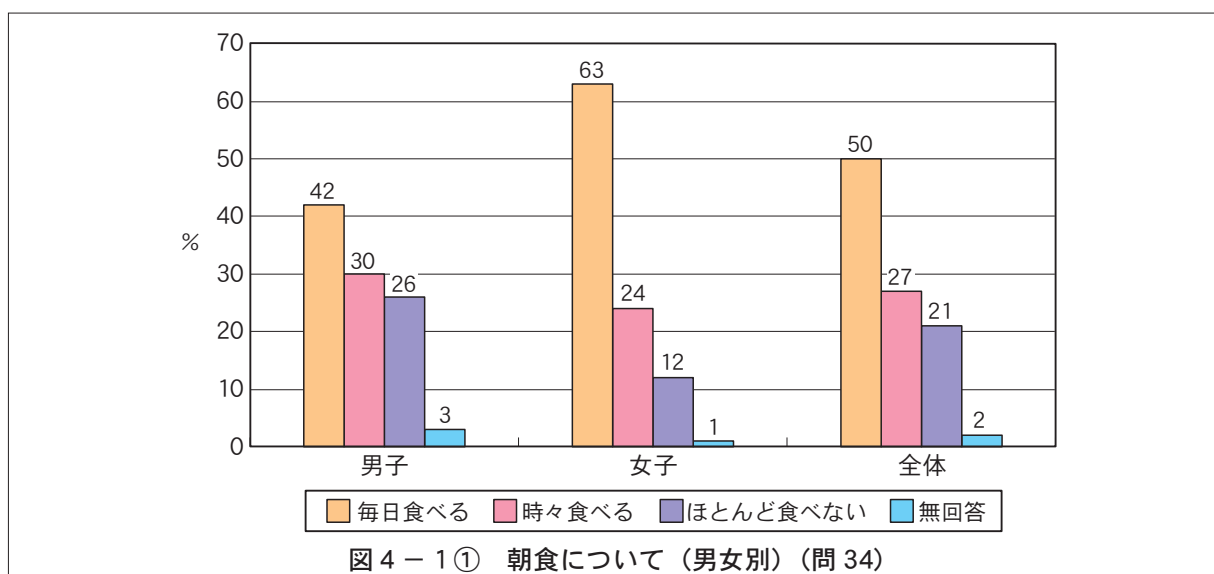
第4章 食事について

4-1 朝食 (図4-1①, 図4-1②)

朝食をほとんど食べない学生は21%であり、前回の調査結果と同じだった。男女別にみると、女子は12%で前回に比べ2%増加し、男子は26%と前回に比べ2%減少したものの4人に1人は朝食をとっていない。

一方、朝食を毎日食べるのは男子42%、女子63%で、前回の調査結果と比較して、男子は1%増加し、女子は4%減少した。その内訳をみると、自宅(家族と同居)の場合が71%、親戚・知人宅の場合が62%であり、家族と別居の場合(アパート・マンション、学生寮、間借り)は41~48%と他と比較して低かった。

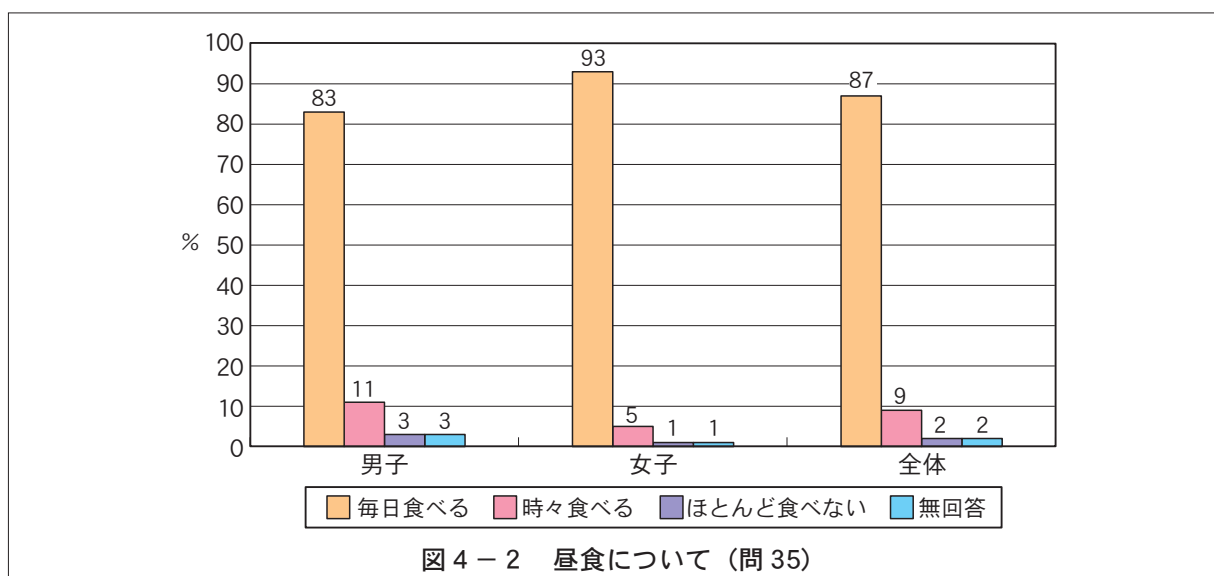
以上より、家族と別居し一人暮らしをしている学生は朝食をとらない者が多いので、それらを対象に朝食をとる生活習慣の指導をおこなうことが必要と考えられる。



4-2 昼食 (図4-2)

昼食を毎日食べる学生は87%で、前回の調査結果と比べ2%減少した。男女別にみると、女子は93%が、男子は83%が毎日昼食をとっている。しかし、前回の調査結果と比較して、いずれも3%減少したことが気付きである。

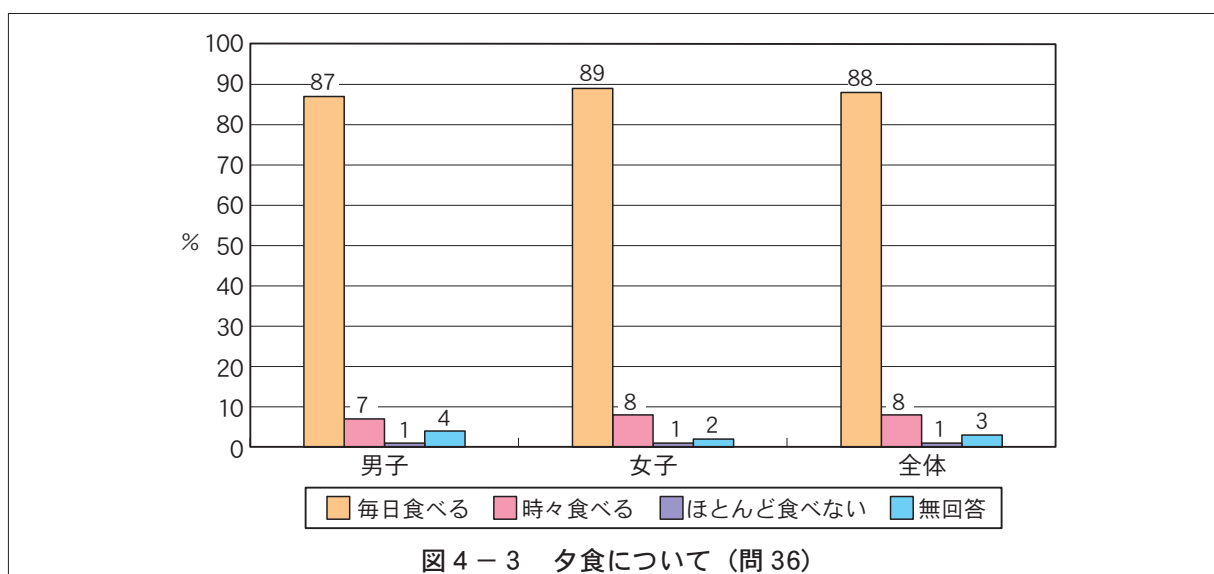
一方、時々食べるあるいはほとんど食べないと回答した学生は11%で、前回の調査結果と同じだった。毎日食べない理由は、食欲がない、時間がない、習慣、ダイエット、経済的理由などいろいろと考えられるが、この点について調査していないため明らかでない。しかし、何らかの対処が必要と考える。



4-3 夕食 (図4-3)

夕食を毎日食べる学生は88%であり、前回の調査結果に比べ2%減少した。男女別にみると、男子87%、女子89%でいずれも前回よりも3%減少した。これは昼食と同様の傾向である。

一方、夕食を時々食べるあるいはほとんど食べない学生は9%で、前回の調査結果よりも2%減少した。昼食同様、毎日食べない理由は明らかでない。何らかの対処が必要で、より積極的な、あるいは個別の食育指導も検討すべきと考える。



4-4 昼食の利用場所 (図4-4)

常三島第1食堂(生協)、常三島第2食堂(工学部構内)、蔵本会館食堂、弁当、自宅(下宿)を利用する学生は、それぞれ25%、7%、14%、18%、14%であった。前回の調査結果と比べて、蔵本会館食堂が8%増加し、一方、弁当は4%、自宅(下宿)は1%減少した。蔵本会館食堂は今春改修・再開されたため利用者が増加したと考えられる。

常三島地区では約半数(総合科学部46%、工学部昼間48%)が食堂を利用し、蔵本地区では32%(医学部28%、歯学部34%、薬学部48%)が蔵本会館食堂を利用している。蔵本会館食堂の利用は前回の調査結果に比べ17%増加し、各学部19%、19%、29%増加した。一方、蔵本地区の学生の22%(医学部23%、歯学部19%、薬学部21%)が弁当を購入しているが、前回と比べて18%減少し、各学部9%、18%、22%減少した。

以上より、蔵本地区における蔵本会館食堂の利用率の増加は著しく、改修・再開の成果がみられた。

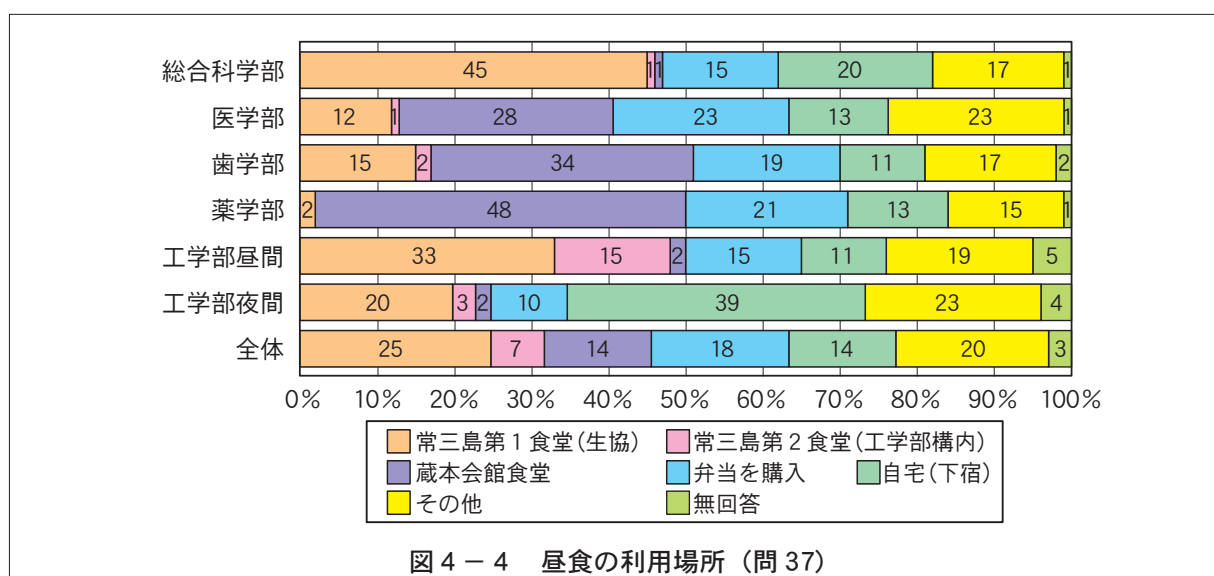


図4-4 昼食の利用場所 (問37)

4-5 弁当を食べる場所 (図4-5)

弁当を食べる学生の68%が教室、8%が建物外、7%が自宅で、15%がその場で食べている。前回の調

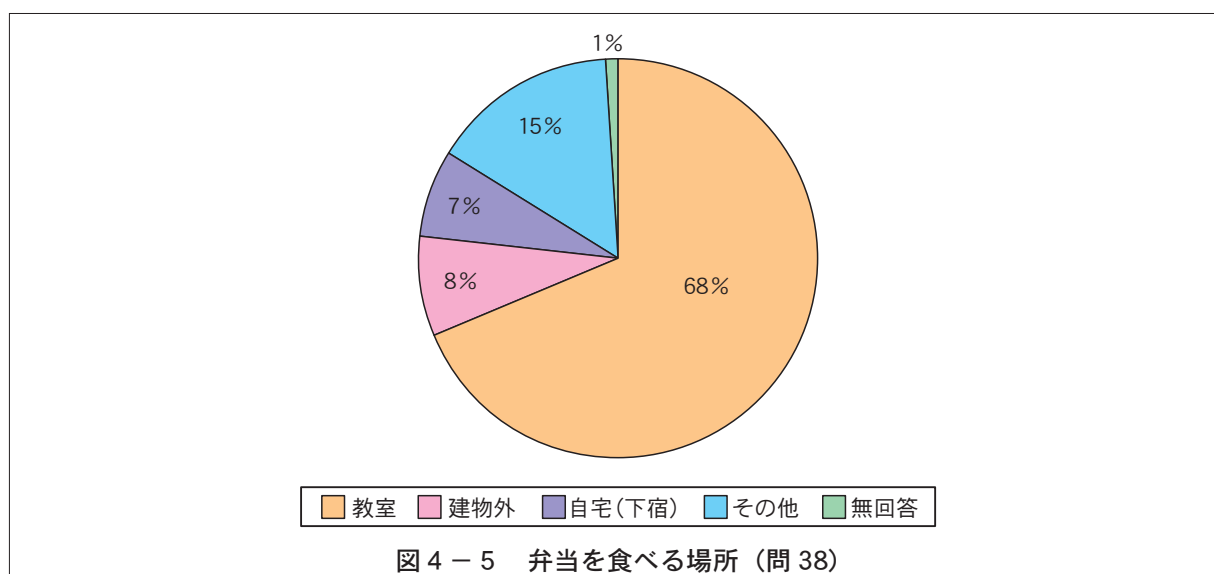


図4-5 弁当を食べる場所 (問38)

査結果と比較すると、その他の割合が3%増加した以外は大きく変化していない。教室で弁当を食べる学生が多い理由としては、教室などの施設の充実も考えられるが、外に出て食べる時間がない、外で食べる場所がないなども考えられる。しかし前回同様、今回の調査においても理由の記載をもとめなかったため、詳細は不明である。

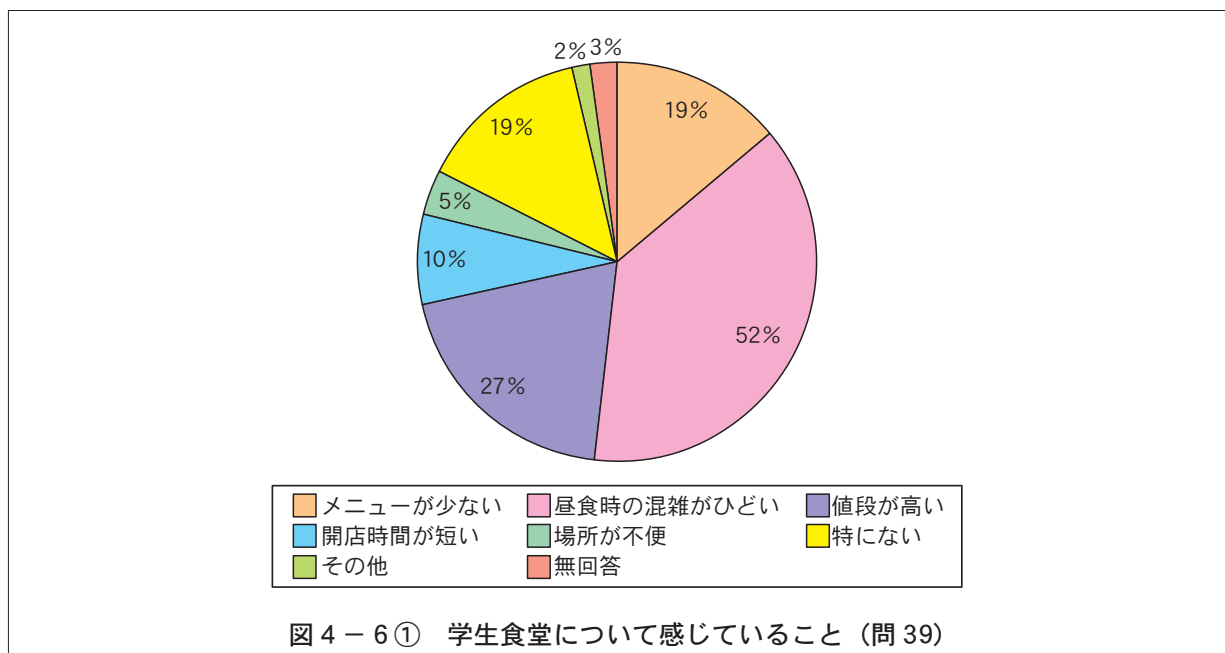
さらに、生活全般にかかる自由記入欄にも「屋外に机や椅子をおいて、話したりご飯を食べたりできるスペースが欲しい」という要望がみられた。

4-6 学生食堂について感じる事 (図4-6①, 図4-6②)

昼食時の混雑がひどいと回答した学生は52%であり、前回の31%から著しく増加している。この混雑に対する不満は総合科学部が65%で最も多く、歯学部56%、薬学部56%、工学部昼間51%、医学部49%と続いた。

値段が高いと回答した学生は27%であり、前回よりも11%増加した。各学部17~31%と学部間の差は少ない。また、メニューが少ないと答えた学生は19%であり、前回よりも2%減少した。学部別では工学部昼間23%、薬学部21%と高かった。一方、歯学部は11%で前回よりも19%減少した。開店時間が短いについては10%で、前回よりも4%増加し、場所が不便については5%と前回と同じだった。

自由記入欄の回答からも、「ビュッフェ形式のため混雑」や「値段が高い」「メニューにかわりばえがない」「油っこい」「開店時間が短い」などと、前述に挙げた項目が詳細に訴えられていた。



(※問39は複数回答のため合計は100%にはならない。)

今回の調査結果、とくに蔵本会館食堂の改修・再開は学生の食事に対して大きな成果を得たことがわかったが、今後は食堂のメニューや値段、開店時間などについても再検討し、さらに学生の食生活をサポートできるようにすべきと考える。

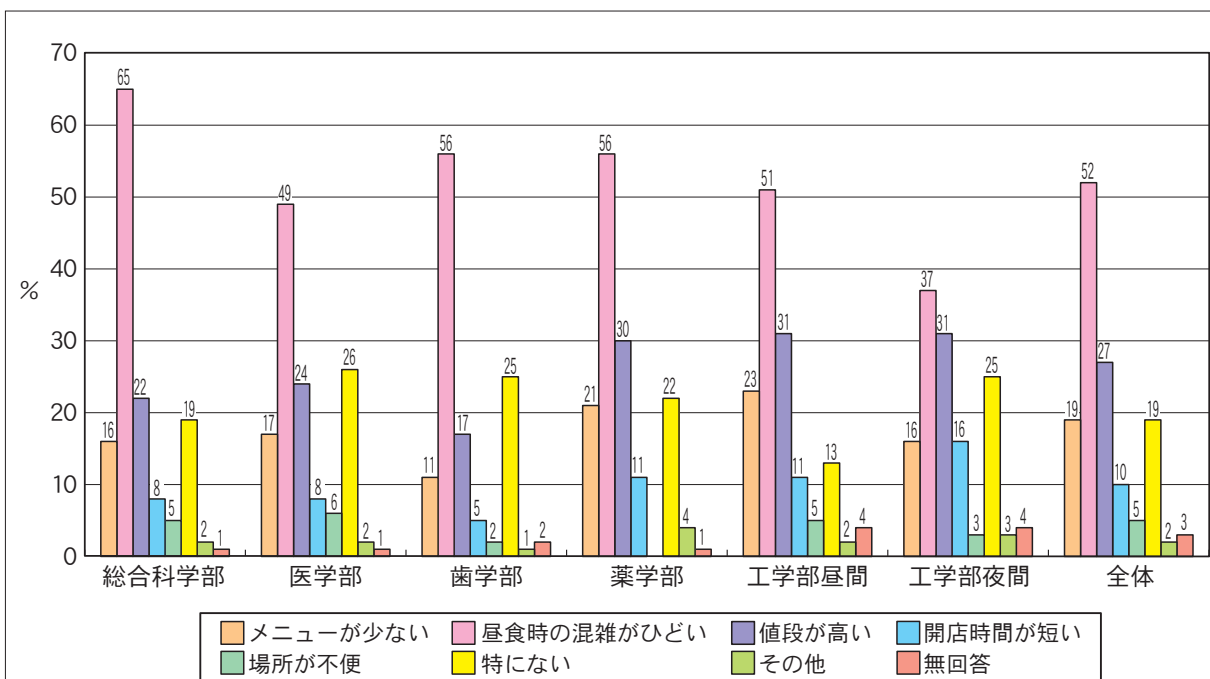


図 4-6② 学生食堂について感じていること (問 39)

(※問 39 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

第5章 学生生活上の問題点

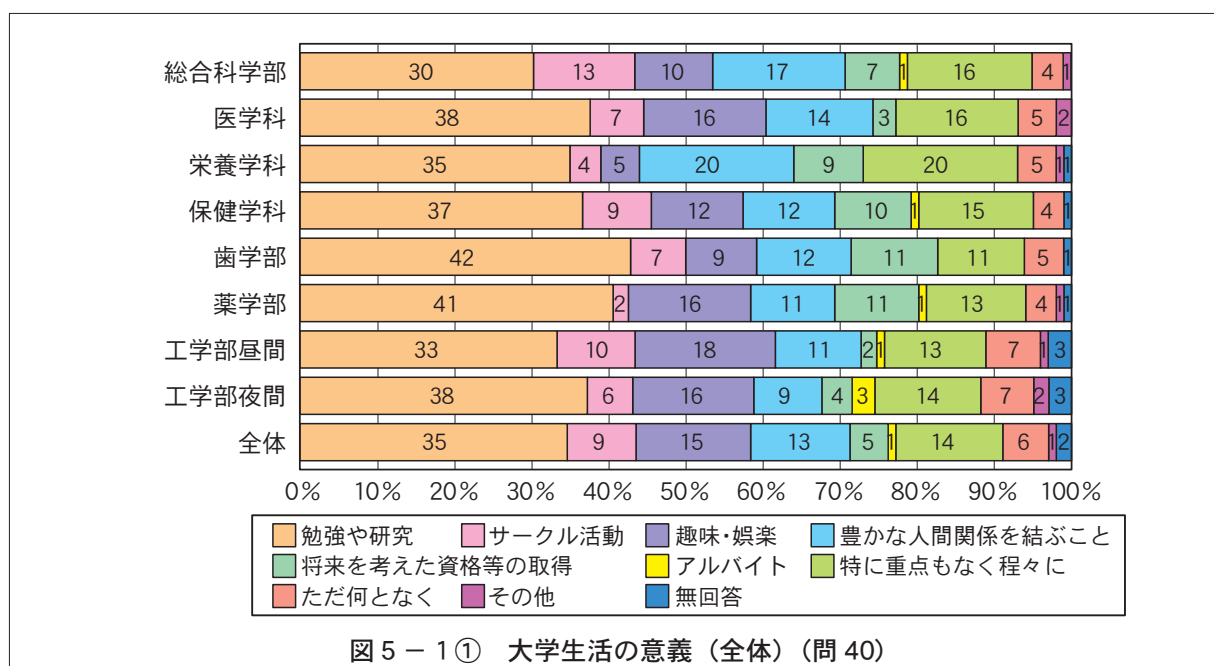
5-1 大学生生活の意義 (図5-1①～図5-1③)

【項目間の比較】(図5-1①)

どの学部・学科共、第1位は「勉強や研究」であり(30～42%)、全体の平均値は、前回調査の値と同じで35%である。第2位は「趣味・娯楽」、第3位は「特に重点もなく程々に」となり、前回2位であった「豊かな人間関係を結ぶこと」が僅差ながら4位に後退した。個人活動重視傾向の表れかもしれない。

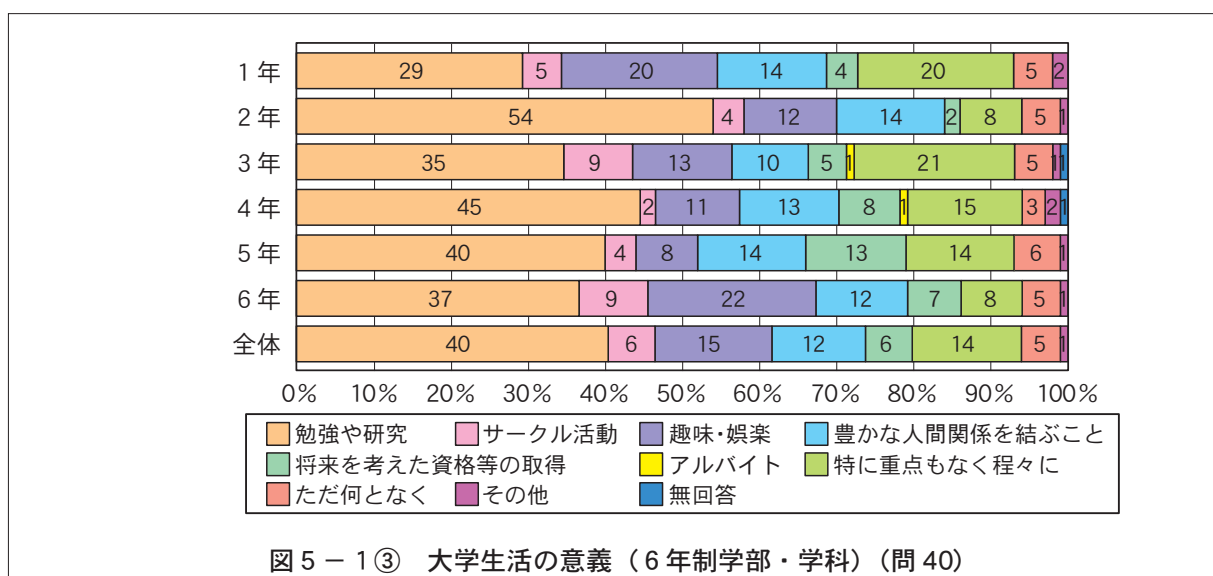
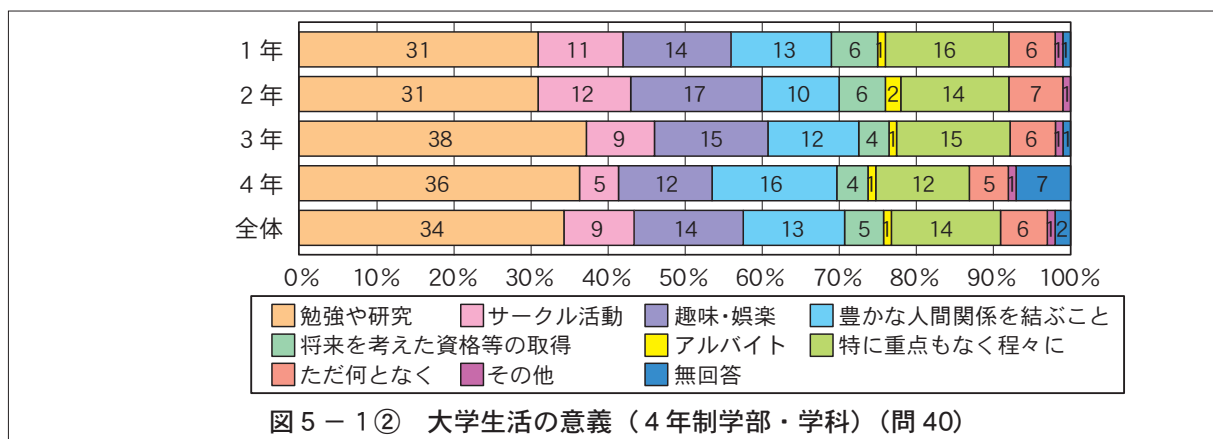
【学部・学科間での比較】(図5-1①)

「勉強や研究」は、歯学部、薬学部や医学科、工学部夜間で高い。前年度に比べて歯学部は35%から42%に増加しており、勉強教育の指導効果が表れているものと思われる。他の学部・学科が「豊かな人間関係を結ぶこと」の割合が軒並み低下しているのに対し、栄養学科では第2位の項目であり、前年よりも上昇している。どのような要因が関与しているのか解析が必要である。



【学年間での比較】(図5-1②, 図5-1③)

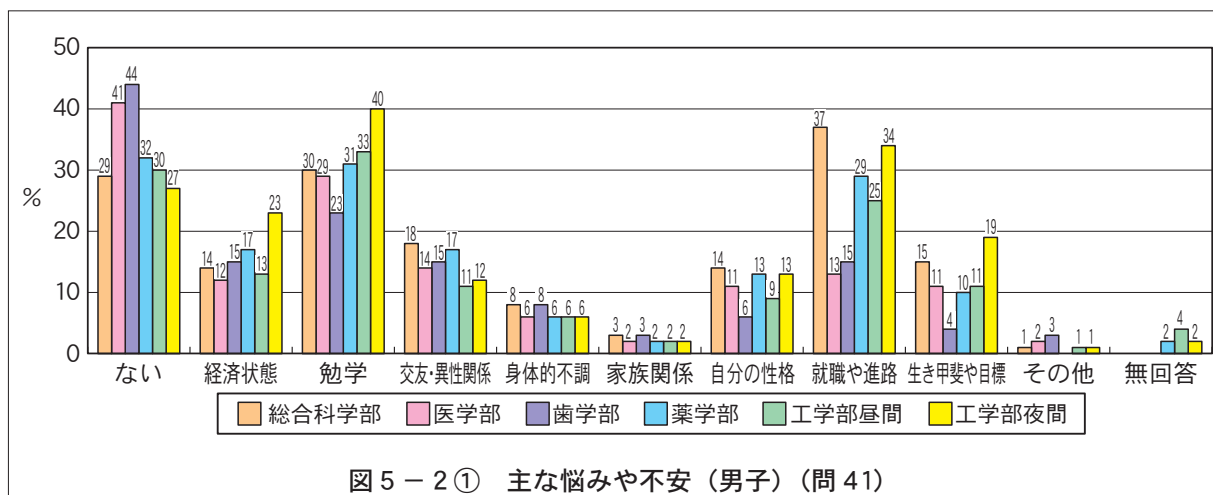
4年制では、前回は「勉強と研究」の割合は学年進行と共に増加していたが、今回は、他の学年に比べ3年生が少し高く、逆に「サークル活動」の割合は低学年に比べて少し低かった。6年制では、前回は4年生が最も高い値であったが、今回は、2年生が54%と全体の40%を大きく上回っていた。その原因は不明であるが、学科配属や研究室配属を控えて学業成績の向上を目指そうとする意図が感じられる。「資格等の取得」の割合は、5年生が最も高かった。4年制と6年制共に早目に将来進路を意識している傾向にあると思われる。



5-2 悩みと相談 (図5-2①~図5-2④)

【主な悩みや不安】(図5-2①~図5-2③)

前回と同様、悩みや不安がないと回答した割合は男性の方が多かった。男性では、悩みや不安の第1位は「勉強や研究」、次は「就職と進路」であったが、女性では「就職と進路」と回答した割合の方が高い学部・学科があった。女性の方が、子育て等の家庭と仕事の両立という面で不安を抱くなど、将来の



(※問41は複数回答のため合計は100%にはならない。)

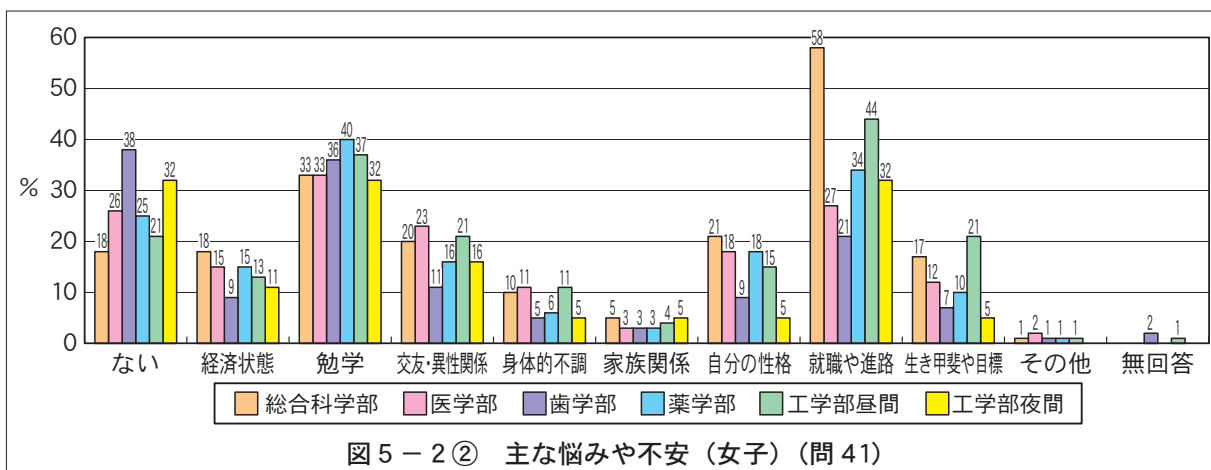


図 5 - 2 ② 主な悩みや不安 (女子) (問 41)

(※問 41 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

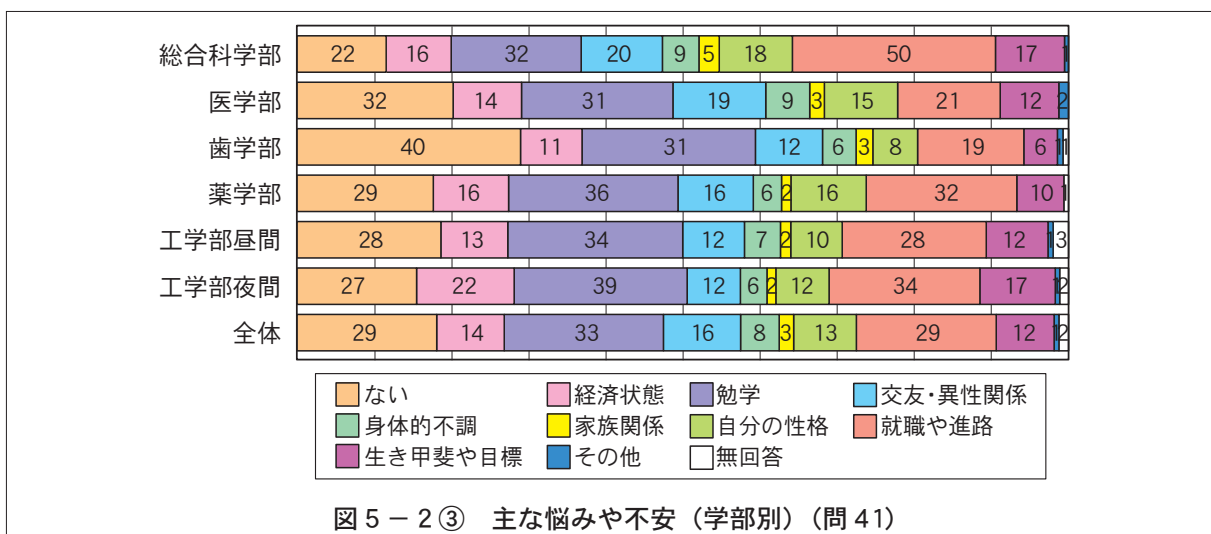


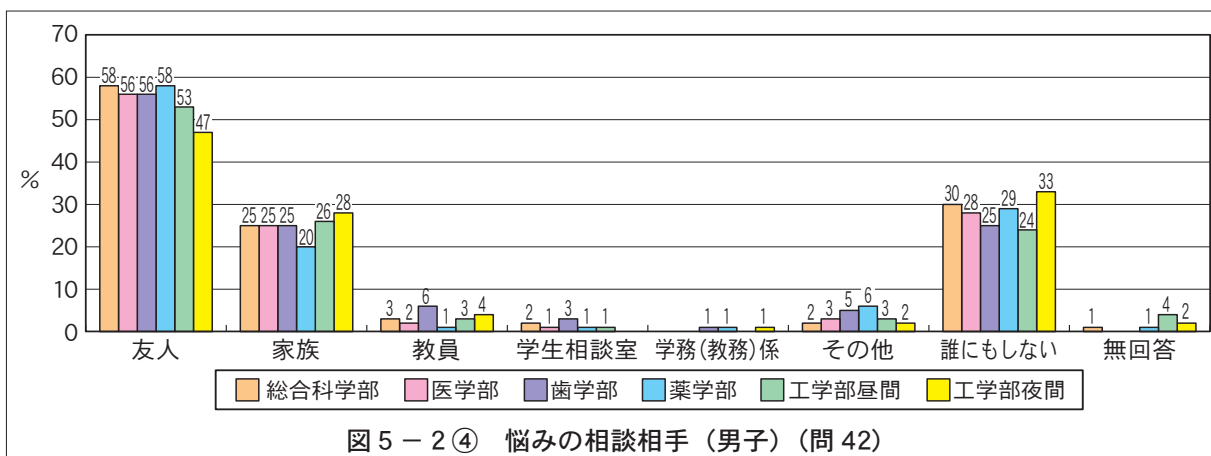
図 5 - 2 ③ 主な悩みや不安 (学部別) (問 41)

(※問 41 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

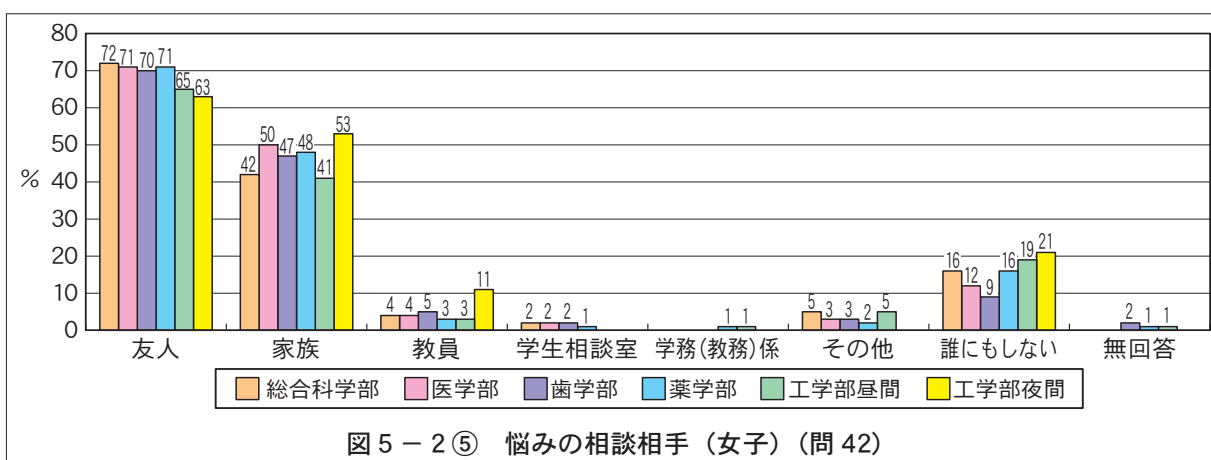
選択肢幅が広いことの表れかもしれない。国家試験で資格を得られる学部では、将来の進路に関する悩みや不安を持つ学生の割合が低い。薬学部では3年の後期から資格を取れる6年制と資格を取れない4年制に学科配属されるため、医学部や歯学部と比べて割合が高かった。また、就職・進路と総合科学部の女性の58%が将来の就職・進路に不安を感じており、大学からの支援が必要と思われる。

【相談相手】(図 5 - 2 ④, 図 5 - 2 ⑤)

どの学部・学科も第1位が友人、第2位が家族であるが、それらの割合は女性の方が男性よりも高かった。教員と回答した割合は低いが、その中では、男性で歯学部が6%、女性で工学部夜間が11%と高かった。部局関係者による対応が奏功していると思われる。男子の24-33%と女子の12-21%は誰にも相談しないと回答しており、前回の17-25%と7-13%と比べて増加した。自力で悩みや不安を解消できない場合も多いと想定される。部局教職員や保健管理・総合相談センターのスタッフが信頼できる相談相手として選ばれるよう学生に働きかけると共に、支援を要する学生を見出し早急に対応する体制を強固にする必要がある。



(※問 42 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

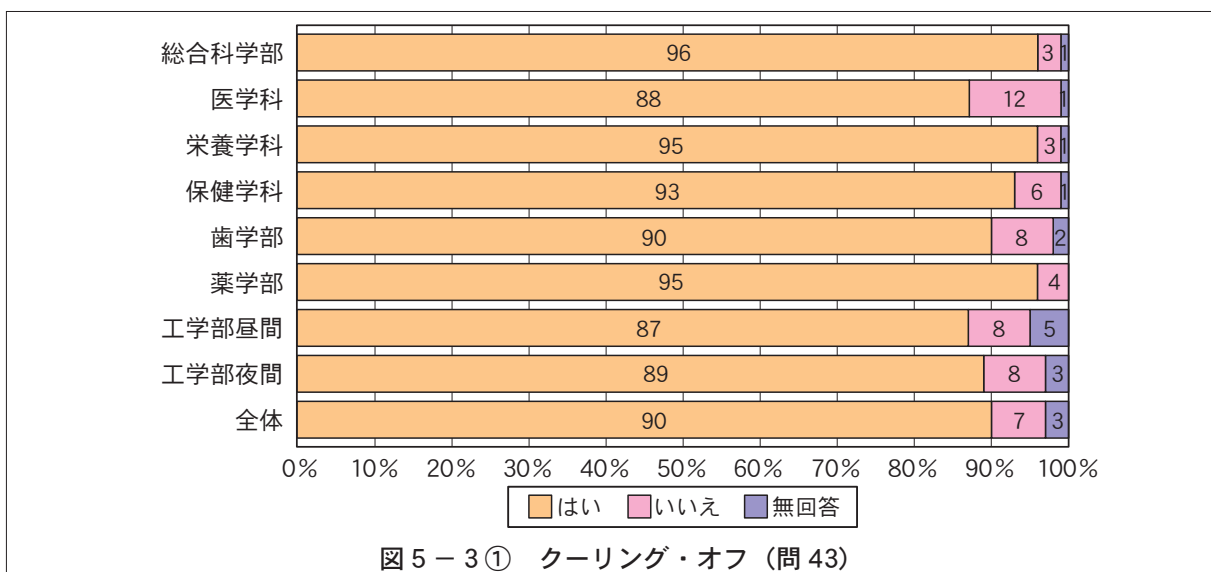


(※問 42 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

5 - 3 迷惑行為 (図 5 - 3 ①~図 5 - 3 ⑫)

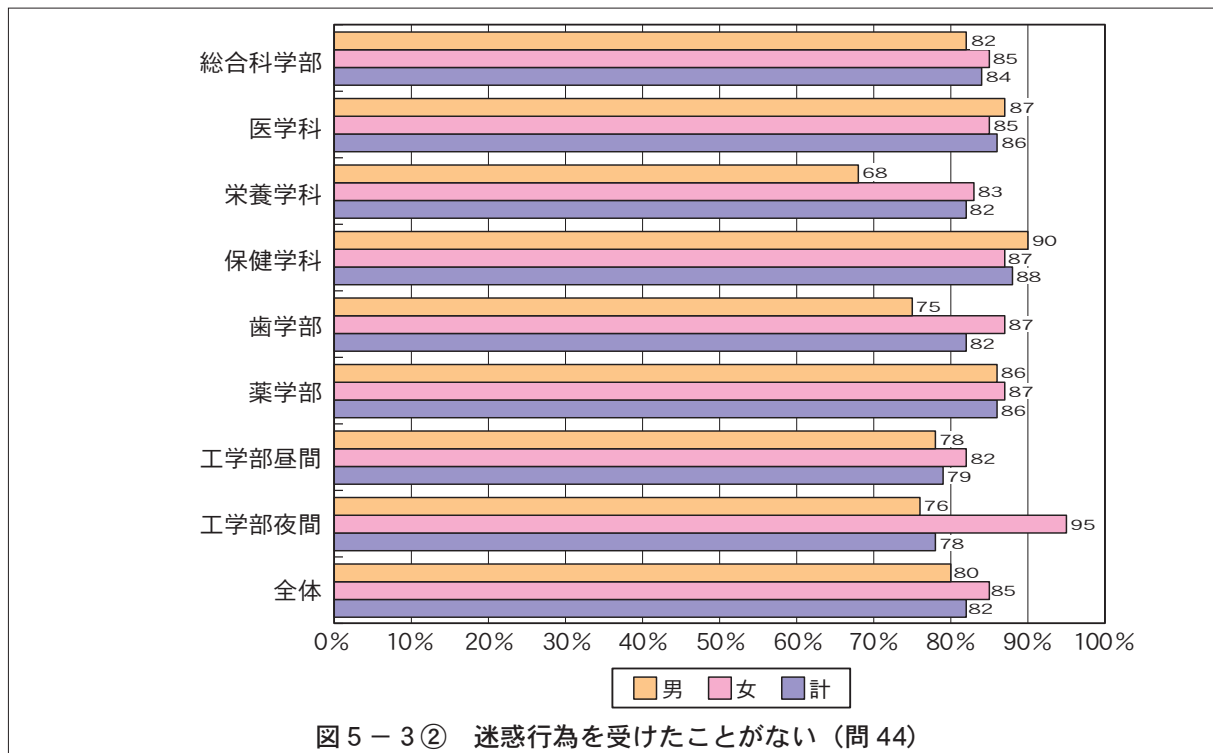
【クーリング・オフ制度の認識】 (図 5 - 3 ①)

全体 90% の学生がクーリング・オフ制度を認識していたが、前回より 2% 低下した。総合科学科で 96%、栄養学科と薬学部で 95% と高かった。学部ガイダンスや大学入門講座における教育効果によるものと思われるので、十分な啓蒙活動を持続することが必要である。



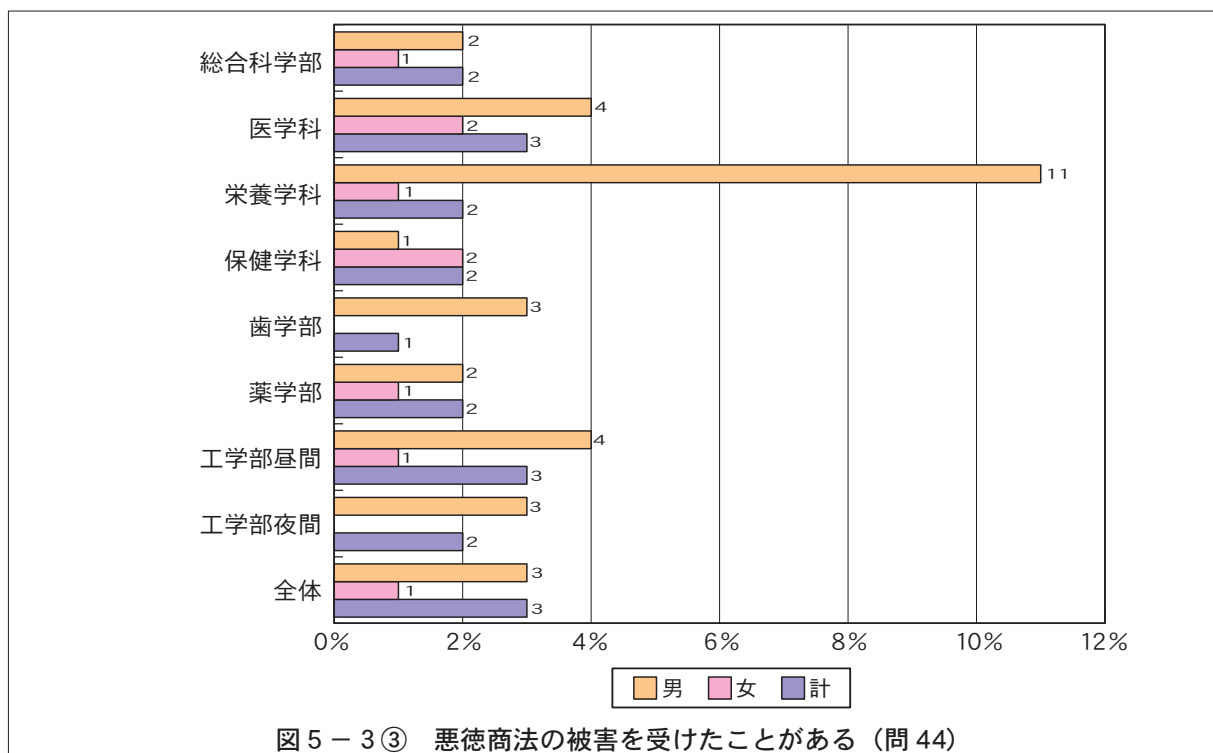
【迷惑行為全体】（図5-3②）

迷惑行為を受けていないと答えたのは、男子全体で80%（前回82%）、女子全体で85%（前回79%）であった。栄養学科男子で68%、歯学部男子で75%、工学部夜間男子で76%と低かった。



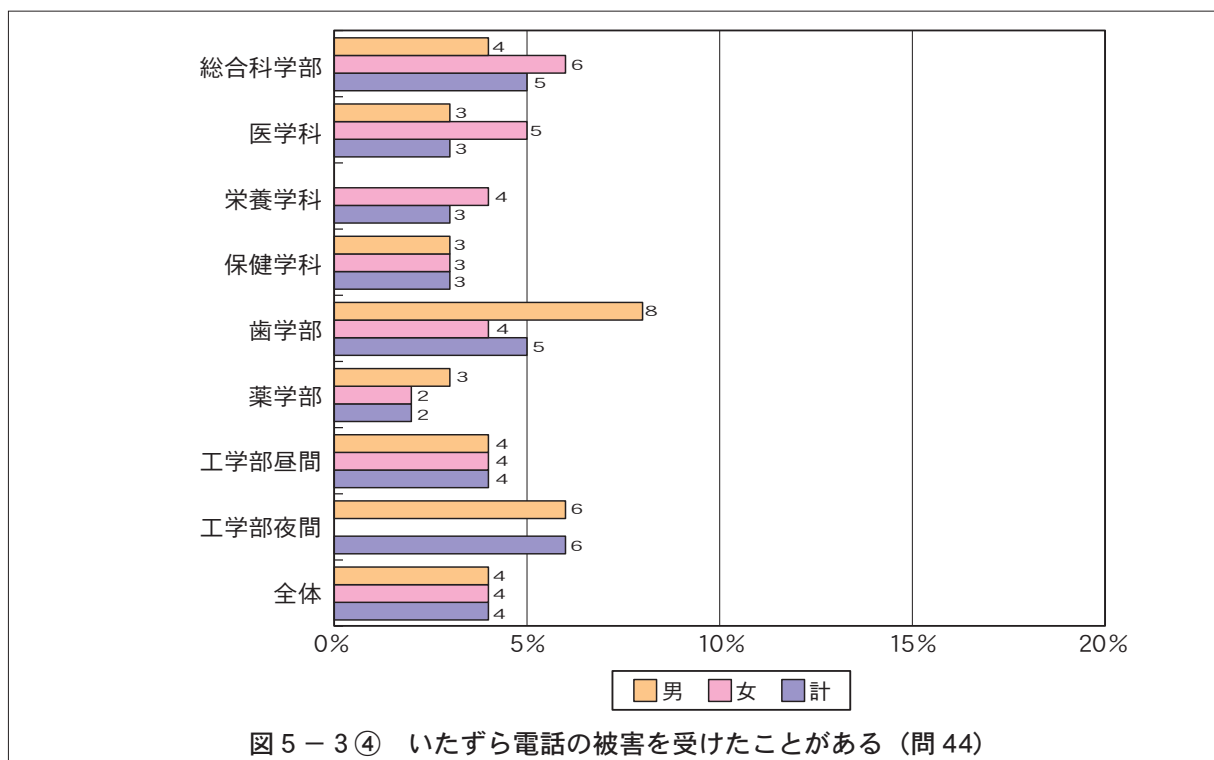
【悪徳商法】（図5-3③）

悪徳商法の勧誘を受けた学生は全体の3%であるが、栄養学科男子学生は11%と格段に高かった。前回では、どの学部・学科の男女共に5%以下であったことから、何らかの特殊要因が働いたように思われる。原因を調査し、注意喚起・予防対応の実施が必要である。



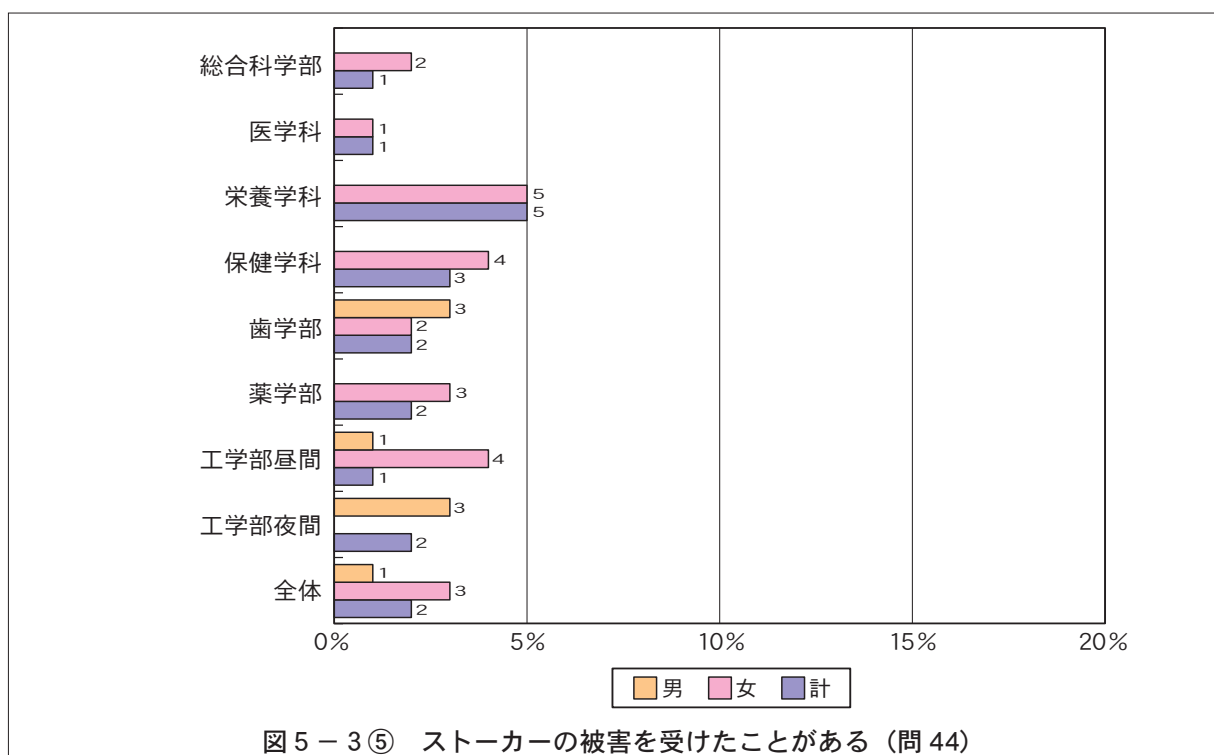
【いたずら電話】(図5-3④)

全体の4%の学生がいたずら電話を受けたと答えている。前回より、工学部夜間女子や医学部女子で10%と11%とそれぞれ高かったが、今回は、歯学部男子学生で8%と高いのみで、他は前回並みか前回以下の値であった。



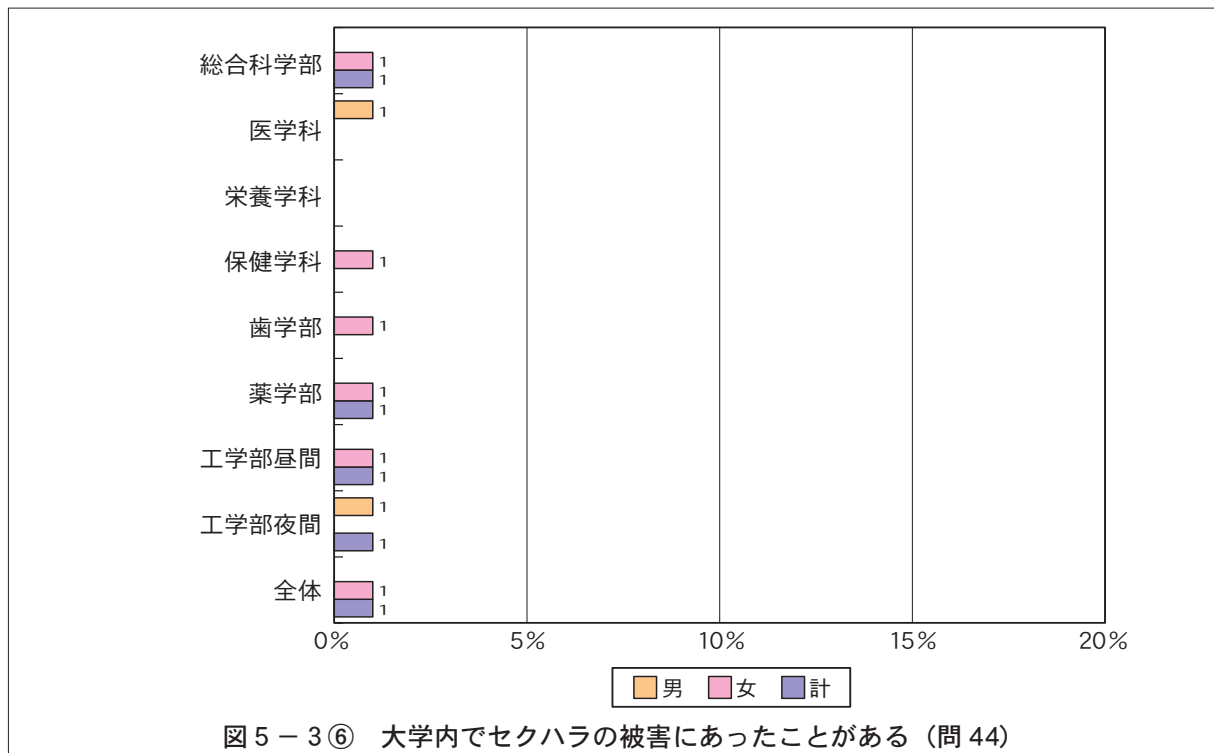
【ストーカー】(図5-3⑤)

前回は、全体で1%であったが、今回は2%と増加した。栄養学科女子で5%、保健学科女子で4%、工学部昼間女子で4%と高かった。男子でも、歯学部と工学部夜間が3%と目立って高かった。



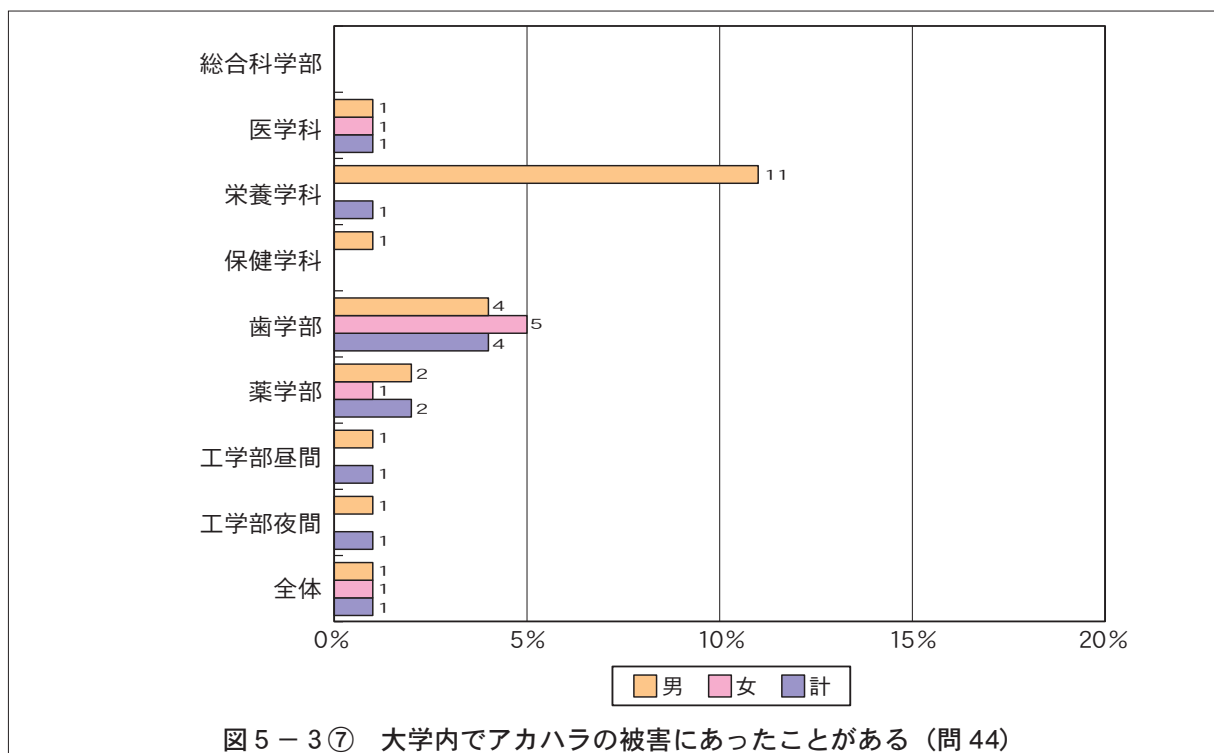
【大学内でのセクハラ】（図5-3⑥）

前回同様、全体で「大学内でセクハラの被害にあったことがある」と回答した者は1%であった。女性の方の割合が高目であった。セクハラ被害撲滅に向かって啓発運動を徹底する必要がある。



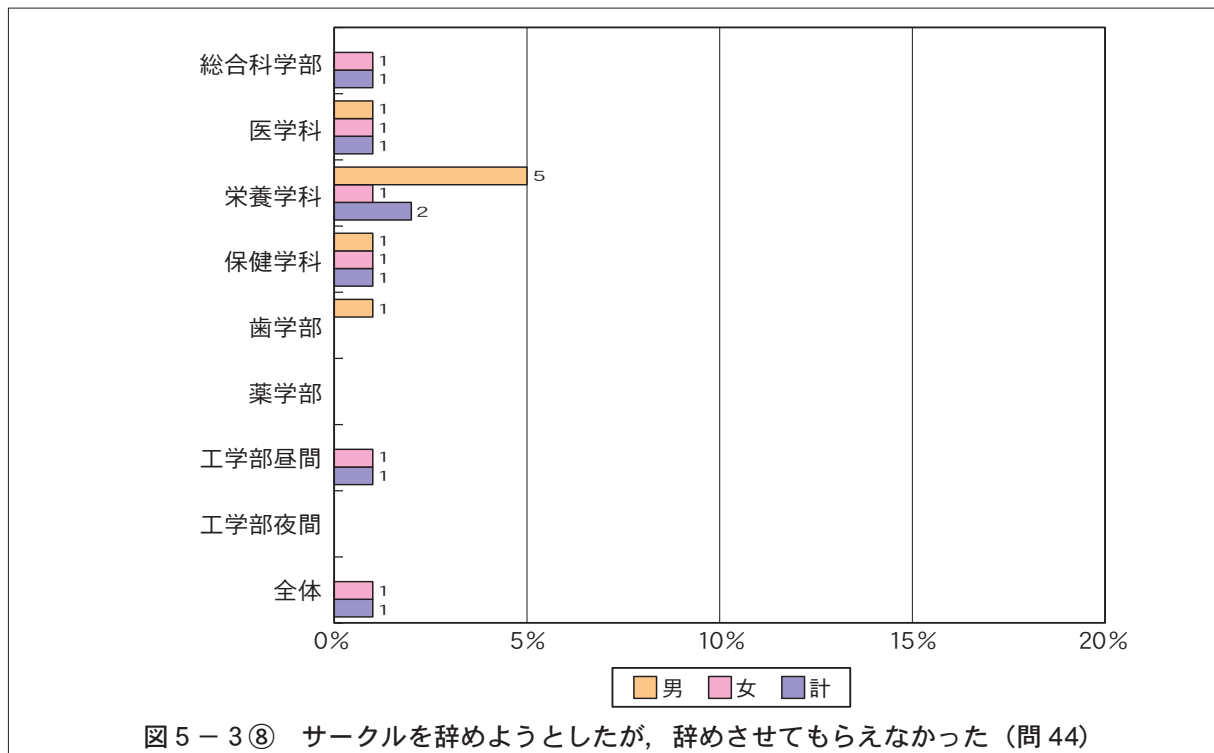
【大学内でのアカハラ】（図5-3⑦）

全体では1%であるが、栄養学科で実に11%の男子、歯学部で4%の男子と5%女子、薬学部で2%の男子がアカハラの被害にあったと答えている。大学と当該部局が連携して早急に解決に向け対応を協議する必要がある。



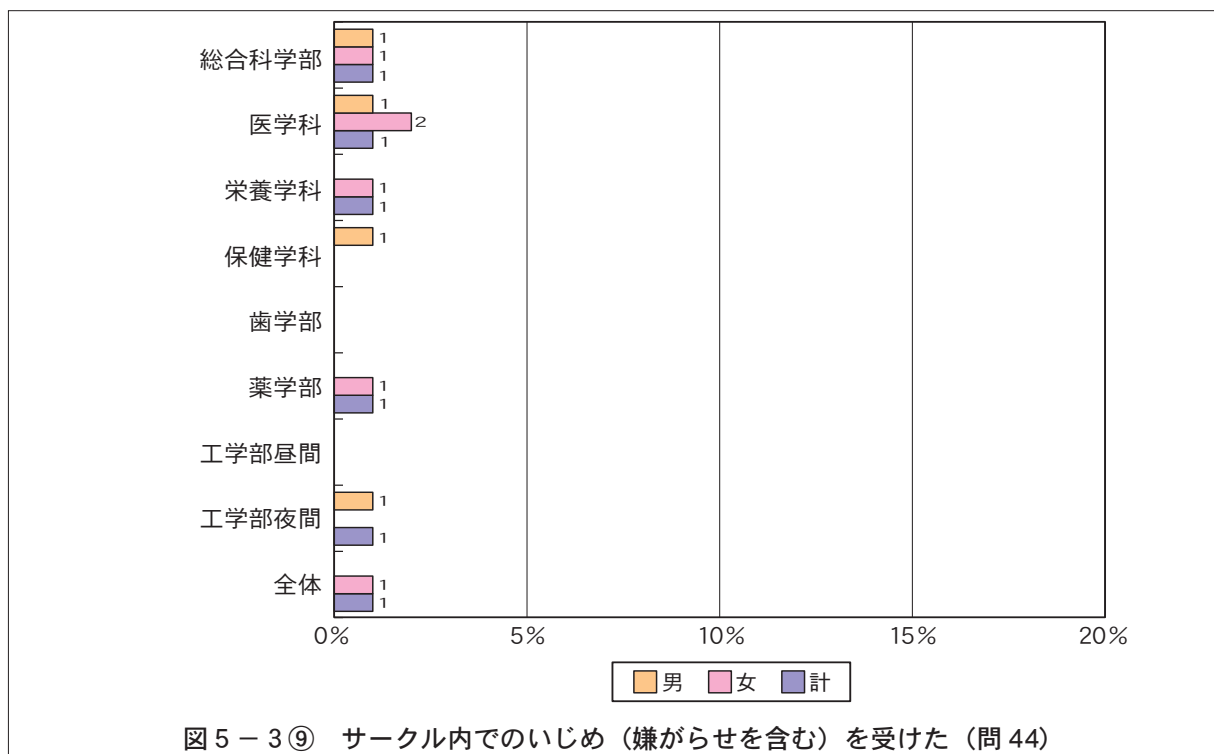
【サークル退部の阻止】（図5-3⑧）

前回どおり、全体に1%の学生がサークルを止めさせてもらえなかったと答えた。特に、栄養学科男子では、5%と高かった。学生の意向を尊重するようサークル活動の指導を強化すべきである。



【サークル内でのいじめ】（図5-3⑨）

前年どおり、全体の1%のサークル内でのいじめに合ったと答えている。サークル活動・運営に関する指導の中にいじめや飲酒強要などの項目を引き続き盛り込み、予防に努めることが必要である。



【カルトの勧誘】（図5-3⑩）

前回と同様、全体の5%がカルトの勧誘を受けていると答えた。男子の方が女子よりも勧誘を受けた割合が高い。学部別では、総合科学男子の10%が目立つ。カルト勧誘は、被害に繋がる潜在リスクを有しており、適切な啓蒙・予防対策を講じる必要がある。

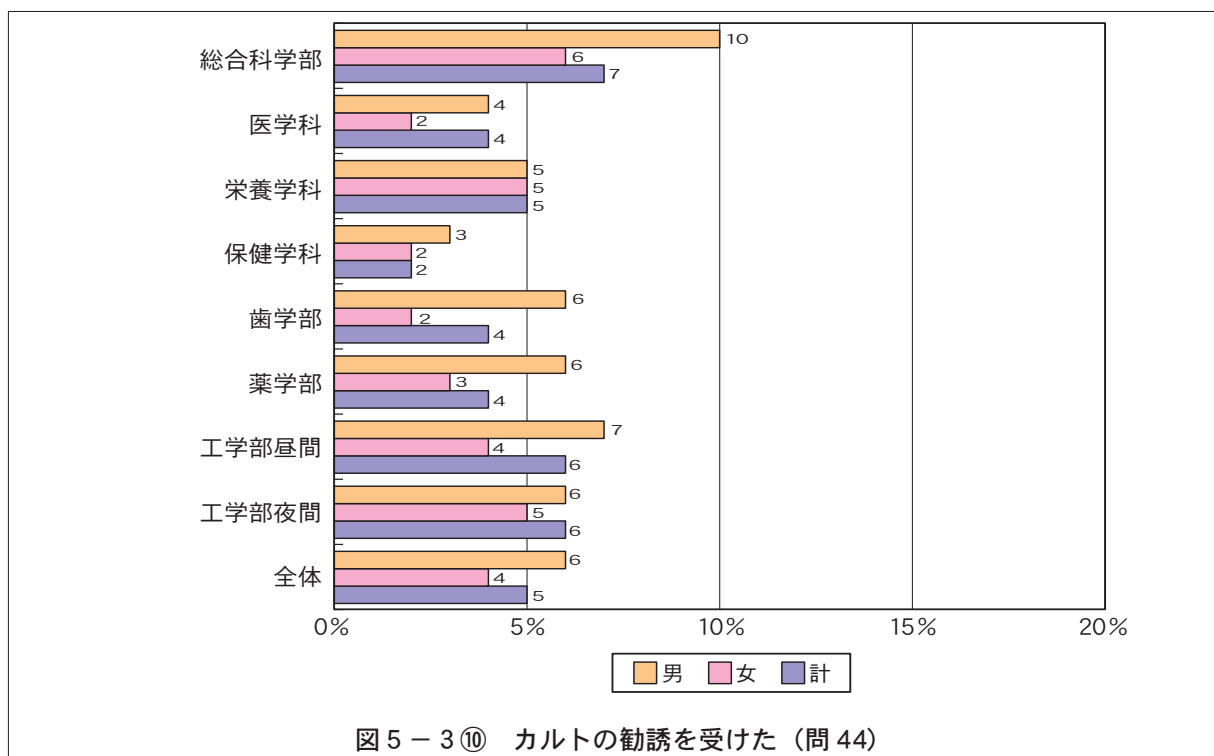


図5-3⑩ カルトの勧誘を受けた (問44)

【迷惑行為を受けた際の相談先】（図5-3⑪）

総合科学部は、友人、学生相談室、学務（教務）係、誰にもしないが4等分との結果となった。大学の相談システムや学生支援の職員を頼っているが、家族と教員の寄与がないのが気になりである。歯学部も11%が学生相談室を利用していたが、1位は友人、2位は家族であった。全体では、学生相談室への相談が前回の9%から4%に低下していた。その利用を促進するような広報活動が必要である。保健学科と工学部昼間は、1位が友人、2位が家族と教員であったが、薬学部や工学部夜間は、友人以外に相

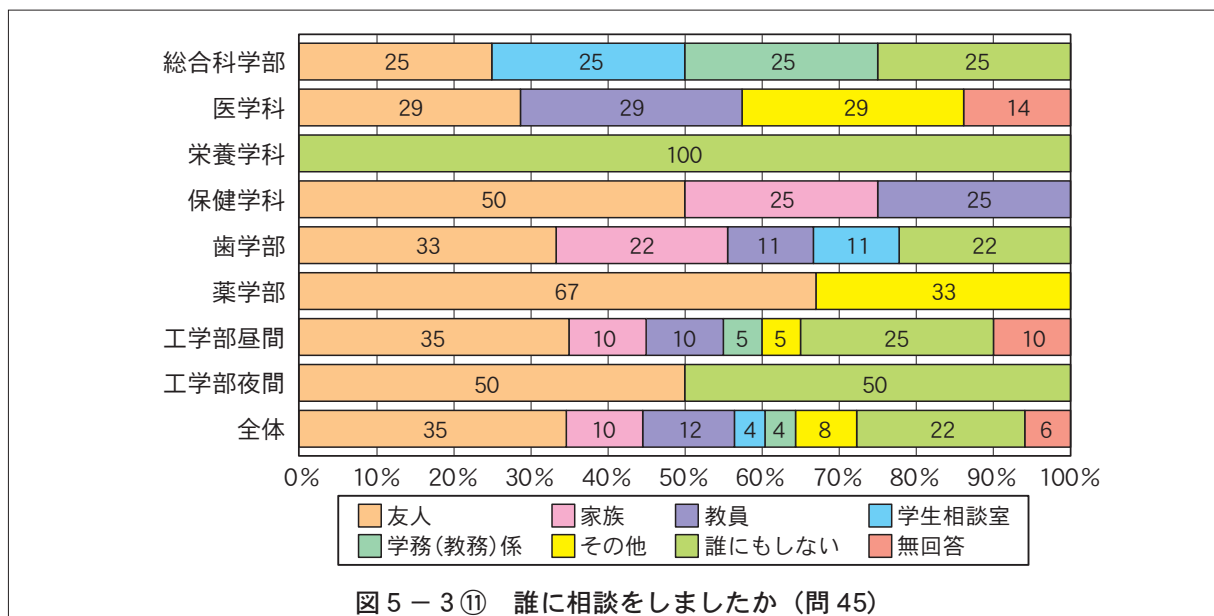


図5-3⑪ 誰に相談をしましたか (問45)

談していないし、栄養学科では誰にも相談しないとの回答のみであった。誰にも頼れないという状況を打破する処置を早急に講じる必要がある。

【学生相談室】(図5-3⑫)

「学生相談室を利用したことがある」と答えた学生は全体で9%（前回8%）であった。総合科学部と歯学部が11%と高く、薬学部が6%と低かった。「学生相談室を知らない」と答えた学生は、全体で19%であり、前回の16%より増加した。学生相談室への相談機会を逸し問題が複雑化することになるリスクが増えていることを示唆している。活動報告を含め学生相談室の公報により一層に努力する必要がある。

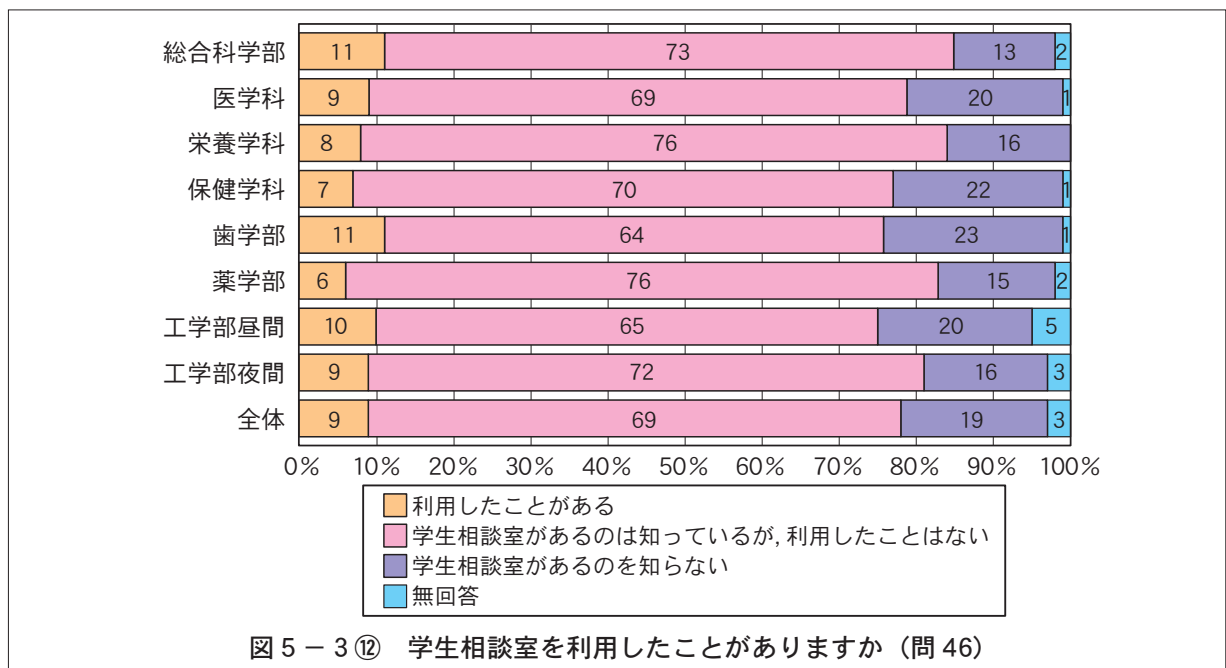


図5-3⑫ 学生相談室を利用したことがありますか(問46)

5-4 教職員・友人との交流 (図5-4①~図5-4⑥)

【教員との会話・質問】(図5-4①~図5-4③)

教職員と7回以上会話・質問した学生は、全体では30%であった（前回31%）。薬学部では56%と

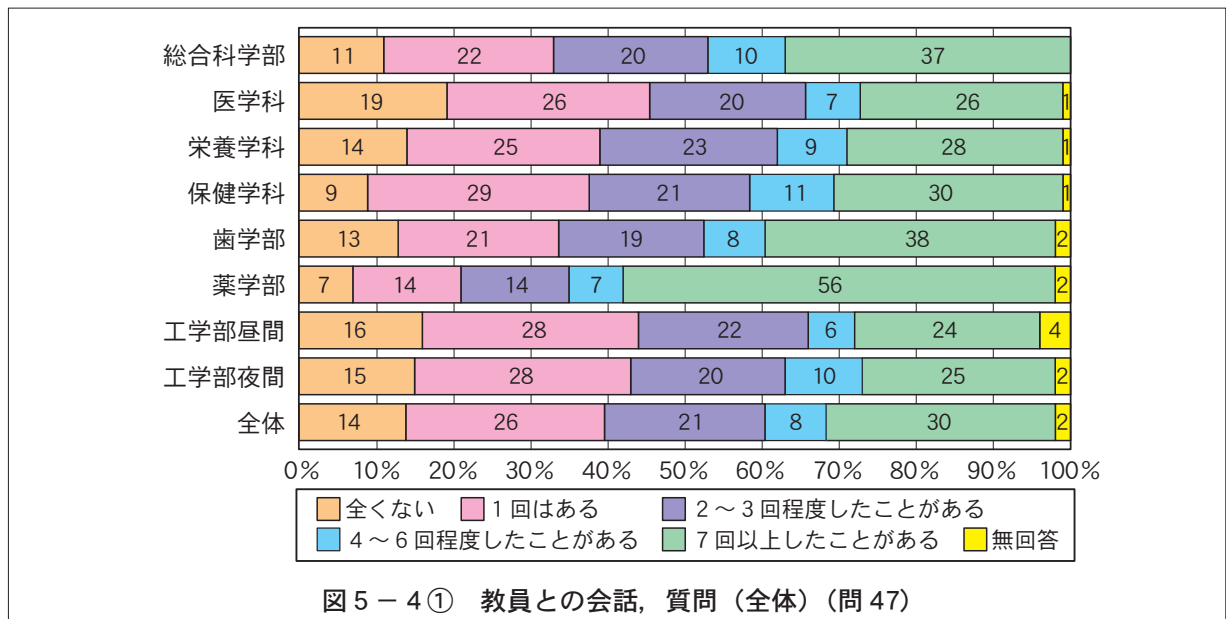


図5-4① 教員との会話、質問(全体)(問47)

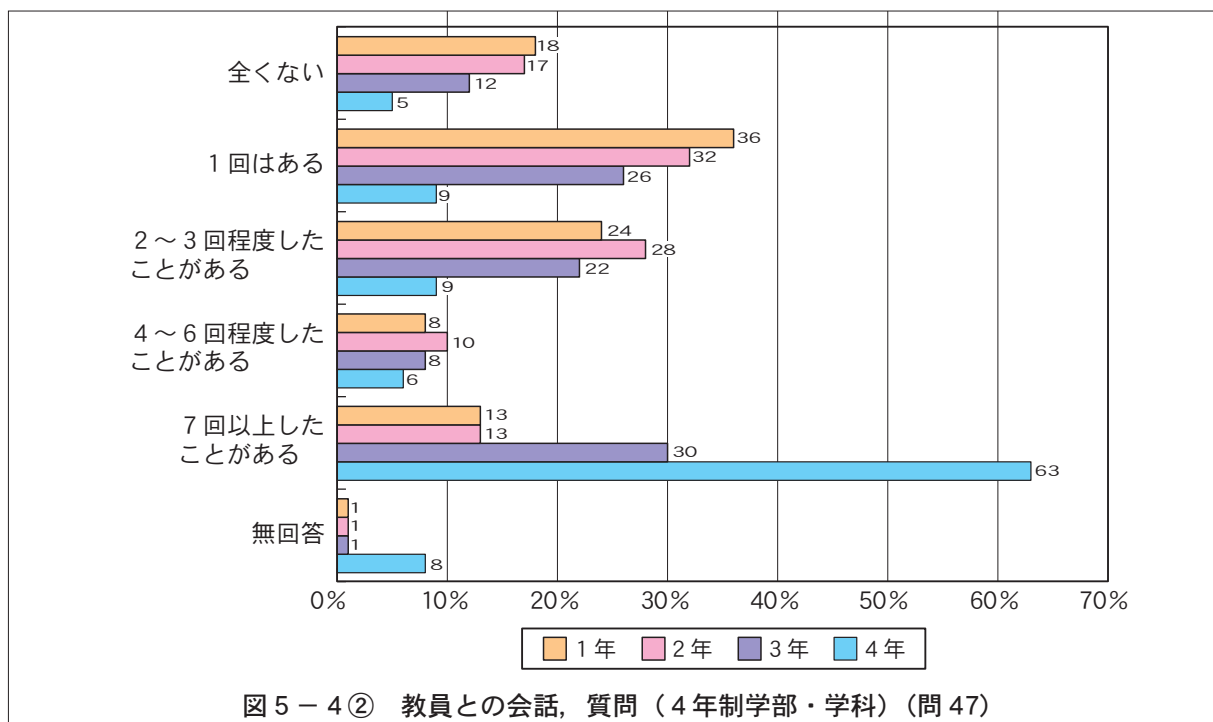


図5-4② 教員との会話，質問（4年制学部・学科）（問47）

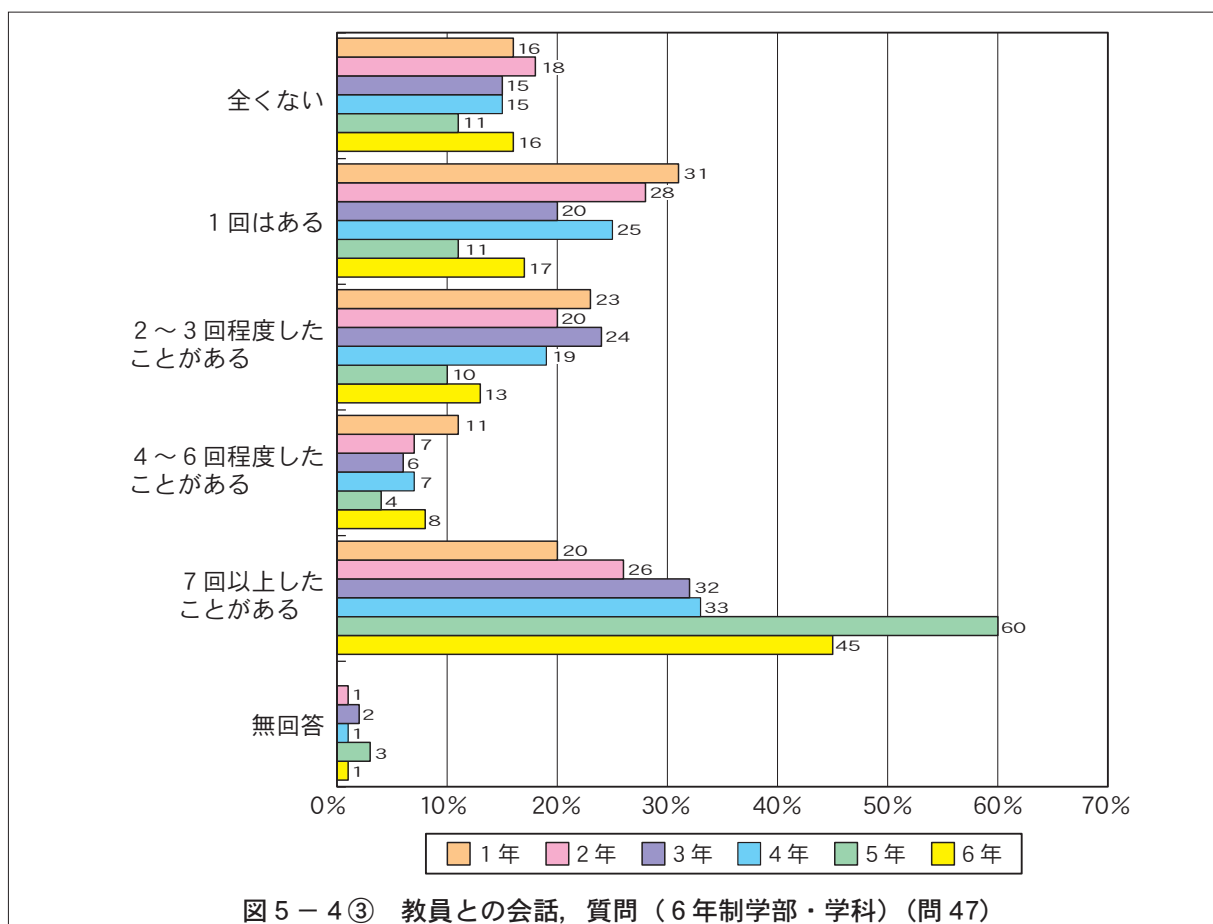


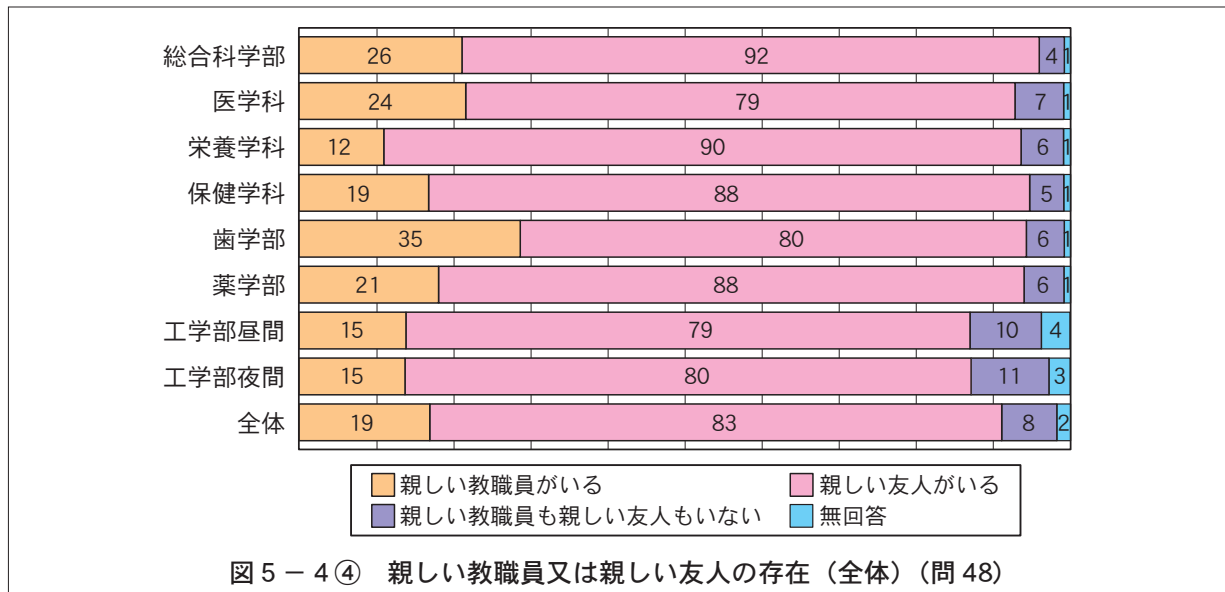
図5-4③ 教員との会話，質問（6年制学部・学科）（問47）

突出して高い値であった。クラス担任，学年担任研究指導で教員とのコミュニケーションが図られているものと思われる。前回同様，「全くない」と答えた学生が全体で14%であった。また，この点は改善されておらず。引き続き対策を講じる必要がある。工学部夜間では，「全くない」と答えた学生が前回の21%から15%に低下し，「7回以上ある」と答えた学生は，前回の15%から25%に増加した。担当教員の努力が表れてきたのかもしれない。4年制では，学年が上がるにつれ教員との会話回数が増えるが，

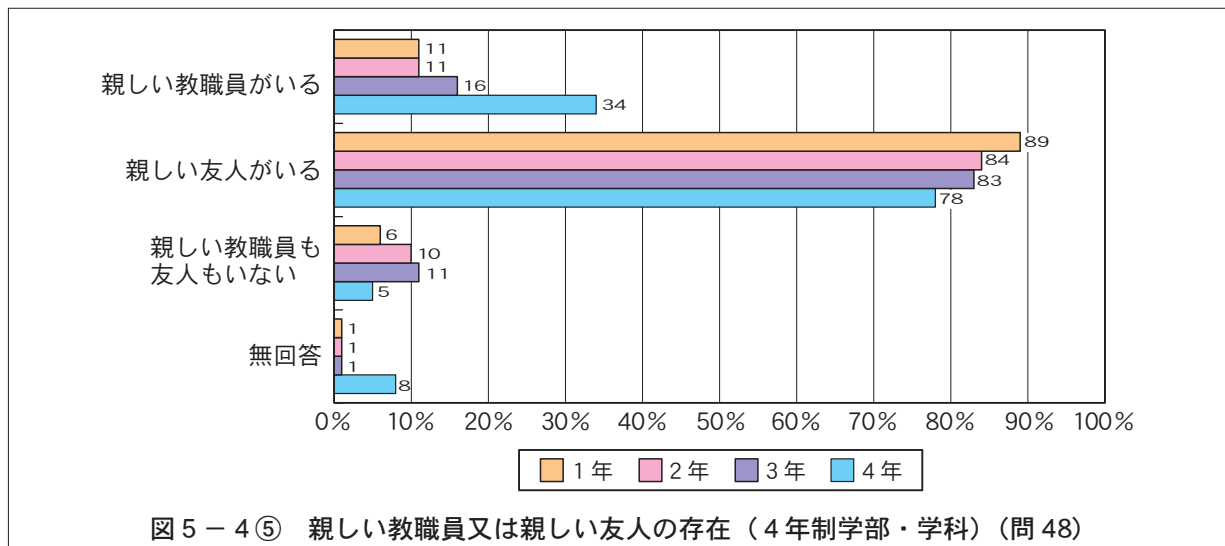
4年生で、その増加が顕著であった。6年制でも同様の傾向であり、5年生と6年生で回数が増加した。研究やゼミナールなど指導がより個別化していくためと思われる。学生の中には、教員とのコミュニケーションに苦手意識を持つ学生も含まれており、対話形式の授業、合宿形式の授業、体験授業、演習、実習を通じて教員側からの働きかけを強めていくことが望まれる。

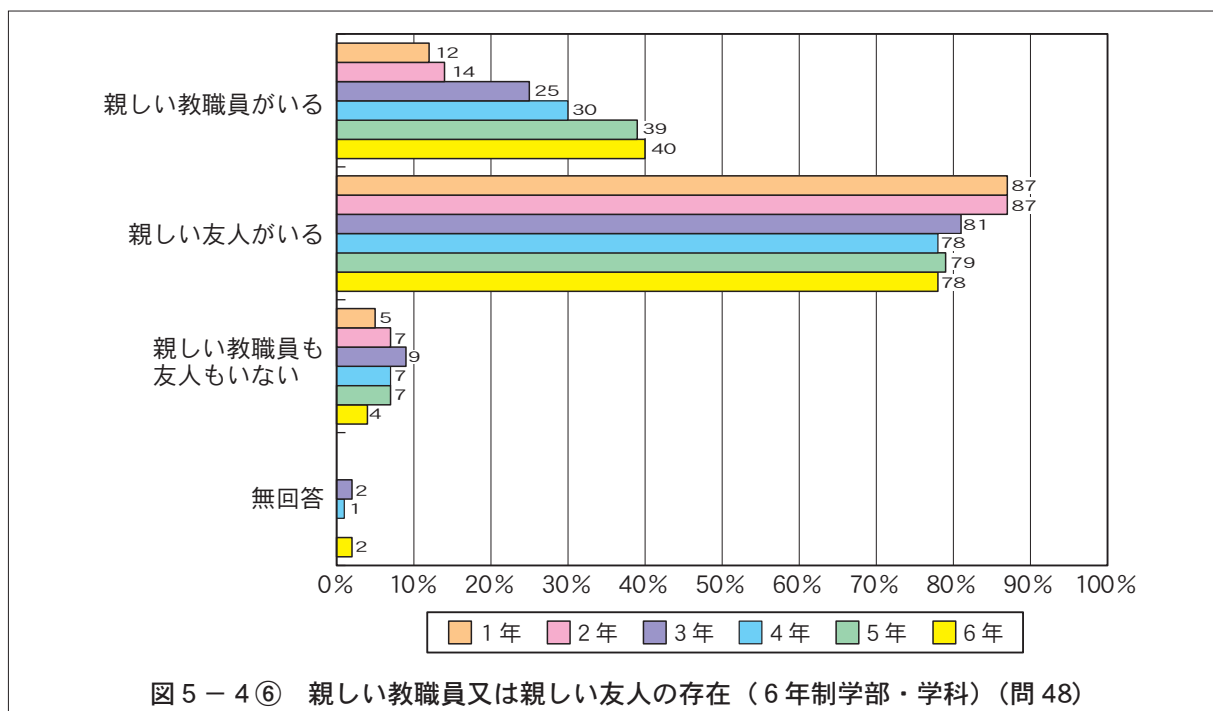
【親しい教職員・親しい友人の存在】(図5-4④~図5-4⑥)

「親しい教職員がいる」と答えた学生は、全体で19%(前回18%)であった。歯学部が一番高く、次いで総合科学であった。4年制も6年制も学年進行につれて「親しい教職員がいる」と答えた割合が高くなったが、6年制でその傾向がより強かった。より長い期間での交流の成果かもしれない。親しい教職員も友人もないと回答した学生は、全体で8%と前回6%より増加した。このような学生に対する心理的支援を強化する必要がある。



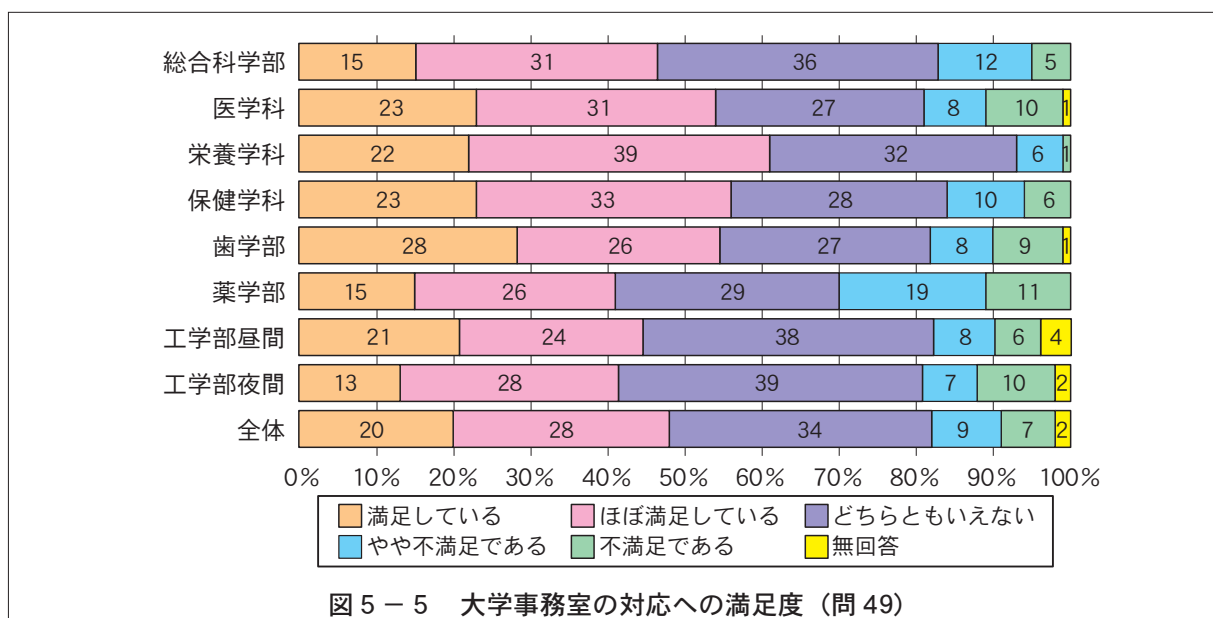
(※問48は複数回答のため合計は100%にはならない。)





5-5 大学事務室の対応への満足度 (図5-5)

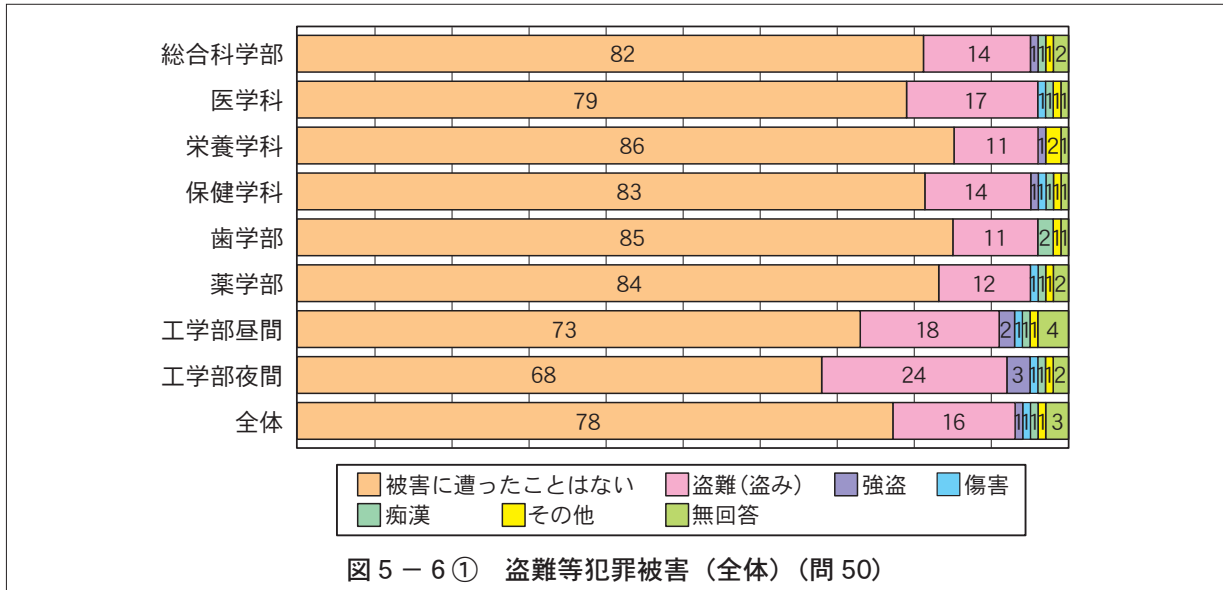
全体では、「満足」と「ほぼ満足」を合わせると48%であり、前々回の33%、前回の42%より高くなった。大学職員の丁寧な対応など職員の努力の賜物と思われる。引き続き、細やかな対応を継続していくことが望ましい。「やや不満足」と「不満足」を合わせた割合は、全体では16%、学部・学科別では薬学部が最も高く30%であった。改善策を考慮する必要がある。



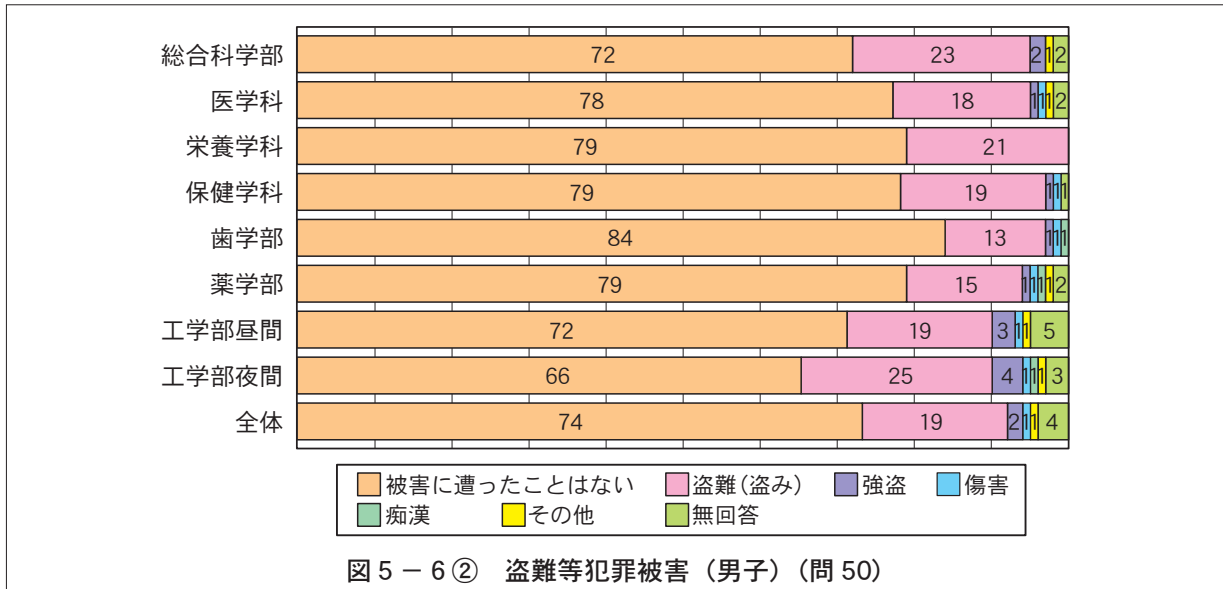
5-6 盗難等犯罪被害 (図5-6①~図5-6⑤)

【盗難等犯罪被害】(図5-6①~図5-6③)

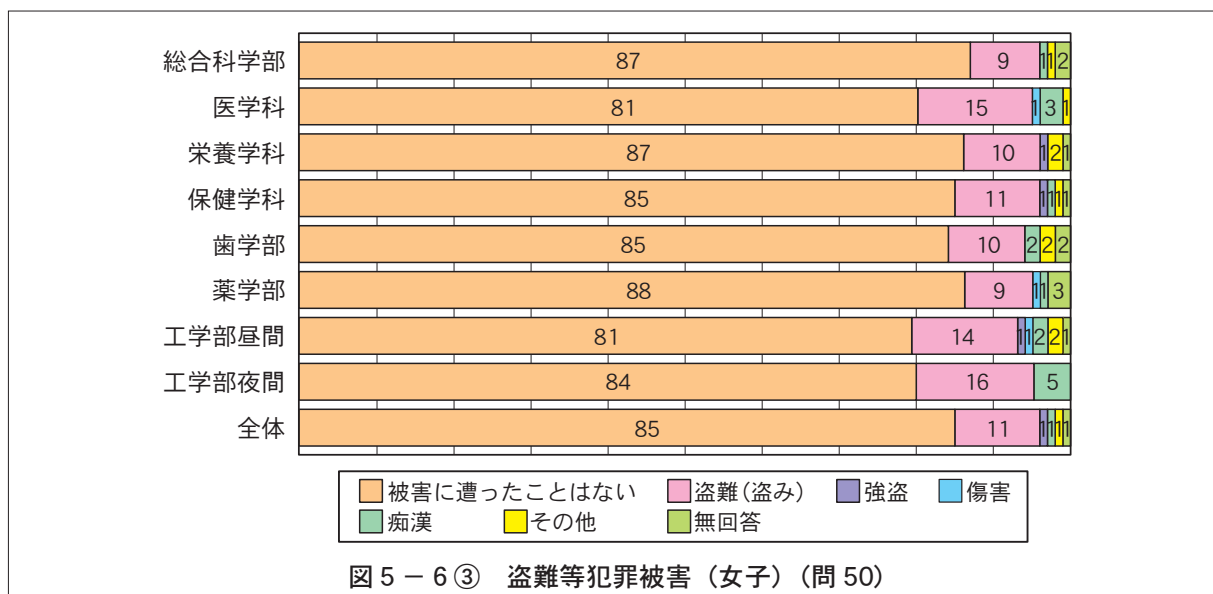
前回同様、盗難の被害にあったと回答した学生は、全体の16%にも上る。工学部夜間では24%と高かった。女性よりも男性の方の割合が低い。女性の方が警戒感を高めていると予想される。男性には防犯広報を強化し、被害を予防する生活態度を固めるよう指導することが必要である。強盗の被害が工学部昼間と夜間で2%と3%と高く、総合科学部、栄養学科、保健学科でも1%も存在した。強盗の被害は男性の方が女性より、はるかに割合が高かった。また、痴漢にあった学生の割合が各学部で1%である。女性に限ると、工学部夜間で5%、医学科で3%と高く、防犯教育を強化する必要がある。



(※問50は複数回答のため合計は100%にはならない。)



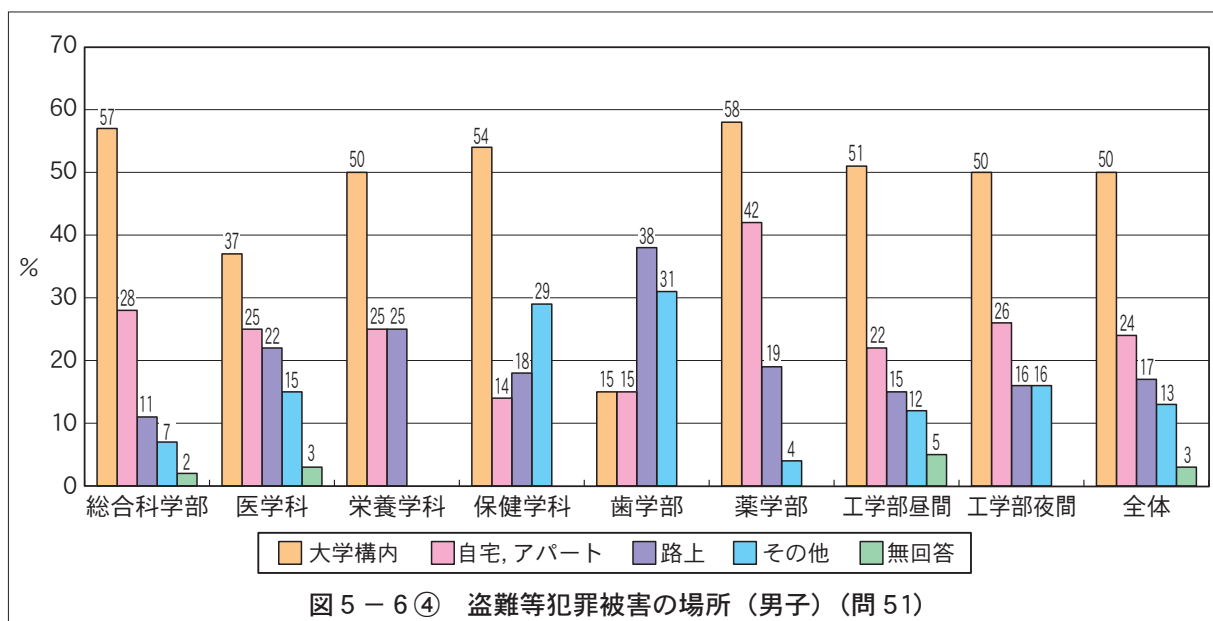
(※問50は複数回答のため合計は100%にはならない。)



(※問 50 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

【盗難被害場所】（図 5 - 6 ④, 図 5 - 6 ⑤）

前回同様、男女とも、大学構内と答えた割合は全体で 50% と 43% と高い割合を示した。防犯教育を徹底し、構内に防犯意識を高める啓発ポスターを多数掲示するなどの対策が求められる。また、大学構内で起こった盗難等犯罪被害については、即座に全学に通知し、注意を呼びかけて再発防止を図るべきである。また、大学には盗難等犯罪被害時の警察官の立入りに関するガイドラインが用意されている。学生委員会委員や学生支援の担当教職員が適切に犯罪被害に対応できるよう定期的な研修を行う必要がある。



(※問 51 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

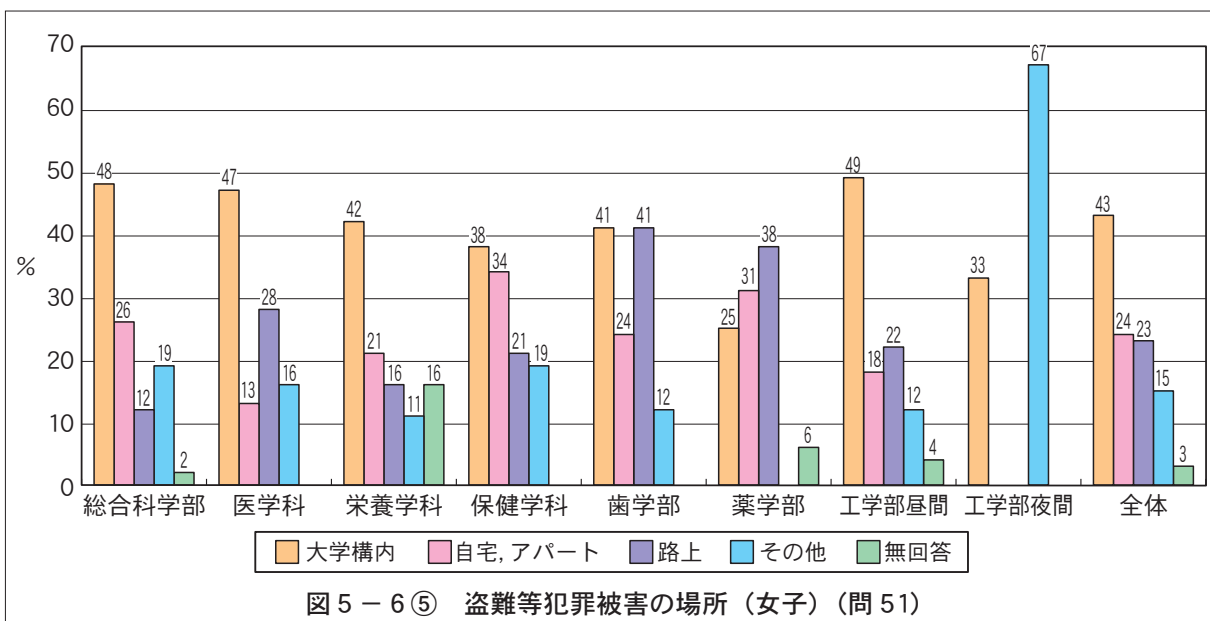


図5-6⑤ 盗難等犯罪被害の場所(女子)(問51)

(※問51は複数回答のため合計は100%にはならない。)

第6章 修学状況について

6-1 本学を選んだ理由と所属学部への満足度 (図6-1①, 図6-1②)

本学を選んだ理由(複数回答可)は「国立大学だから」が最も多く(39%)、続いて「希望する学部・学科があったから」が32%、「地元の大学だから」が29%となっており、前回調査と同様の傾向を示している(図6-1①)。学部別の結果も前回調査と同様であり、総合科学部と工学部では「国立大学だから」との回答が最も多い(総合科学部:49%、工学部昼間:38%、工学部夜間:46%)。一方、医学部と歯学部、薬学部では「希望する学部・学科があったから」との回答が最も多く(医学部:46%、歯学部:41%、薬学部:63%)、入学時における目的意識の高さがうかがわれる。

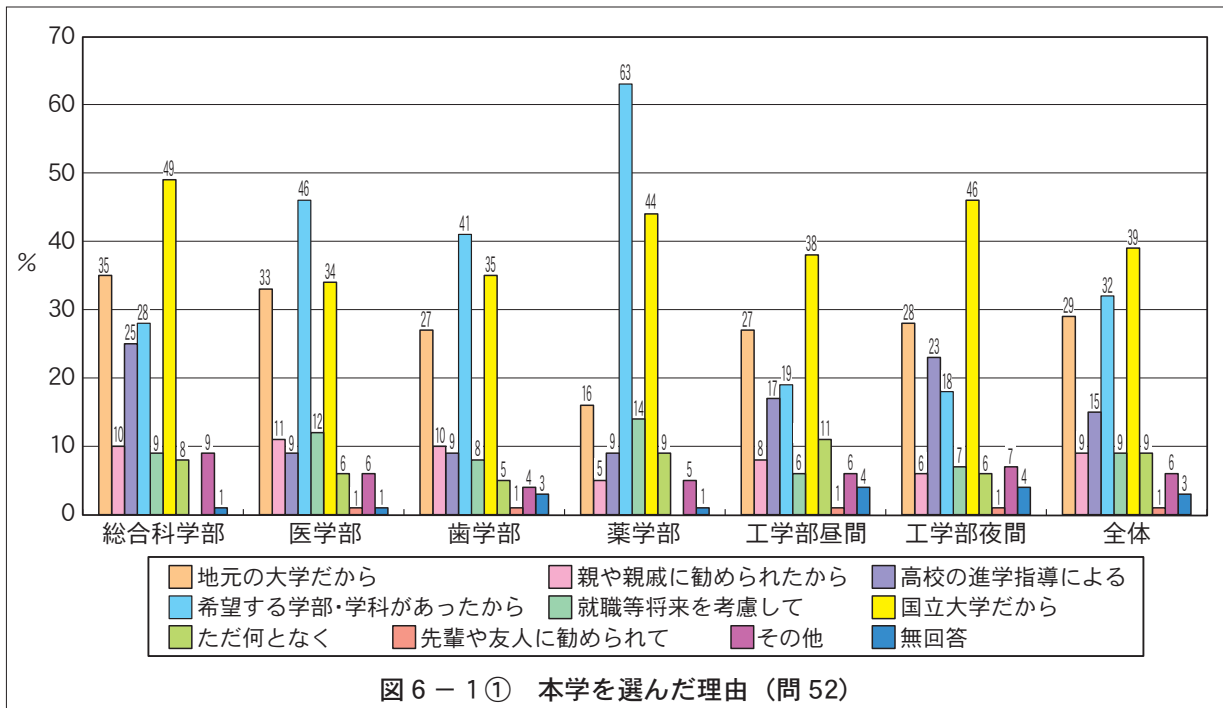


図6-1① 本学を選んだ理由 (問52)

(※問52は複数回答のため合計は100%にはならない。)

所属学部・学科に「満足している」と回答した学生は32%であり、「ほぼ満足している」と答えた学生(34%)と合わせて66%であった(図6-1②)。一方、「やや不満足である」は6%、「不満足である」は4%、「無回答」は2%であった。

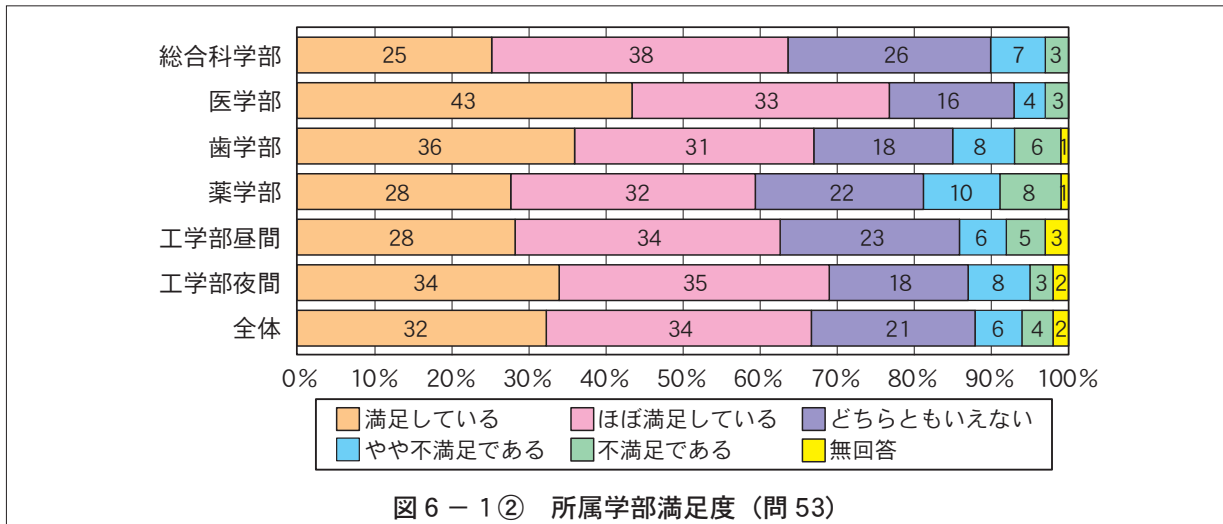
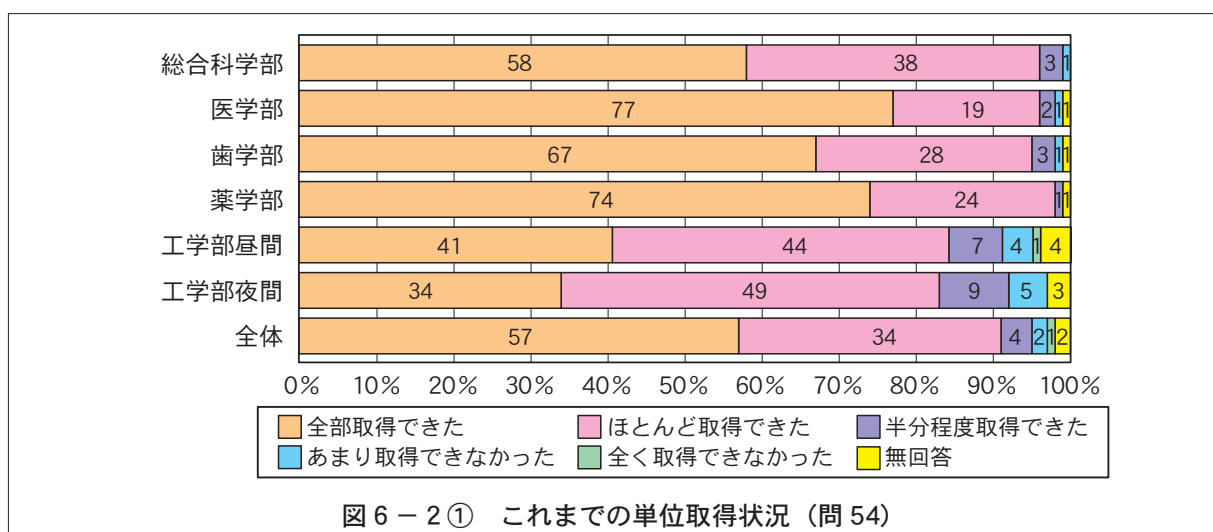


図6-1② 所属学部満足度 (問53)

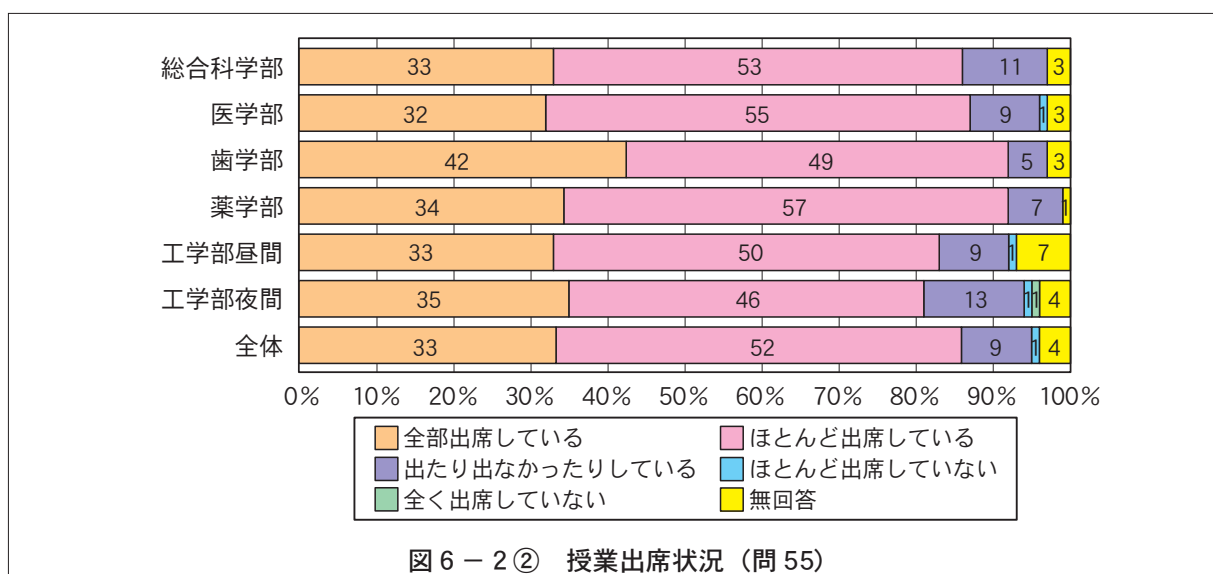
る」は4%となっている。学部別に見ると、医学部の満足度（満足している：43%，ほぼ満足している：33%）が非常に高い。最低の薬学部にしても「満足している（28%）」と「ほぼ満足している（32%）」を合わせた回答が60%を示し、概ね、所属学部には満足していると言える。

6-2 単位取得状況と授業出席状況 (図6-2①~図6-2③)

図6-2①より、これまでの単位取得状況について「全部取得できた」（57%）または「ほとんど取得できた」（34%）と回答した学生の割合は91%であり、前回調査（90%）とほぼ同じ割合であった。学部別に見ると、工学部では「全部取得できた」または「ほとんど取得できた」と回答した学生の割合（昼間：85%，夜間83%）が前回調査と同様に全体平均を下回っている。



また、授業の出席状況について、図6-2②より、「全部出席している」（33%）または「ほとんど出席している」（52%）と回答した学生の割合は、85%であった。学部別に見ると、「全部出席している」または「ほとんど出席している」と回答した学生が工学部昼間では83%であり、前回調査と同様に全体平均を下回っている。さらに今回は工学部夜間（81%）も全体平均を下回った。



授業の欠席理由（複数回答可）については、「授業に魅力がない」が最も多く（39%），続いて「勉学の意欲がわからない」が38%，「授業が理解できない」が11%であった（図6-2③）。教員には、学生の興味を掻き立てることに加えて、より分かりやすい授業を行うための一層の努力が望まれる。

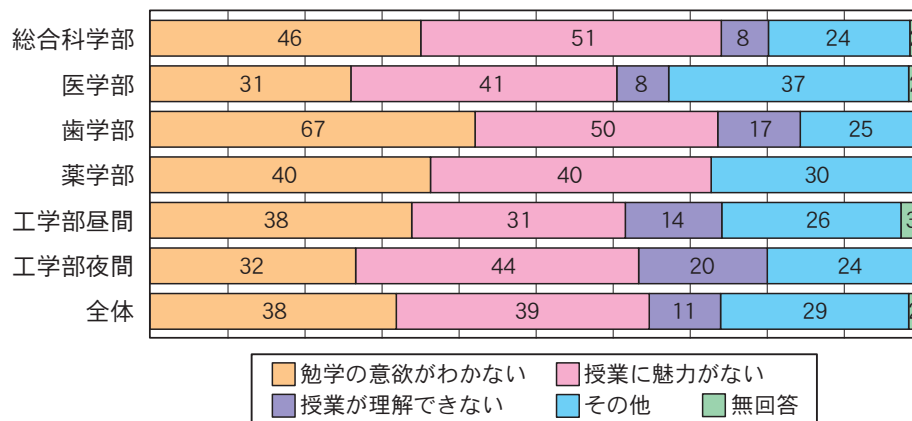


図6-2③ 授業欠席理由 (問56)

(※問56は複数回答のため合計は100%にはならない。)

6-3 授業の満足度 (図6-3①, 図6-3②)

図6-3①より、受講している授業への満足度に対する設問に対しては、「ほぼ満足している」との回答(43%)が最も多く、続いて「どちらともいえない」が30%、「満足している」が15%、「やや不満足である」が6%、「不満足である」が3%となっている。学部別に見ると、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は、前回調査(42%)と同様に薬学部(52%)が最も低かった。

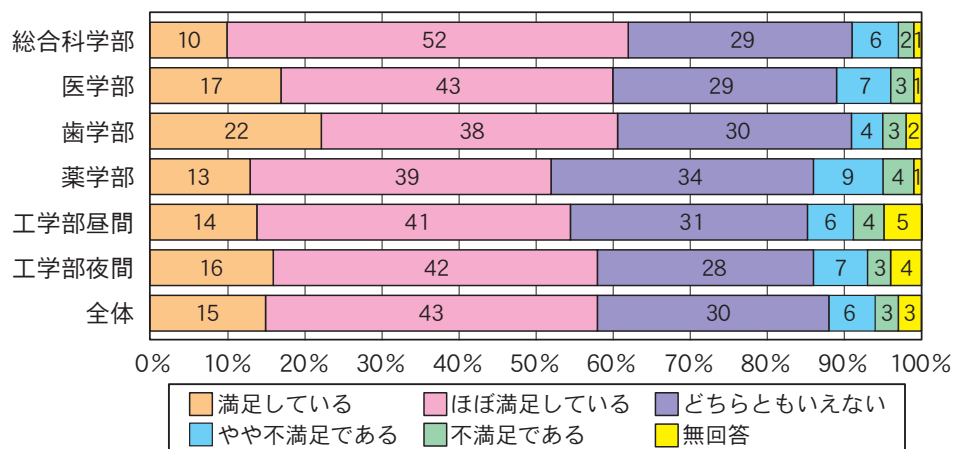
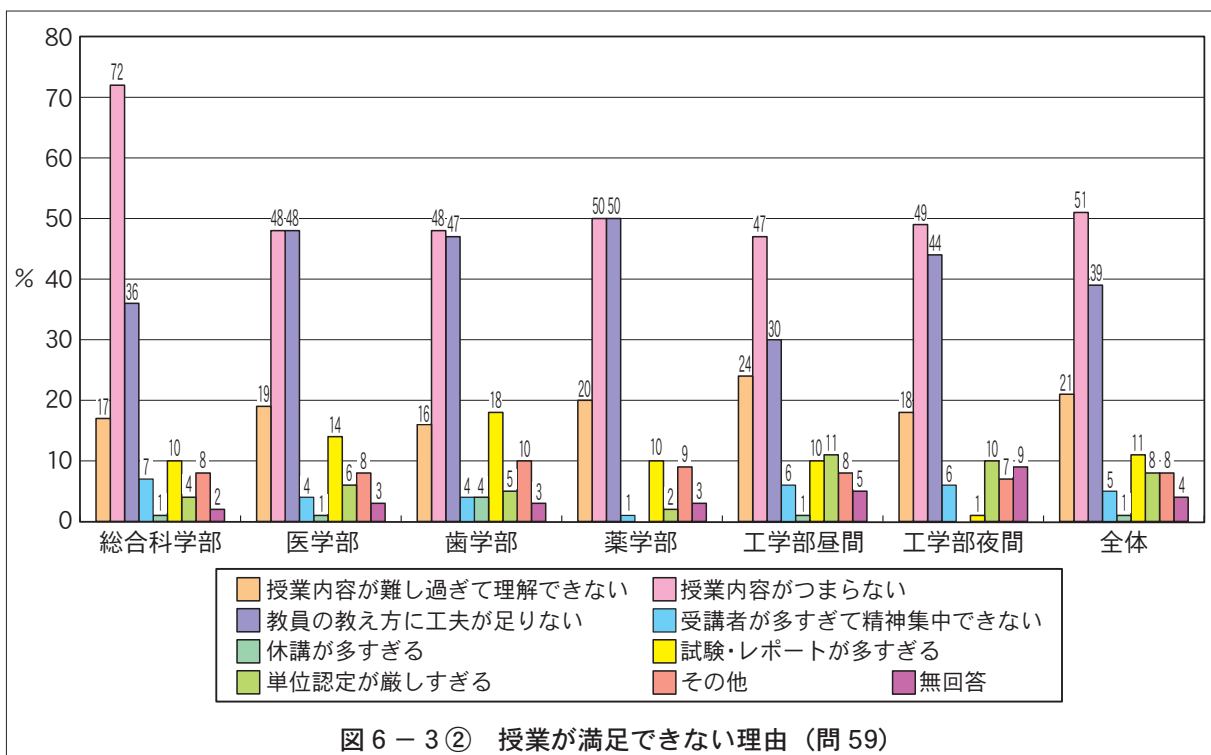


図6-3① 授業の満足度 (問58)

授業が満足できない主な理由(複数回答可)は、「授業内容がつまらない」が最も多く(51%)、「教員の教え方に工夫が足りない」が39%、「授業内容が難しすぎて理解できない」が21%となっている(図6-3②)。



(※問 59 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

6-4 授業予習復習時間とカンニング経験 (図 6-4①, 図 6-4②)

授業の予習・復習に費やす 1 日の平均時間は、「1 時間未満」との回答 (57%) が最も多く、次いで「1 時間以上～2 時間未満」が 28%、「2 時間以上～3 時間未満」が 8% となっており、前回調査 (1 時間未満: 61%, 1 時間以上～2 時間未満: 25%, 2 時間以上～3 時間未満: 7%) と同様に予習・復習に費やす時間は短い (図 6-4①)。各学部とも同様の傾向ではあるが、「1 時間未満」との回答が薬学部 (78%) のみ突出している。

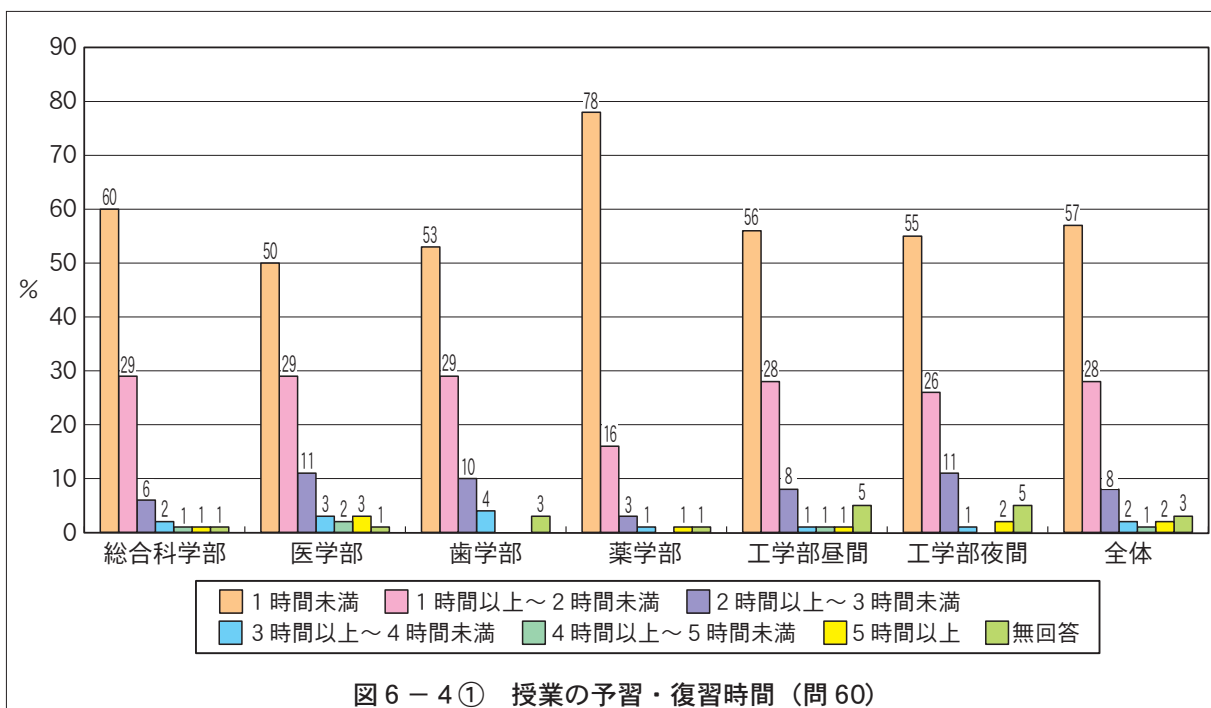
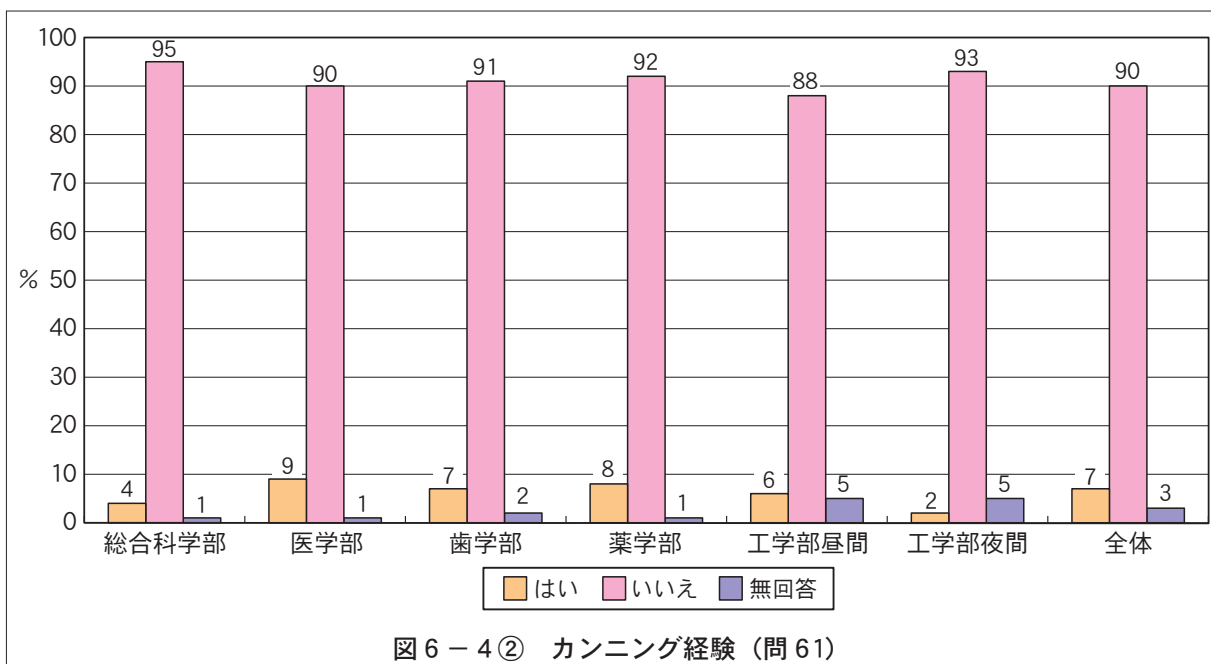


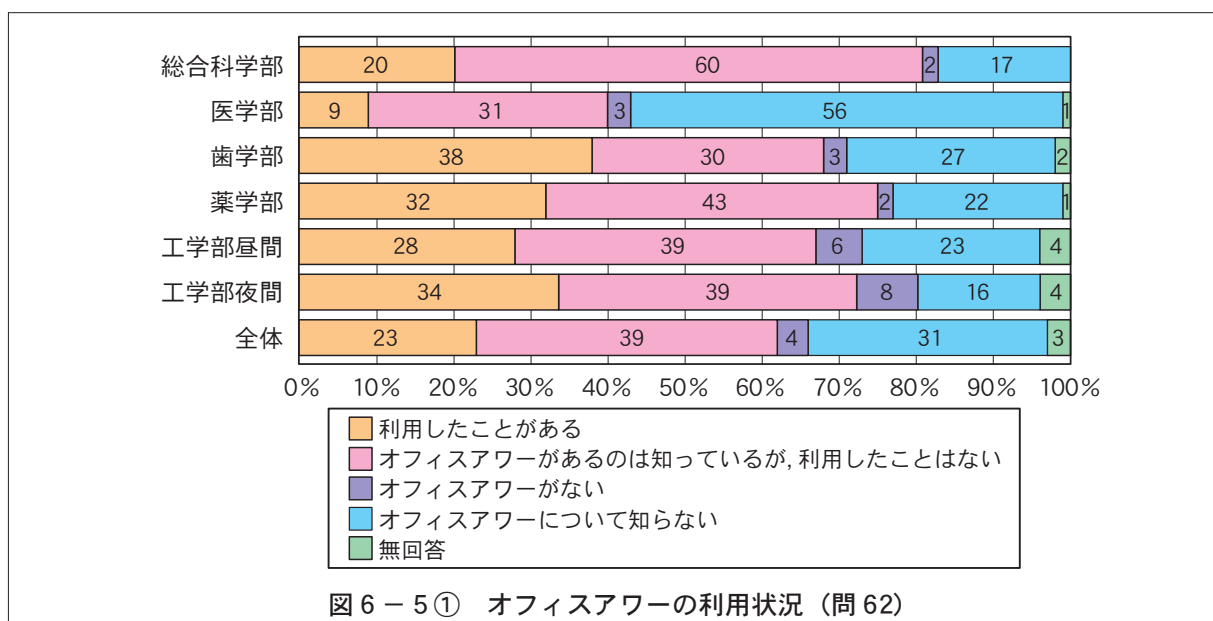
図 6-4① 授業の予習・復習時間 (問 60)



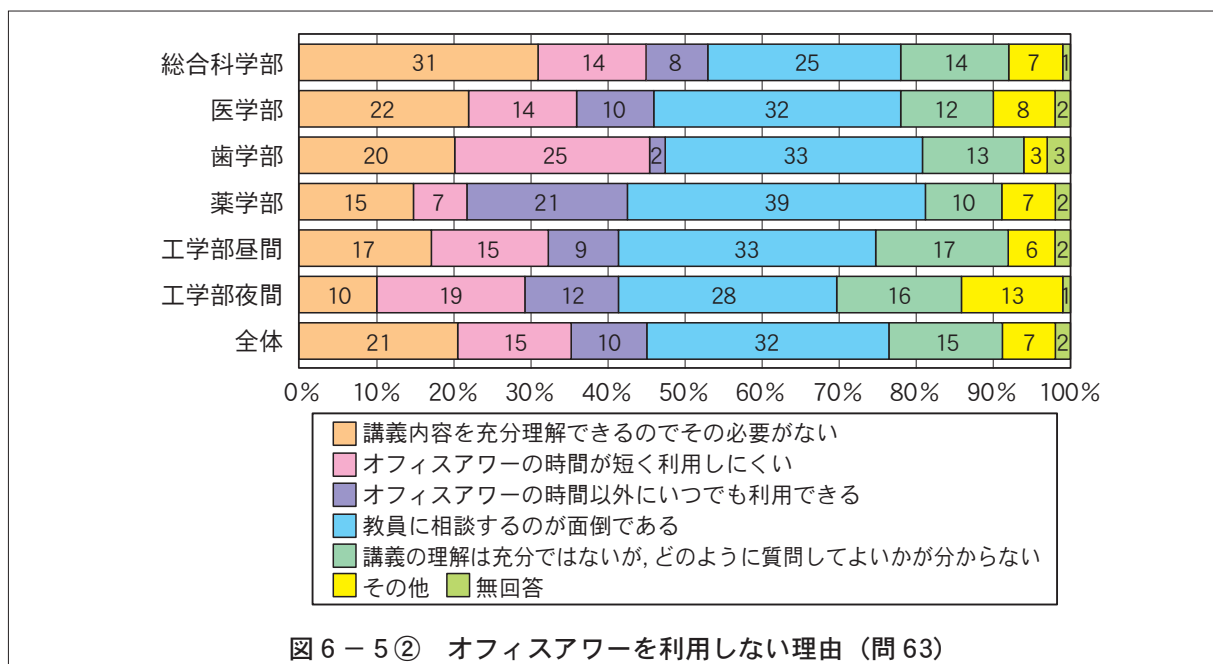
カンニングをしたことがあるかとの設問には、7%の学生が「ある」と回答しており、前回調査（9%）とほぼ同じ結果であった。カンニングに対する各学部のより一層の厳格な取組が求められる。

6-5 オフィスアワーの利用状況 (図6-5①, 図6-5②)

オフィスアワーについては、23%の学生が「利用したことがある」と答えており、前回調査（23%）と同様の結果である(図6-5①)。一方で、「オフィスアワーについて知らない」と回答した学生(31%)は前回調査（33%）より減っており、オフィスアワーの周知へ向けた一層の取り組みが必要である。学部別に見ると、医学部でのオフィスアワー利用状況が極端に低い（利用したことがある：9%）。



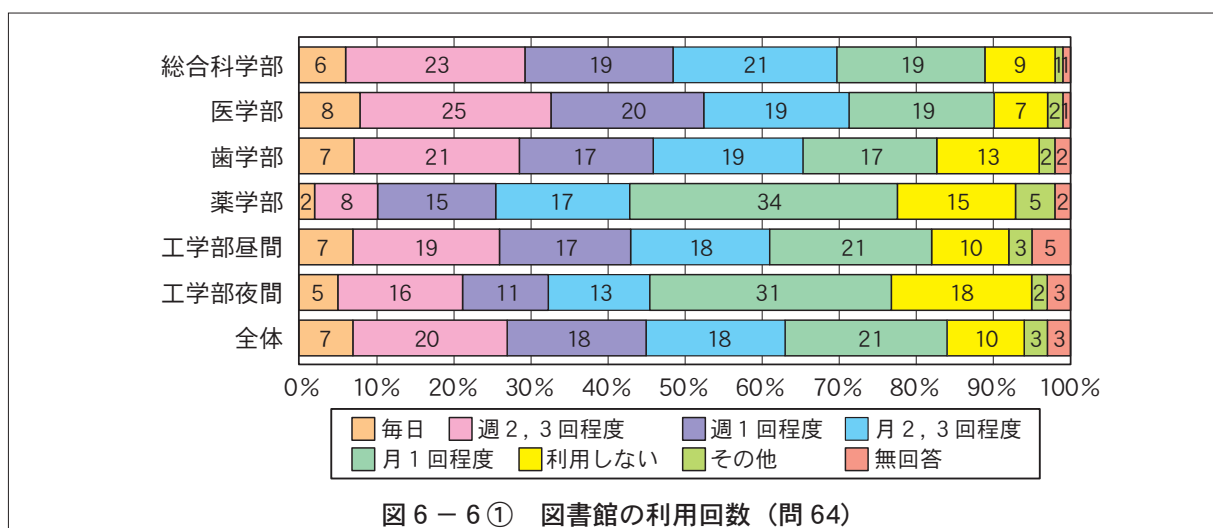
オフィスアワーを利用しない理由としては「教員に相談するのが面倒である」との回答が最も多く（32%）、次いで、「講義内容が充分理解できるのでその必要がない」が21%、「講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいかかわからない」と「オフィスアワーの時間が短く利用しにくい」がいずれも15%、と「オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる」が10%であった(図6-5②)。



6-6 図書館の利用状況 (図 6-6①, 図 6-6②)

図書館を1週間に1回以上利用する学生は45%（毎日：7%，週2～3回程度：20%，週1回程度：18%）であり、前回調査の29%（毎日：3%，週2～3回程度：13%，週1回程度：13%）を上回った。蔵本分館の改修工事が終了したことが要因として考えられる。学部別に見ると、薬学部の利用回数が極端に低く、図書館を1週間に1回以上利用するとの回答は25%であった。

図書館を利用する理由（複数回答可）としては「自習」（54%）が最も多く、次いで「図書等の貸し出し」が35%、「パソコンの利用」が24%であった。学生の多様なニーズに対応したサービスの一層の充実が望まれる。



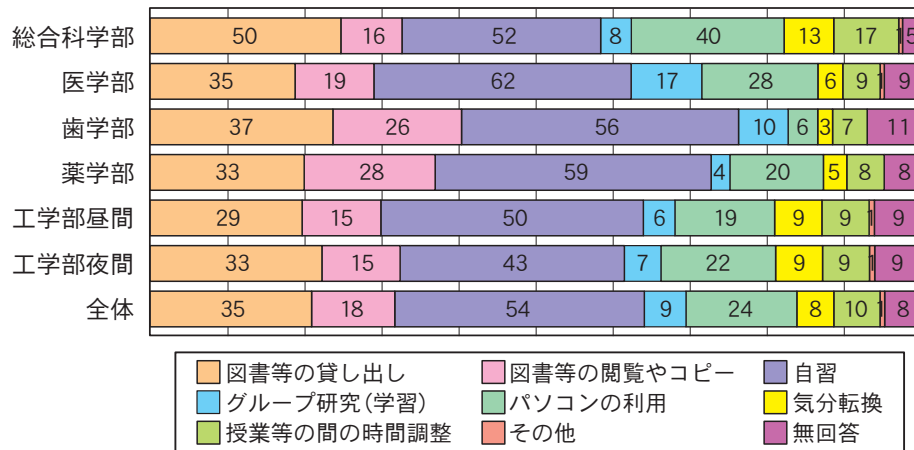


図6-6② 図書館を利用する理由（問65）

（※問65は複数回答のため合計は100%にはならない。）

第7章 課外活動について

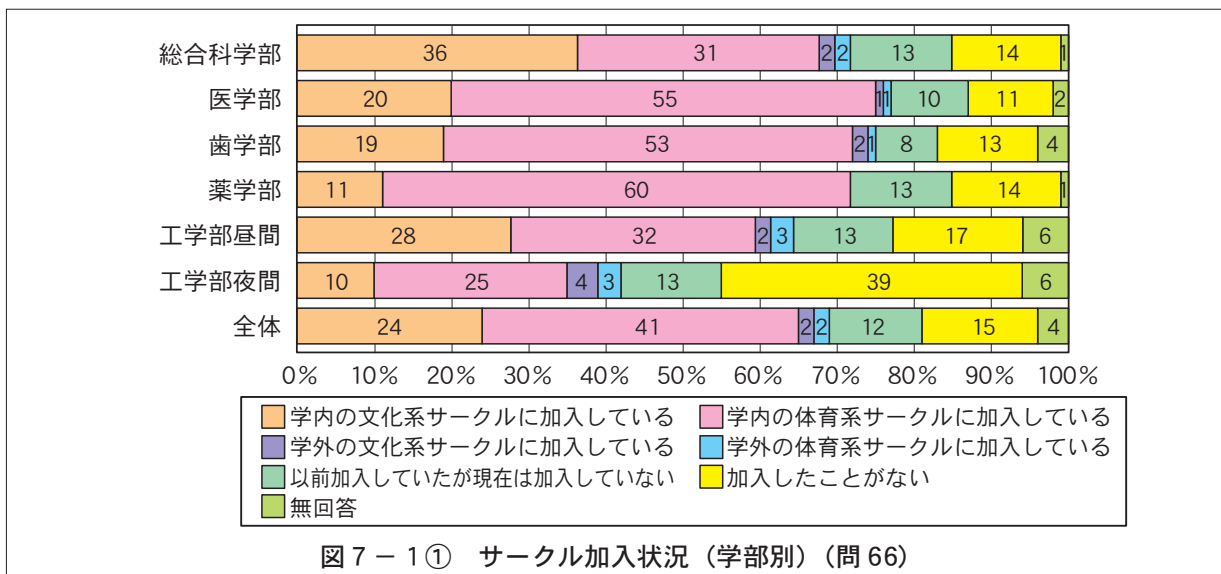
7-1 サークル加入状況 (図7-1①~図7-1③)

<加入率>

サークルへの加入率は、全体で69%を占めている。体育系サークルと文化系サークルの比較では学内及び学外合わせて体育系43%、文化系26%であり、体育系サークルへの加入率が高い。前回調査との比較では、「学内体育系サークル」は41%で前回(39%)と微増であり、「学内文化系サークル」は24%で前回(24%)と同様であった。「以前加入していたが現在は加入していない」は12%、「加入したことがない」は15%を示し、加入していない学生は2%減少している。サークル加入率は、前回調査時より微増の傾向を示している。

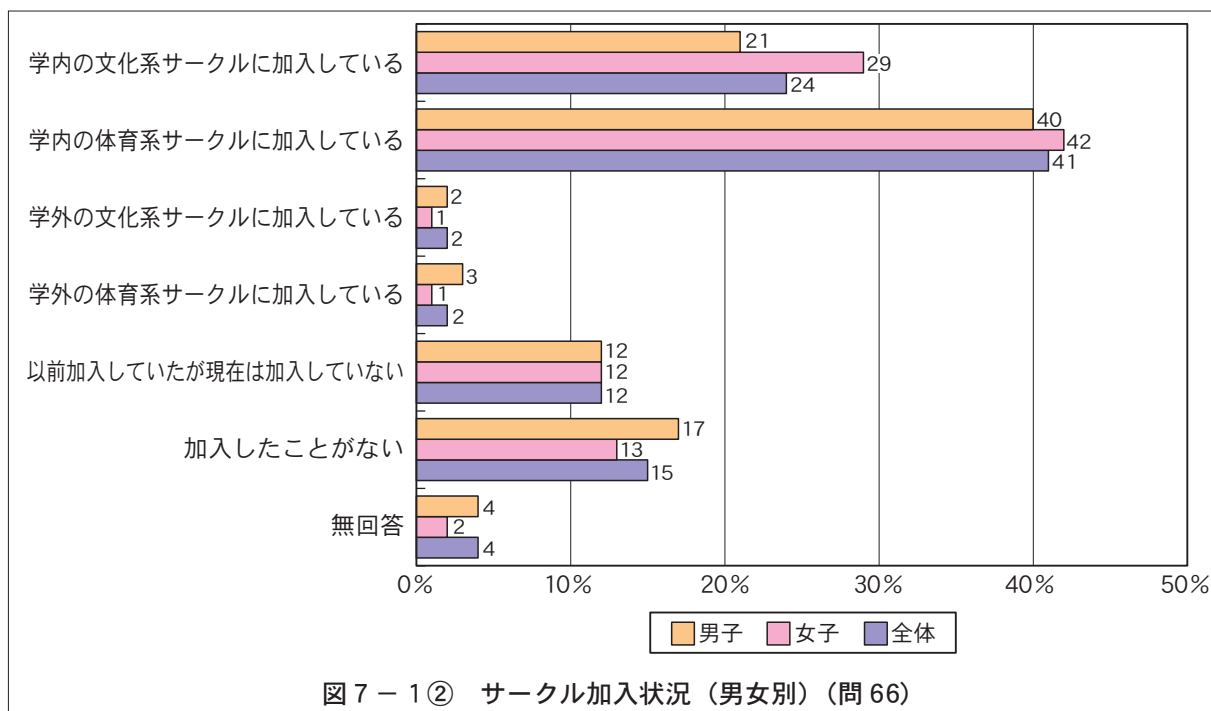
学部別のサークル加入状況(図7-1①)は、総合科学部、医学部、歯学部では、それぞれ71%、77%、75%の学生が学内及び学外のいずれかの体育系、文化系サークルに加入している。薬学部は71%であり前回調査時(64%)から7%増加している。工学部昼間・夜間では、それぞれ65%、42%であり前回調査時(61%、47%)から工学部昼間は微増、夜間は微減となっている。学内・学外文化系サークルへの加入者が最も多いのは総合科学部(38%)であり、学内・学外体育系サークルでは、医学部(56%)、歯学部(54%)、薬学部(60%)の3学部で加入率が高い。

「以前加入していたが現在は加入していない」との回答割合は12%あり、前回調査時の12%と同様であった。



<男女別>

男女別のサークル加入率(図7-1②)については、学内文化系については女子学生の方が男子学生に比べて8%加入率が高く、体育系については女子学生の方が男子学生に比べて2%加入率が高かった。サークルに加入したことがない学生については、男子学生17%(前回調査18%)、女子学生13%(前回調査16%)となっており、女子学生のサークル参加が微増している傾向が伺える。

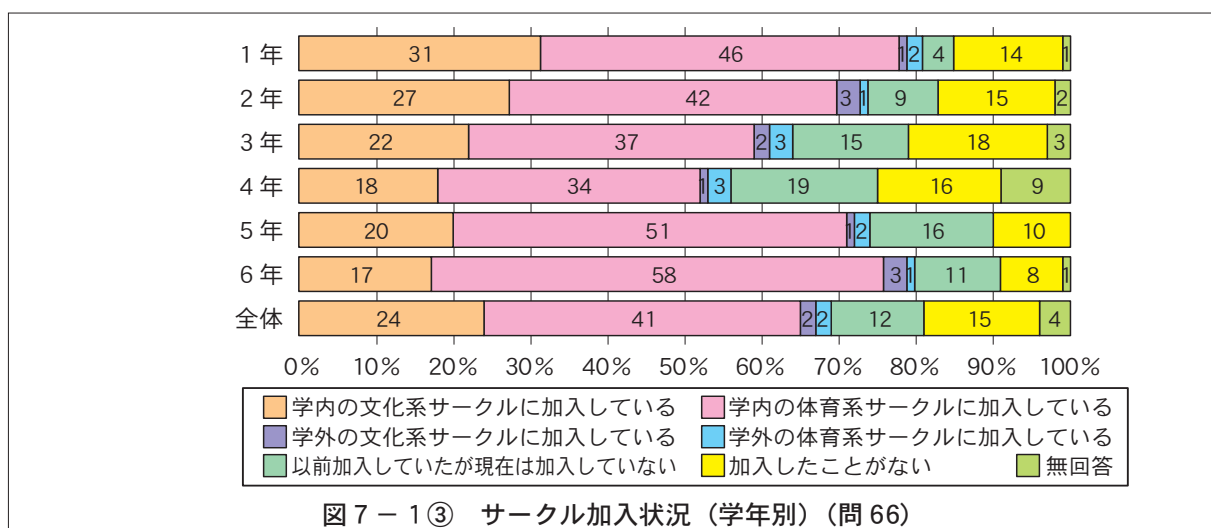


<学年別>

学年別 (図 7-1③) では、1年生から4年生への学年進行とともに、サークル加入率が低下し、「以前加入していたが現在は加入していない」学生の割合が増加している。加入率の低下は、文化系サークルでやや顕著である。前回調査では、体育系サークルでは3年生と4年生での加入率に差はないとの傾向があったが、今回調査では全体の傾向どおり微減している。

5年生、6年生は医学部医学科と歯学部歯学科の学生の動向を表している。体育系のサークル加入率が50%を超えて維持されていることが特徴で、前回調査時と同様な傾向にある。

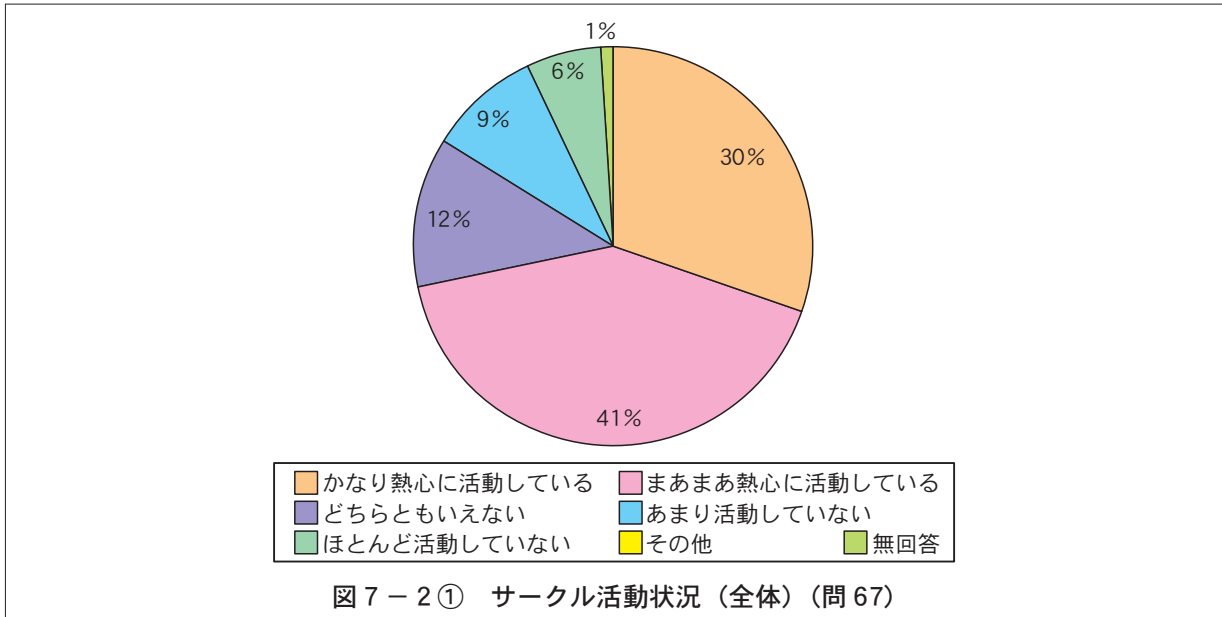
今回の調査では、4年生の無回答が9%あり、前回調査の3%から増加している。



7-2 活動状況 (図 7-2①, 図 7-2②)

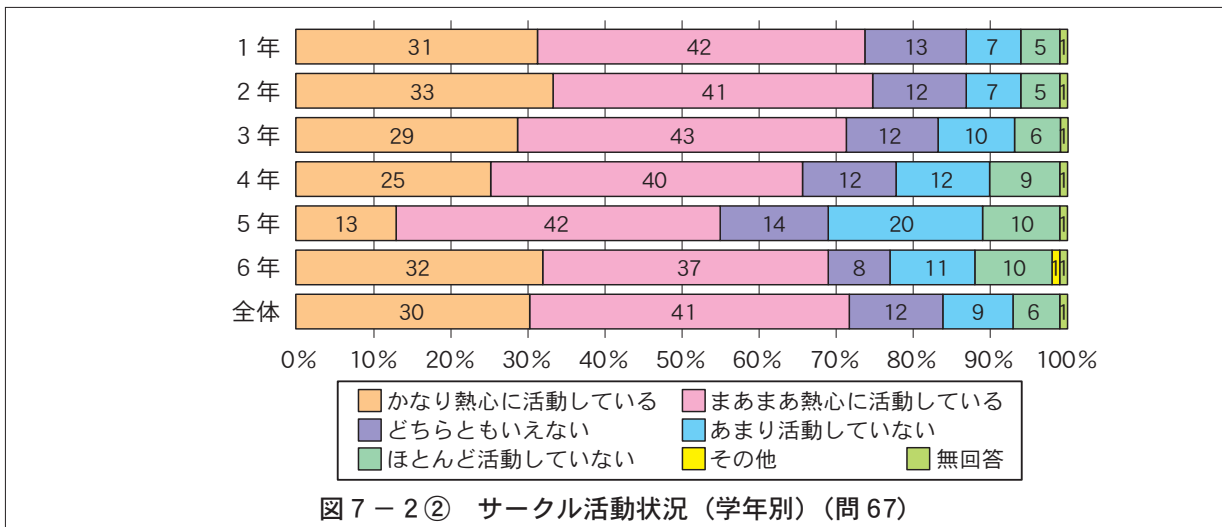
サークル活動状況 (図 7-2①) は、2,796名のサークル入会者の回答を検討した。「かなり熱心に活動している」は30%で、「まあまあ熱心に活動している」は41%であり、71%の学生がサークル活動を

積極的にすすめている。「どちらとも言えない」が12%、「あまり活動していない」が9%、「ほとんど活動していない」が6%である。これらの結果は、前回調査時とほぼ同様の割合である。サークル加入者の活動状況は前回調査時と同様に活発だといえる。



<学年別>

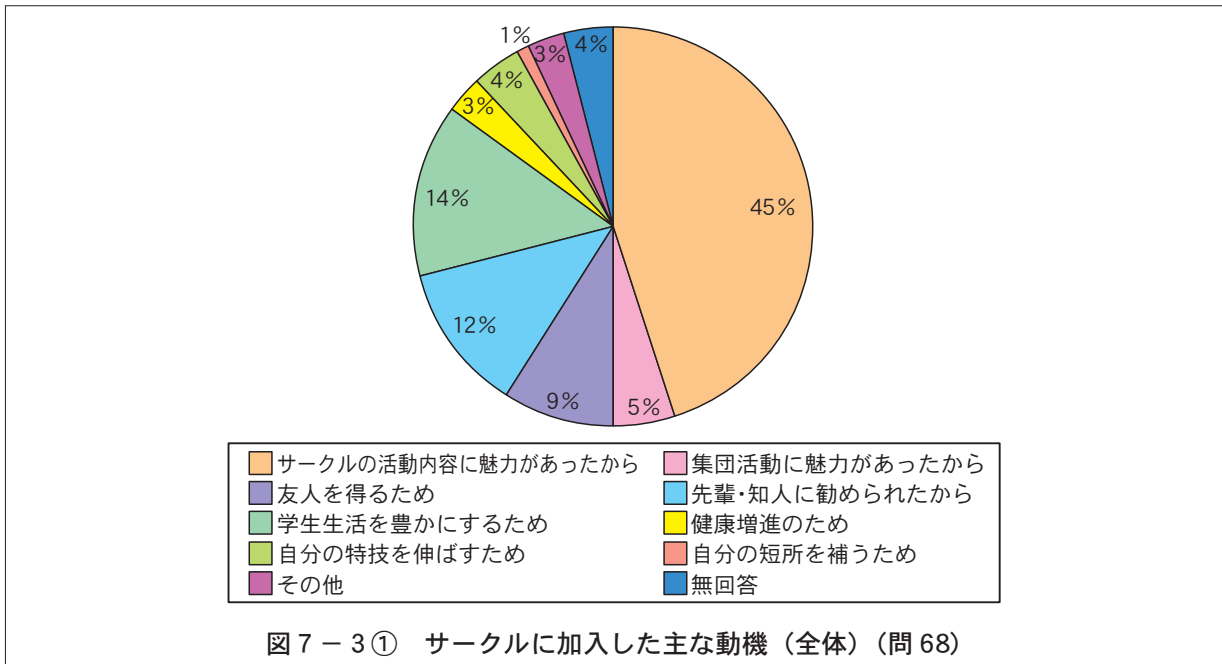
学年別 (図 7-2 ②) のサークル活動状況の内、1年生から4年生については、3年生以降で熱心に活動しているとは言えない学生が増加するものの、すべての学年で60%以上の学生が熱心に活動していると回答した。1年生から4年生の活動状況は前回調査時とほぼ同程度であった。5年生、6年生は医学部医学科と歯学部歯学科の学生からの回答であるが、熱心に活動している学生が5年生では55%と大幅に減少するものの、6年生では69%と増加する傾向にある。前回調査時と比較すると熱心に活動している学生が5年生では65%から55%に減少していることが特徴的で、学科別のデータからは医学科の学生の多くが5年生で活動を休止している様子が伺える。



7-3 加入の動機 (図 7-3 ①~図 7-3 ②)

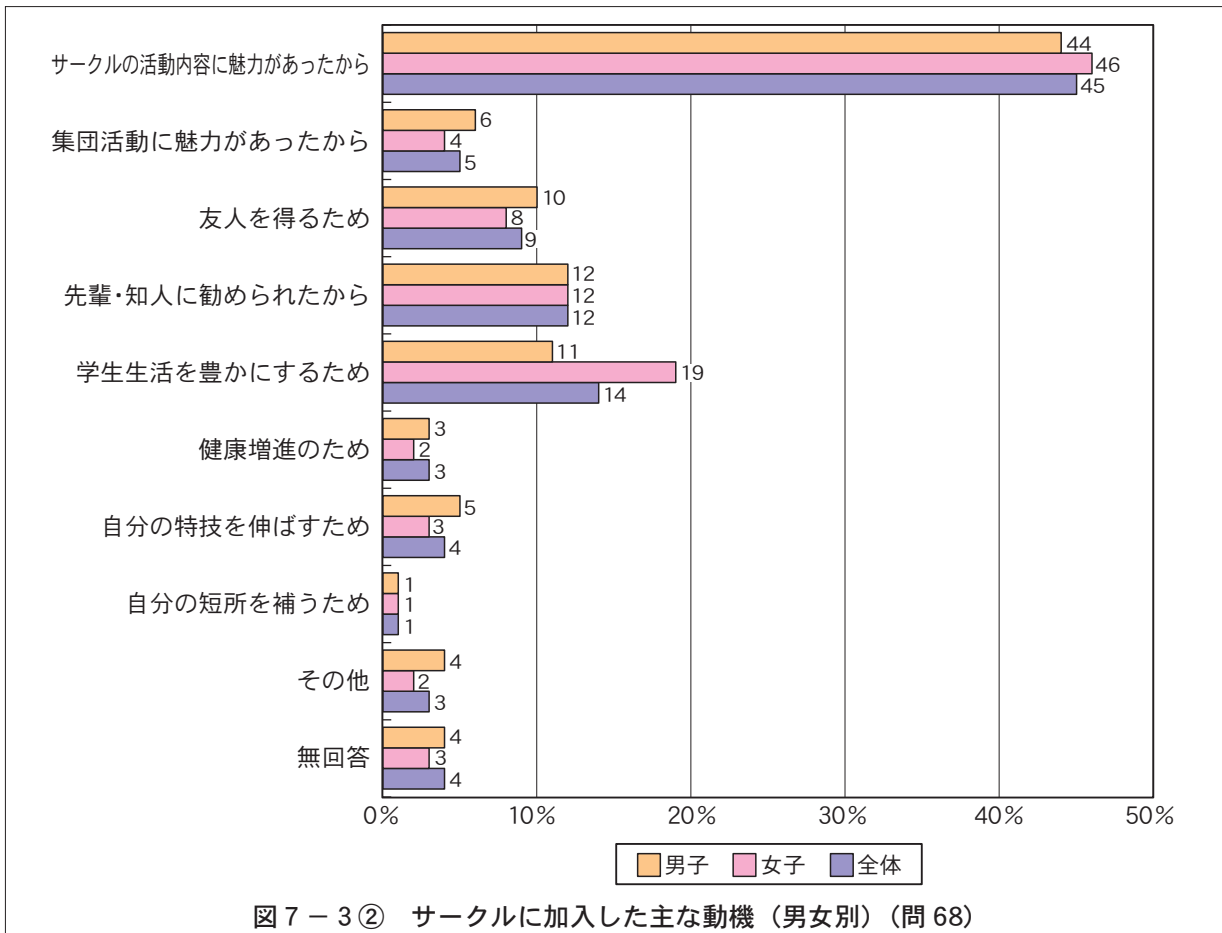
サークルへの加入動機 (図 7-3 ①) は、「サークルの活動内容に魅力があったから」が45%で最も

高く、次いで「学生生活を豊かにするため（14）」、「先輩・友人に勧められたから（12）」、「友人を得るため（9）」と続いている。この順位は前回調査時と全く同じで、割合もほぼ同様である。



<男女別>

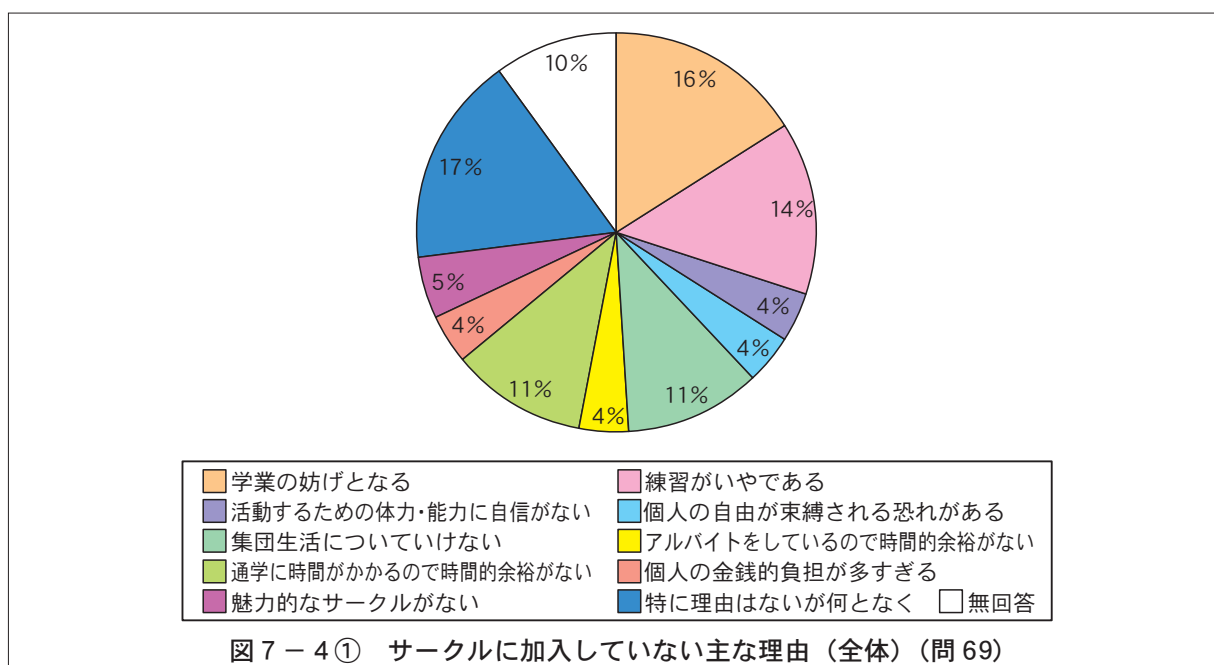
男女別（図 7 - 3 ②）にみたサークル加入動機は、「サークル活動内容に魅力があったから」が男女ともに最も高く、男子学生で44%、女子学生で46%と共にほぼ過半数である。



男女で顕著な差が現れるのは、「学生生活を豊かにするため」とするもので、女子学生の方が男子学生に比べ8%高かった。一方、男子学生は、「自分の特技を伸ばすため」及び「集団活動に魅力があったから」というものが、女子学生よりも高い動機として現れた。

7-4 サークルに加入していない理由 (図7-4①~図7-4④)

サークルに加入していない950の回答結果(図7-4①)から、最も高いのが「特に理由がないが何となく(17%)」であり、「学業の妨げになる(16%)」、「練習がいやである(14%)」、「集団生活についていけない(11%)」、及び「通学に時間がかかるので時間的余裕がない(11%)」と続いている。前回調査時に17%と最も高い割合だった「魅力的なサークルがない」について今回は5%と大幅に減少、前回3番目に高い割合(12%)だった「個人の自由が束縛される恐れがある」について今回は4%に減少している。一方で、「練習がいやである」が4%から14%に増加、「集団生活についていけない」が4%から11%に増加、「通学に時間がかかるので時間的余裕がない」が3%から11%に増加しておりサークルに加入しない理由が具体的になっていることが伺える。



<男女別>

加入しない理由を男女別(図7-4②)で見ると、「学業の妨げになる(男子17%、女子14%)」、「練習がいやである(男子15%、女子12%)」、「活動するための体力・能力に自信がない(男子5%、女子3%)」、「個人の自由が束縛される恐れがある(男子5%、女子4%)」については男子学生のほうで、「集団生活についていけない(男子11%、女子12%)」、「通学に時間がかかるので時間的余裕がない(男子11%、女子12%)」、「個人の金銭的負担が多すぎる(男子3%、女子5%)」、「魅力的なサークルがない(男子4%、女子7%)」については女子学生のほうで理由にあげられる割合が高かった。

<学部間の比較>

学部別の未加入理由を示したのが、図7-4③である。図7-1①で示されたように、未加入率が平均より高い学部は、工学部夜間52%、工学部昼間30%となっている。前回の調査時には工学部夜間46%、工学部昼間34%、薬学部34%となっていたが、工学部昼間、薬学部については今回の調査では

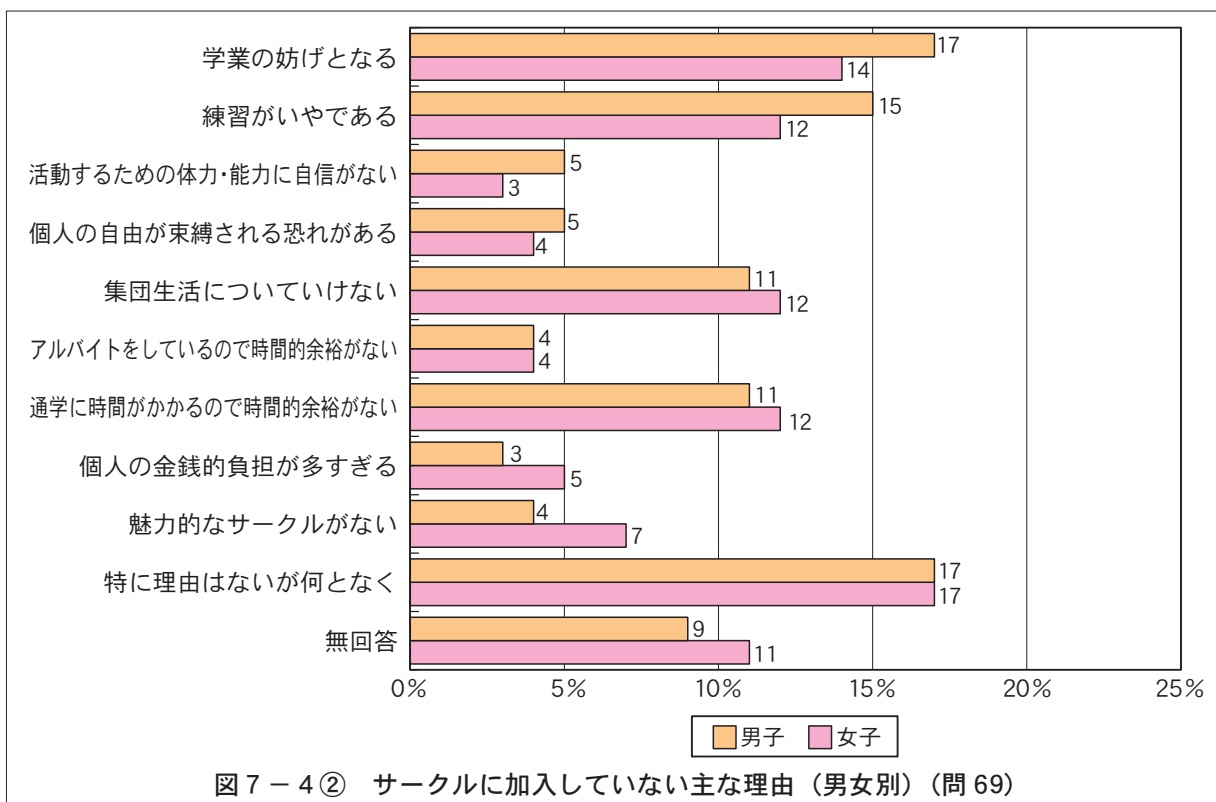


図 7-4② サークルに加入していない主な理由（男女別）（問 69）

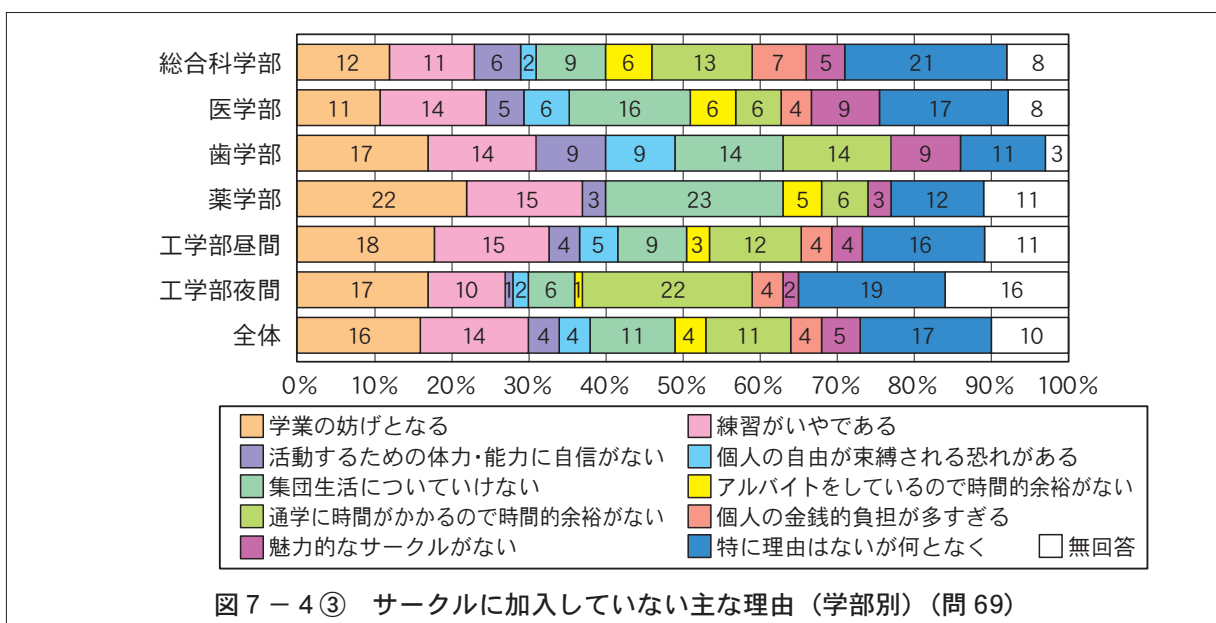


図 7-4③ サークルに加入していない主な理由（学部別）（問 69）

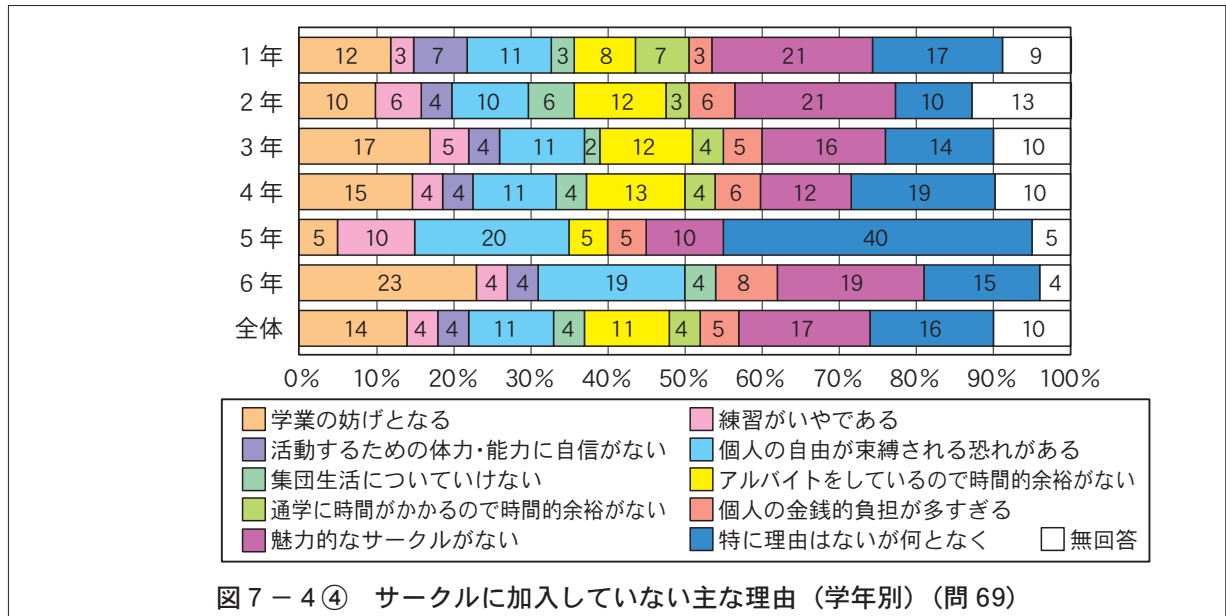
未加入率が下がった。前回調査に比べて各学科ともサークルに加入していない理由の分布が大幅に変化しているように見える。特に、全体の傾向から増加が見られた「学業の妨げになる」、「練習がいやである」、「集団生活についていけない」、及び「通学に時間がかかるので時間的余裕がない」については全体的に増加しているように見える。薬学部では前回調査で4%であった「集団生活についていけない」が23%に急増している。工学部夜間では前回調査で0%であった「通学に時間がかかるので時間的余裕がない」との回答が22%ともっとも多くなっており、前回調査では26%あった「アルバイトをしているので時間的余裕がない」とする回答割合が1%に減少している。

<学年別>

学年別の結果を図 7-4④に示す。1～4年生については、前回調査時と同様に「特に理由がないが

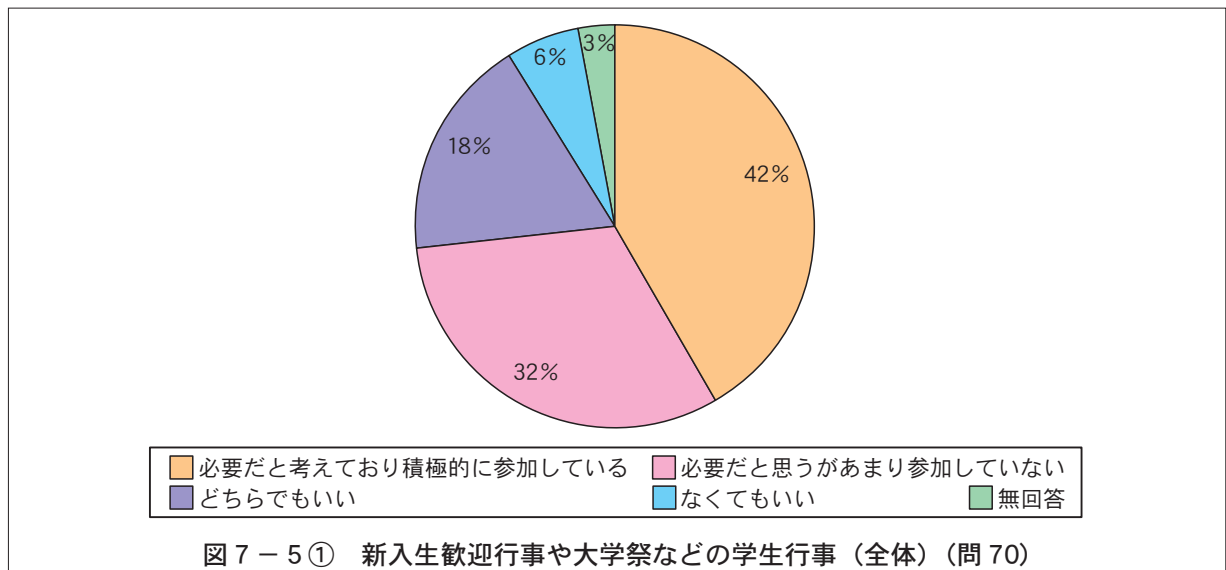
何となく（10～19%）」と「魅力的なサークルがない（12～21%）」が主な理由となっている。また、「学業の妨げとなる（10～17%）」も高い傾向にある。

5, 6年生については、医学部医学科と歯学部歯学科からの回答であるが、前回調査の結果では6年生において「学業の妨げになる」が0%，さらに「個人の自由が束縛される恐れがある」が28%と際立った値となっていたが、本年度は、それぞれ23%，19%となっていた。5, 6年生では、傾向が異なるが、「個人の自由が束縛される恐れがある（19～20%）」は両学年を通じて高い傾向にある。また、5年生においては、「特に理由がないが何となく」との回答が40%に増加している。



7-5 学生行事 (図7-5①~図7-5④)

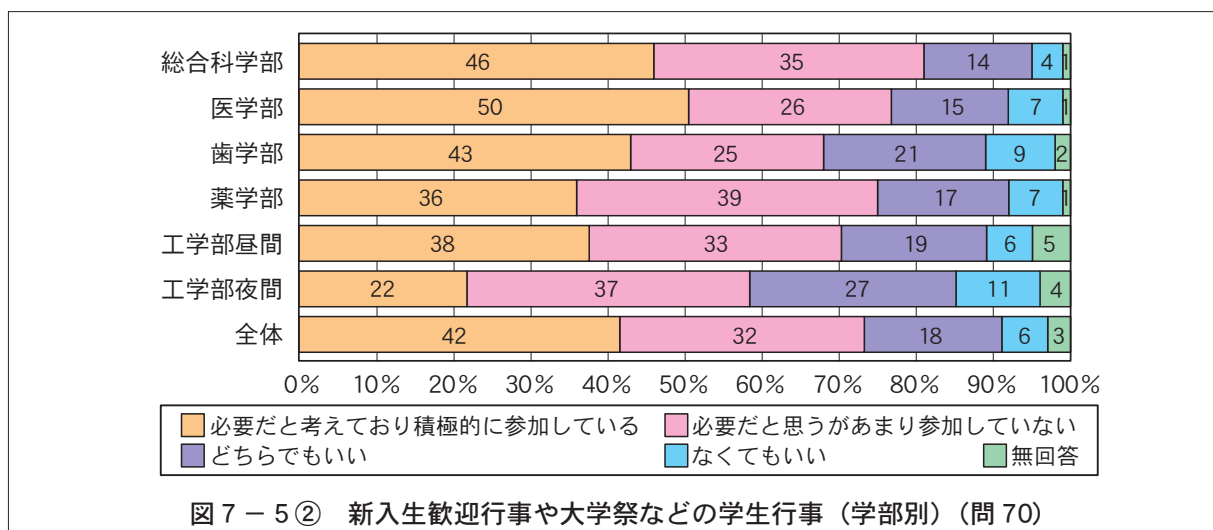
新入生歓迎会や大学祭などの学生行事(図7-5①)については、その必要性を74%が認めている。この傾向は回答内容の内訳も含め、前回調査時とほぼ同じであった。「必要だと考えており積極的に参加している」と回答した学生割合が2%増加し、「必要だと思うがあまり参加していない」と回答した学生割合が3%減少していることから、実際の参加数は微増しているようである。



<学部別>

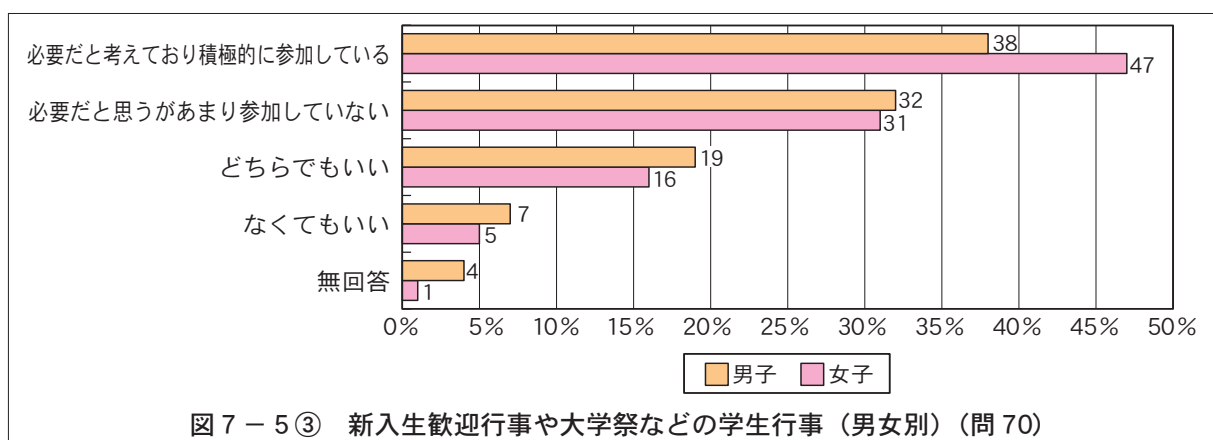
学部別の意識を図7-5②に示した。「必要だと考えており積極的に参加している」または「必要だと思うがあまり参加していない」と回答した学生行事の必要性を認めている学生は、工学部夜間を除いた5学部では68%～81%と多かった。ただし、積極的に参加している学生は半数程度にとどまる。必要性を認める工学部夜間の学生割合は59%であり、積極的に参加している学生の割合も22%と他の学部と比べて低かった。

前回調査と比較すると、工学部夜間で「必要だと考えており積極的に参加している」と回答した学生割合が5%減少したこと、工学部昼間で「必要だと考えており積極的に参加している」と回答した学生割合が4%増加したこと、歯学部、薬学部、工学部昼間で「必要だと思うがあまり参加していない」と回答した学生割合が5～6%減少したことが特徴で、これが全体的な傾向に反映している。



<男女別>

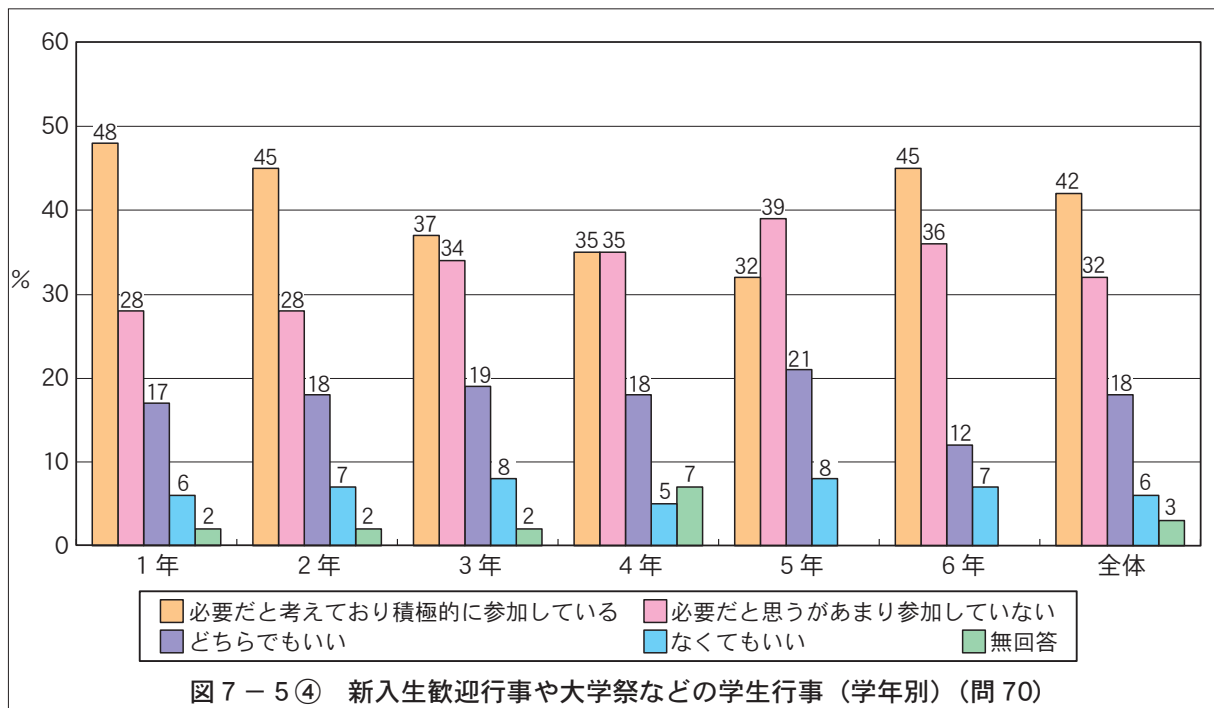
男女別（図7-5③）では、「必要だと考えており積極的に参加している」と回答した男子学生は38%であるのに対し、女子学生は47%であった。一方、「どちらでもいい」との回答は男子学生が19%、女子学生が16%、「なくてもいい」は男子学生が7%、女子学生が5%であった。これらの結果は、女子学生のほうがより強く必要性を認め、また、参加意欲が高いことを示している。この傾向は、前回調査時とほぼ同じであった。



<学年別>

学年別の参加と意識の状況を図7-5④に示す。医学部医学科と歯学部歯学科の学生からの回答であ

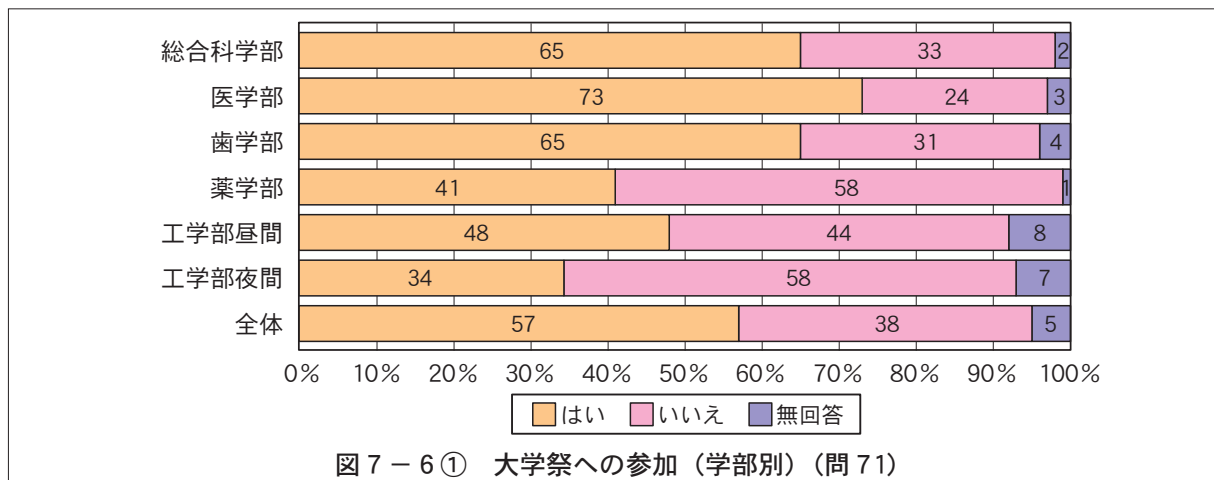
る5年生、6年生を除くと、1年生から4年生へと学年が進行するにともなって、「必要だと考えており積極的に参加している」と回答した学生の割合が順次減少し、逆に、「必要だと思うがあまり参加していない」と回答した学生が増加した。今回の調査の4年生で「必要だと思うがあまり参加していない」と回答した学生の割合が35%となっており前回調査の43%に比べて減少している以外は、前回調査時とほぼ同様の傾向を示している。



7-6 大学祭への参加状況 (図7-6①, 図7-6②)

大学祭への参加意志 (図7-6①) は、前回調査と同様に全体の57%が「参加する」と回答している。前回調査時と同様、医学部学生の参加率が最も高く、73%であった。総合科学部および歯学部も、65%の学生が参加している。一方、薬学部、工学部昼間、工学部夜間の参加率はそれぞれ41%、48%、34%と少ない。

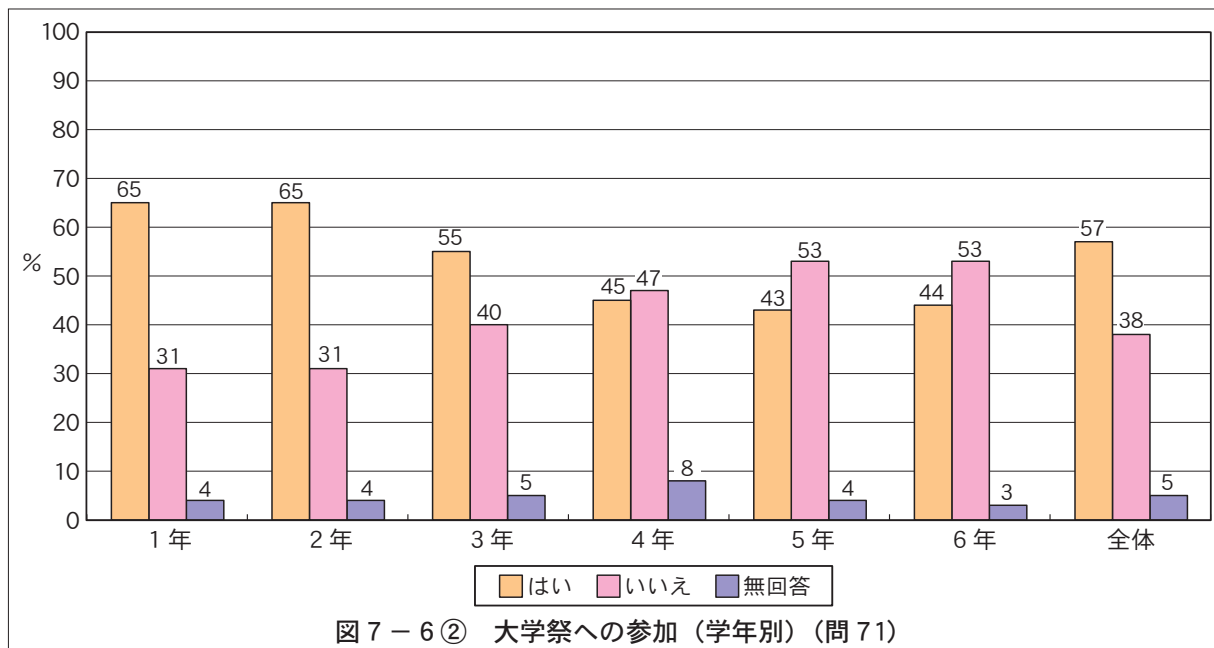
前回調査との比較では、工学部夜間で「参加する」と回答した学生が前回調査時の45%から11%減少している以外は、目立った変化はない。



<学年別>

学年別（図7-6②）では、1年生65%、2年生65%、3年生55%、4年生45%と学年進行に従って参加率は減少し、不参加者の割合が増加していた。前回の調査時には73%であった1年生の参加率が減少している。

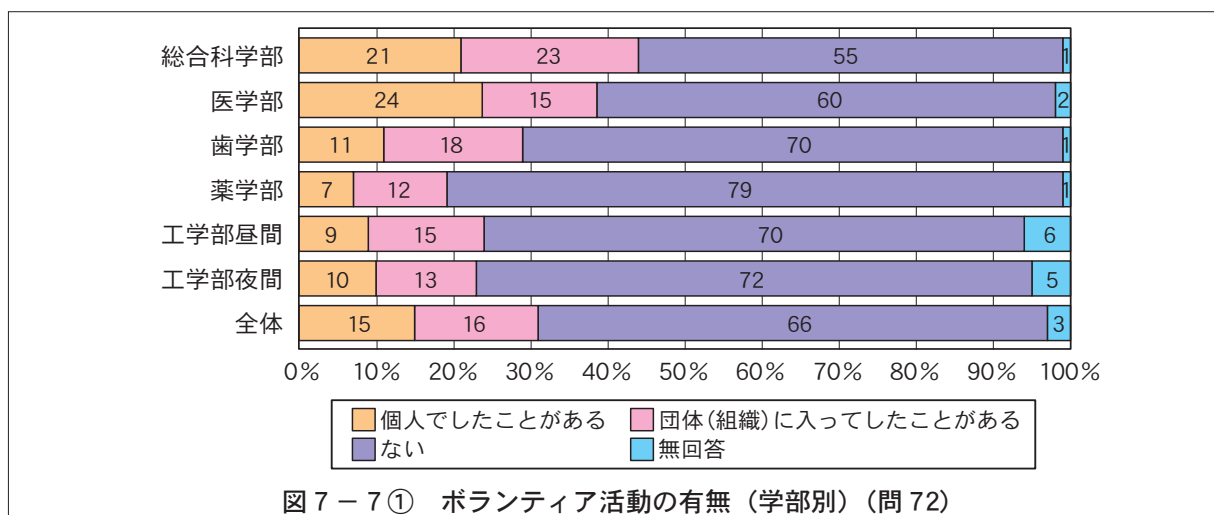
医学部医学科と歯学部歯学科の学生からの回答である5年生、6年生の参加率は、それぞれ43%、44%であり学年進行による影響はみられなかった。前回調査時に50%であった5年生の参加率が減少した。6年生については概ね前回調査時と同様であった。



7-7 ボランティア活動（図7-7①、図7-7②）

<大学入学後のボランティア活動>

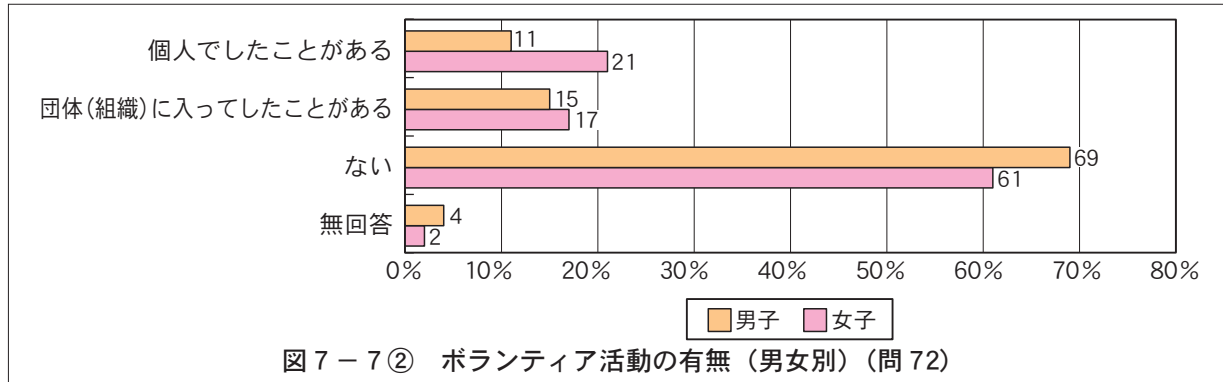
ボランティア活動（図7-7①）では、全体では「個人でしたことがある」学生は15%、「団体（組織）に入っていたことがある」学生は16%であり、合わせて31%の学生がボランティア活動を体験している。前回調査時は28%であったので僅かではあるが増加傾向が伺える。総合科学部が前回調査時の28%から44%に増加し、前回調査時に40%であった医学部の39%を上回った。歯学部が前回調査時の20%から29%に、工学部夜間が20%から23%に増加している。工学部昼間は24%で前回調査時と変



化はなく、薬学部は4%の減少であった。人数比の大きい医学部と工学部層間に変化が無かったため全体では微増であるが、他学部では増加傾向にある。

＜男女別＞

男女別（図7-7②）では、「個人でしたことがある」と「団体（組織）に入っていたことがある」を合わせると、男子学生では26%、女子学生では38%が活動を経験している。ボランティア経験者は女子学生の方が高い。前回調査時と比べると、男子学生には変化がなく、女子学生に増加があった。



7-8 まとめと今後の課題

サークルの加入状況については、工学部夜間が低くなっている。これは、アルバイト等を行なっているためにサークル活動に参加しにくいことが最も大きな要因となっている。また、学年進行と共に、サークルを離脱する学生割合が増加している。これは、就職活動や卒業研究に向けての活動に、学生のエネルギーが向けられるようになることを反映しているのだろう。サークル活動に参加しない理由として、「魅力的なサークルがない」との回答が、男女、学部、学年の違いに関わらず多いのが特徴である。学生の価値観が多様化していることの現れであるのかもしれない。サークルへの加入をとおして、学生の人生経験を豊かにし、また、コミュニケーション能力や自己管理能力を高めることを支援するためには、学生の中で新たなサークル活動を産み出そうとする動きがある時には、その芽をいかに育て、学生の需要にあったサークルとして独立させるかということも検討する必要があるだろう。

学生行事は、多くの学生が必要性を認めてはいるものの、薬学部や工学部では積極的に参加する学生の割合は低い。学内での学生行事として特に規模が大きいのは大学祭である。大学祭への参加形態は二つに区分される。企画・運営を通しての参加と、大学祭期間内の一般参加である。企画・運営は、蔵本地区と常三島地区それぞれの実行委員会によって行われている。大学祭に積極的に参加する学生の学部間の偏りは、実行委員会の企画能力の差、実行委員会の構成メンバーの偏り、実行委員会構成メンバーと非構成メンバー（すなわち、大学祭への一般参加者としての学生）とのつながりの程度、などいくつかの要因を反映しているだろう。大学としては、実行委員会の企画・運営能力の向上をサポートすることで、大学祭を学生全体にとって魅力あるものとし、参加意欲の向上を図っていけると思われる。

ボランティア活動経験のある学生はまだまだ少ない。ボランティアは地域社会の活動を支える大きな力となってきており、学生の参画を期待する市民団体も増えている。ボランティア活動は、学生がホスピタリティマインドを身につける機会としてだけでなく、地域社会の課題解決のあり方を学びつつ実践する機会としても重要である。学生にボランティア活動を行える場を提供していくことは、学生の活動をとおした地域社会に貢献する大学としての活動ともなる。大学関係者が関与するNPO等が増加する中、そうした組織と大学との連携体制を構築し、学生がボランティア活動を行える場をつくっていくことも必要であろう。

第8章 進路・就職について

8-1 進路情報入手手段 (図8-1)

図8-1は、学部生全員に対して複数回答可として尋ねたものである。各学部とも大局的にはよく似た傾向にあり、全体では「インターネット利用」と「先輩・知人」が20%台と最も多く、次いで「指導教員」、「就職情報誌・新聞・マスコミ」ならびに「大学内資料」の順である。歯学部・医学部・薬学部では、「先輩・知人」の割合が25%超であり他の学部には比べかなり高くなっている。また歯学部と医学部では「指導教員」の比率が20%前後と他学部と比較して高くなっており、両学部では約半数の学生が「先輩・知人」および「指導教員」から情報を得ていることがわかる。キャリア支援センターからの情報入手率は4%と低く、今後同センターのさらなる情報収集・整備と学生への広報を図る必要がある。また前回同様、「直接会社に照会」は2%に過ぎない。学生のより積極的な活動が求められる。

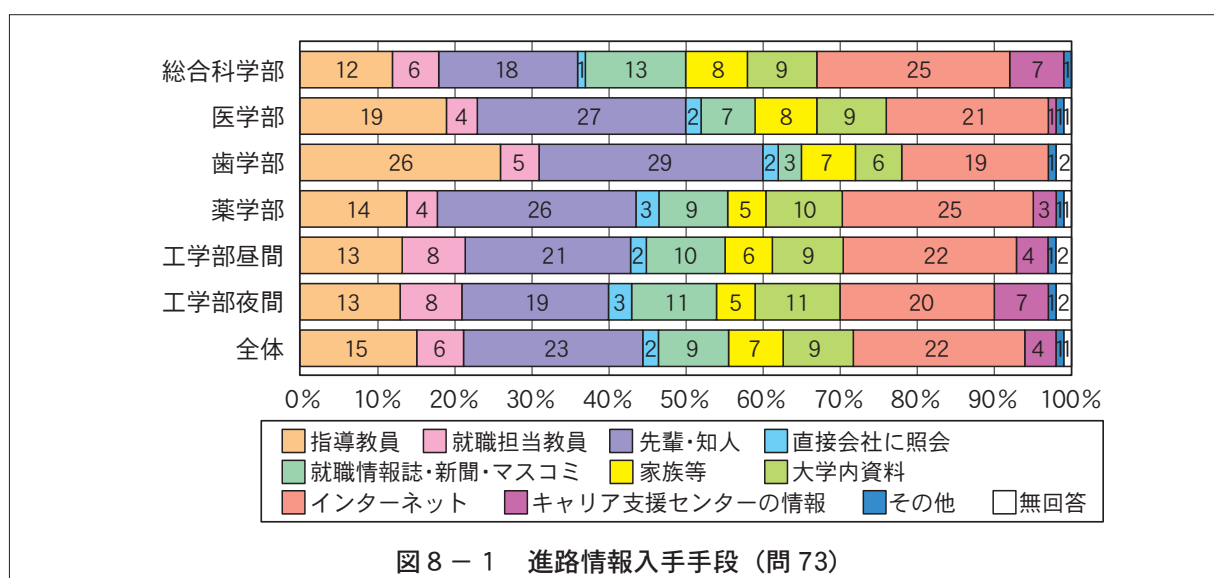


図8-1 進路情報入手手段 (問73)

8-2 就職・進学希望について (図8-2)

図8-2は、学部生全員に対して卒業後の進路を尋ねたものである。就職希望と進学希望の比率は全学部とも前回とほとんど同じである。全体での進学希望者の割合は3分の1であり、最も学生数の多い

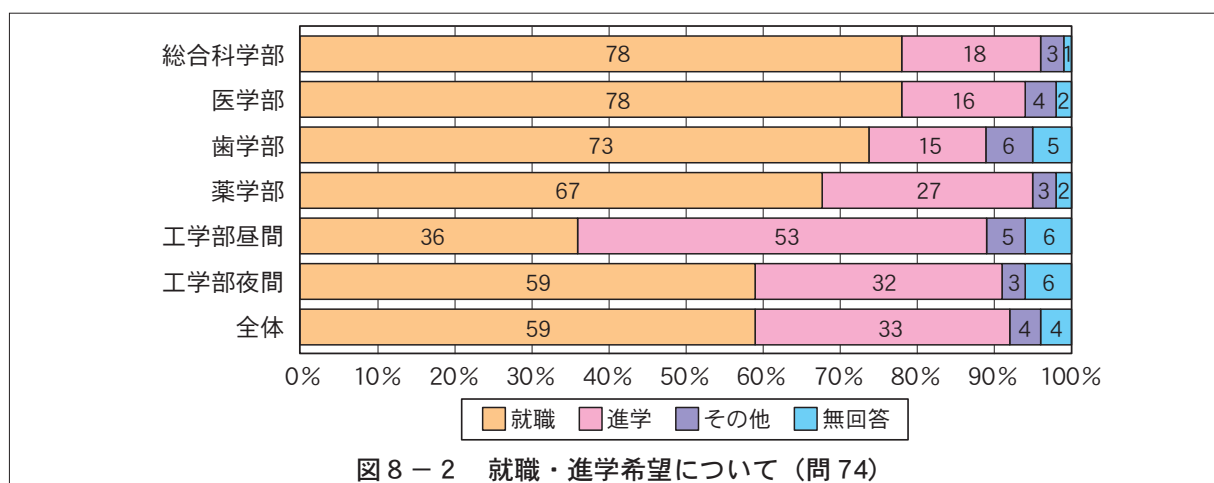


図8-2 就職・進学希望について (問74)

工学部の昼間コースでは53%の学生が進学を希望している。それに対し、歯学部、医学部および総合科学部における進学希望者の割合は20%を下回っており、これらの学部における大学院進学希望者の増加対策の検討が求められる。

8-3 就職先選択で重視するもの (図8-3)

図8-3は、前出の問74で「就職」と回答した学生に対して複数回答可として尋ねたものである。各学部ともによく似た傾向を示しており、全体的な傾向も前回・前々回と大きくは変わっていない。全体をみると、「就職先の将来性・安定性」が26%（前回26%、前々回25%）と最も多く、次いで「収入」21%、「人間関係の良いところ」17%、「能力を發揮できること」13%、「勤務先の地理的条件」12%となっている。「就職先の社会的評価」は7%と少なく、「先端技術を駆使しているところ」と「研究評価をしてしてくれるところ」はともに1%とさらに少ない。専門分野にかかわらず全体的に安定志向にあるといえる。

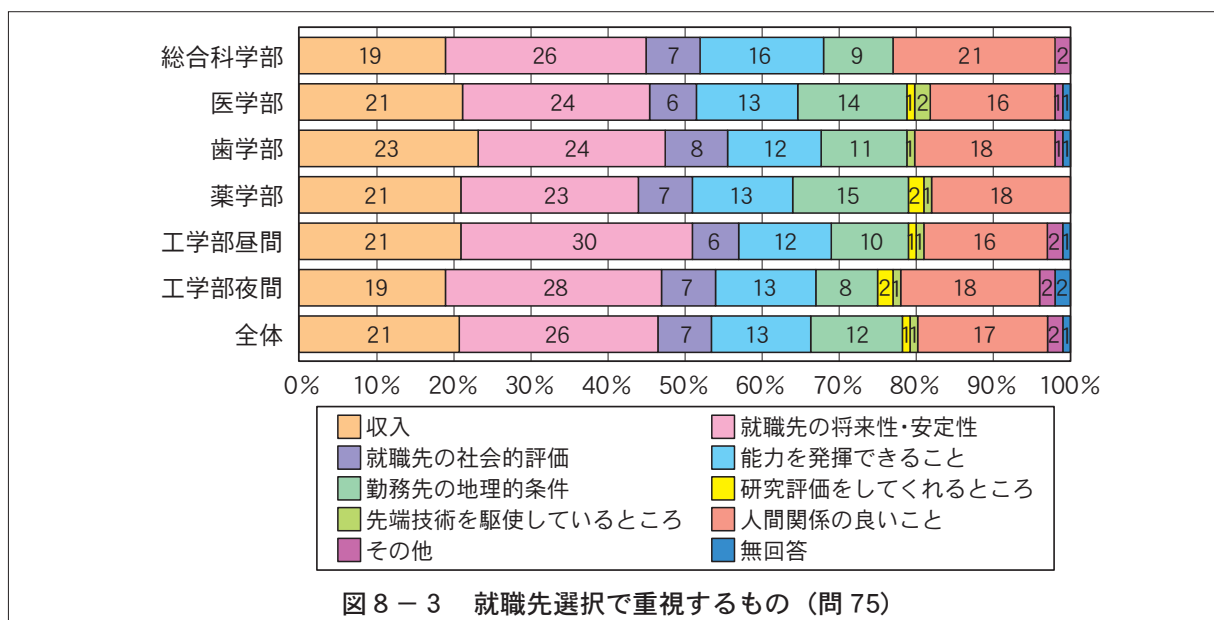
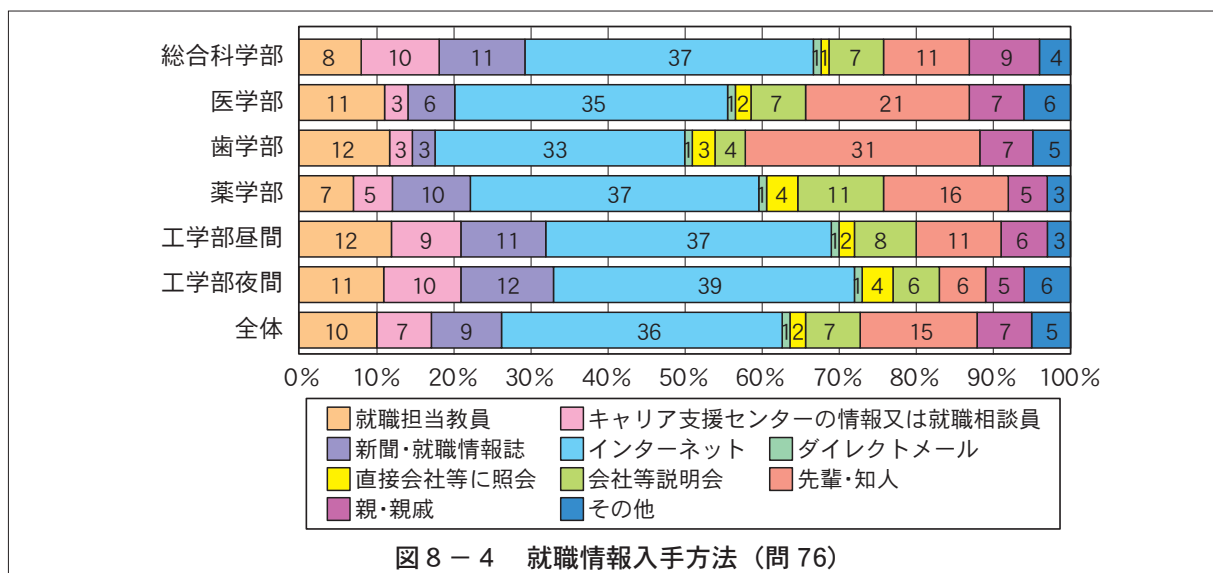


図8-3 就職先選択で重視するもの (問75)

8-4 就職情報の入手方法 (図8-4)

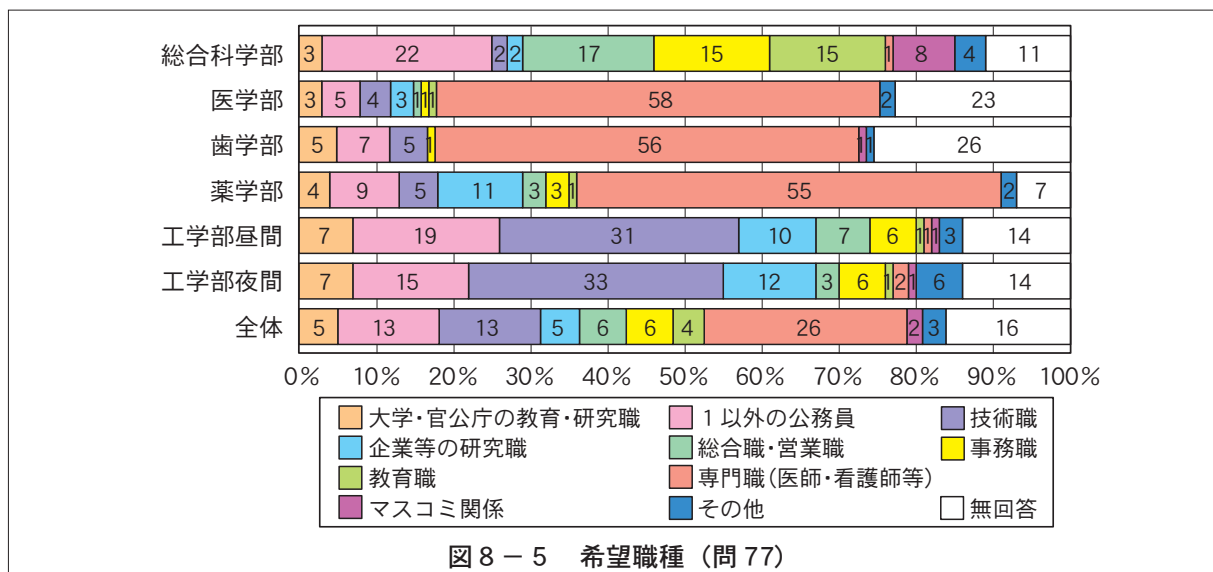
図8-4は、学部卒業予定の就職希望学生に対して、複数回答可として就職情報入手方法を尋ねたものである。各学部とも前回の分布とほぼ同様である。全体の傾向としては「インターネット」が36%（前回、前々回とも34%）とやはり多く、次いで「先輩・知人」15%、「就職担当教員」10%、「新聞・就職情報誌」9%と続き、「キャリア支援センター」、「会社等説明会」および「親・親戚」の3つがともに7%となっている。歯学部、医学部ならびに薬学部では「先輩・知人」の比重が他学部に比べて相対的に高いが、この傾向は前出の8-1の進路情報入手手段の場合と同様である。「新聞・就職情報誌」については医学部、歯学部でその比重はそれぞれ6%、3%と低いが、その他の学部ではすべて10%前後となっている。「直接会社に照会」は前出の8-1と同様で全体の2%に過ぎない。学生の自主的で積極的な行動が望まれる。



8-5 希望する職種 (図 8-5)

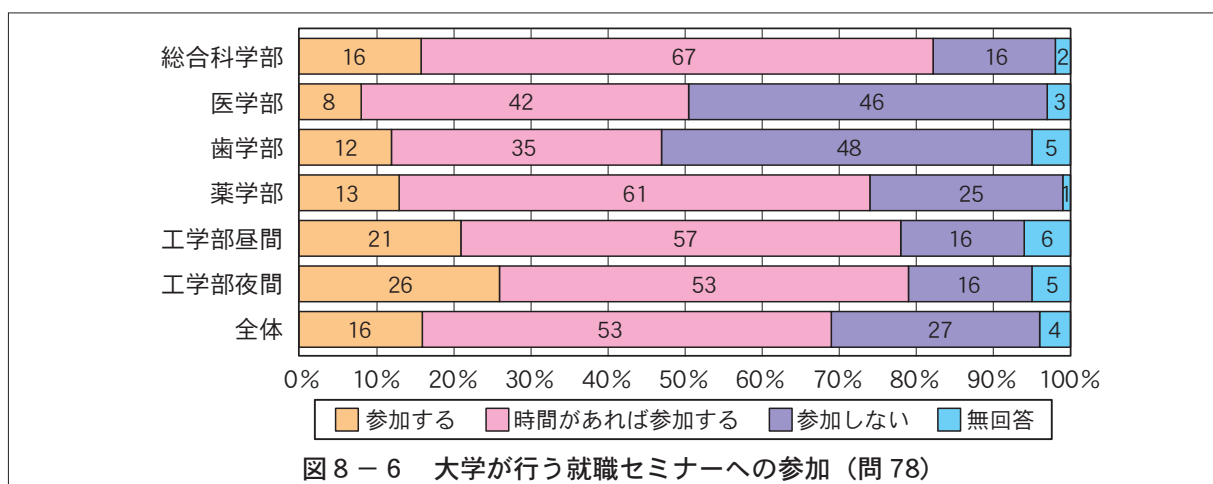
図 8-5 は、問 74 で「就職」と回答した学生に対して複数回答可として尋ねたものである。全体的な傾向は前回とほぼ同様である。医学部・歯学部・薬学部では「専門職（医師・看護師等）」がそれぞれ 58%・56%・55%と卓越している。工学部では「技術職」が 30%強であり、続いて「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」20%弱、「企業等の研究職」10%強、「大学・官公庁の教育・研究職」7%となっている。総合科学部では「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」が 22%と最も多いが、他の職種の割合も「総合職・営業職」17%、「事務職」15%、「教育職」15%、「マスコミ関係」8%となっており、他の学部 비해希望職種が多岐にわたっていることが分かる。薬学部でも「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」が 9%（前回 12%）となっており比較的公務員志望者が多いことが分かる。

なお、この問に対する「無回答」が全体で 16%（前回 20%、前々回 14%）あり、特に医学部および薬学部ではそれぞれ 23%および 26%と回答者の約 4 分の 1 に達している。また他学部も薬学部以外は「無回答」が 10%を超している。このことは自分の明確なキャリアプランを描けていない学生が多いことを示唆しているとも受け取れる。今後、大学全体としてのキャリア教育の充実が望まれる。



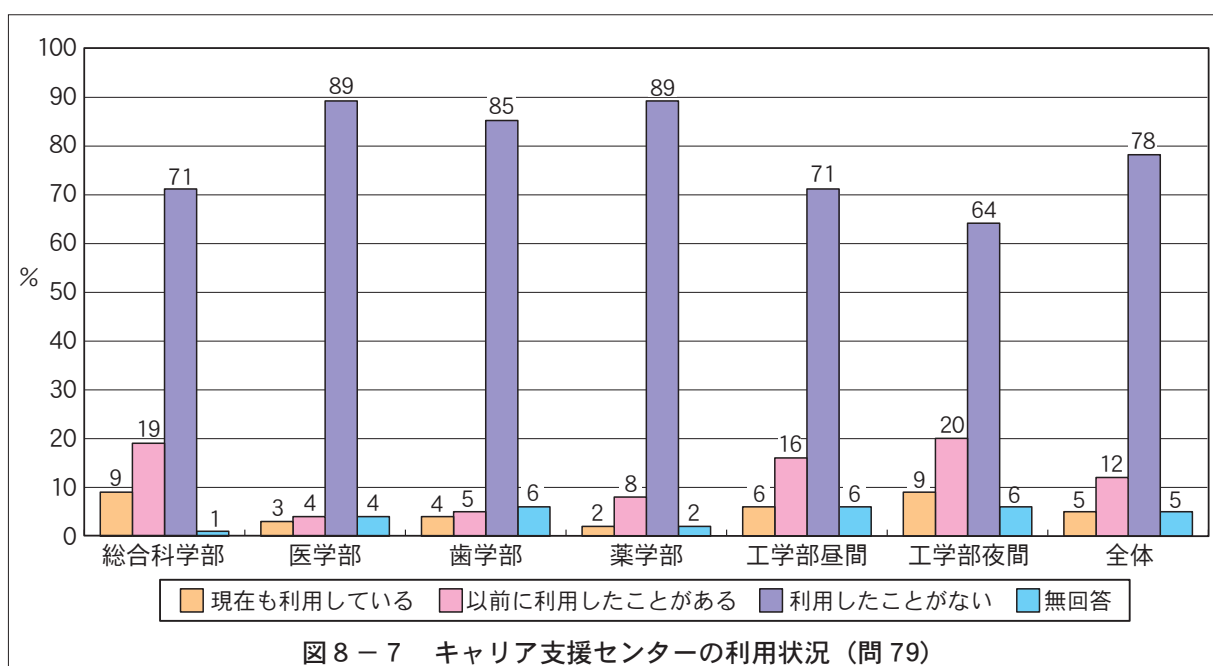
8-6 就職セミナーへの参加 (図8-6)

図8-6は、大学が行う就職セミナー参加について学部生全員に尋ねたものである。全体の傾向は前回とほぼ同じであり、「参加する」16%（前回18%、前々回18%）、「時間があれば参加する」53%（前回53%、前々回52%）、「参加しない」27%（前回26%、前々回27%）、「無回答」4%（前回、前々回とも3%）である。総合科学部、工学部ならびに薬学部では、「参加する」および「時間があれば参加する」を合わせて80%前後であるのに対して、医学部と歯学部の同割合は50%程度と低くなっている。これは、就職セミナーが主に一般企業希望者を対象に開催されていることとも関係していると思われる。



8-7 キャリア支援センターの利用状況 (図8-7)

図8-7は、全学生に対してキャリア支援センターの利用状況を尋ねたものである。キャリア支援センターの利用状況を全体的に見ると、「キャリア支援センターを利用したことがない」78%（前回81%、前々回80%）に対して「現在も利用している」と「以前に利用したことがある」の合計は17%（前回15%、前々回17%）となっている。全学年を対象としているため、利用した事がない割合が際立っているが、利用状況は横ばいである。



各学部別に「現在も利用している」と「以前に利用したことがある」の合計を前回、前々回の調査結果と比較すると、総合科学部 28%（前回 24%，前々回 42%），工学部昼間 22%（前回 22%，前々回 22%），工学部夜間 29%（前回 11%，前々回 13%）であり、医学部，歯学部および薬学部はいずれも 10%以下であった。ただし，就職活動期にあたる学年に限定すればその利用率はもっと高いと思われる。

なお，キャリア支援センターではすべての卒業・修了予定者に対して冊子『就職の手引』やパンフレット「就職活動スタート」を配付し，希望学生には携帯電話登録で就職セミナーや求人情報を提供している。平成 20 年 10 月からは，常三島地区に加えて蔵本地区でも就職相談を開催している。また毎年大阪で開催される合同企業説明会へのバスツアーを企画・実施するとともに，学内でも大規模な合同企業説明会を数回開催している。キャリア支援センターにおける直接的な利用以外にも，このように間接的なサービスを受けている学生は数多いとみられる。今後さらにサービスの充実とともに学生への広報の徹底を図ることが望まれる。

第9章 学部の現状と課題

9-1 総合科学部

総合科学部は、人間文化学科（一学年100人）、社会創生学科（一学年100人）と総合理数学科（一学年65人）の3学科体制をとり、100名を超える専任教員がその指導に当たっている。

今回の調査において総合科学部の調査票回収率は53%で、前回の38.2%から大幅に改善した。総合科学部の場合3・4年の学生が全体として受講する科目がないため、調査票を一括して配布・回収する機会がほとんどない。しかし今年度については、比較的受講生の多い科目の担当教員複数に協力を仰ぐことができた。以下、各設問項目について検討する。

「住居・通学について」では自宅通学者が35%を占める。これは前回の40%からやや低くなっているが、いずれにせよ県内出身者の比率の高さを反映してのものと考えられる。家賃支出については、同じ三島地域の工学部学生とほぼ同じ傾向が認められ、5万円未満の学生が91%を占める。通学方法については全学の傾向と同じで自転車がもっとも多い。

「収入・支出について」では、家庭の年間所得が500万円未満とする回答が37%で、全体平均の29%よりわずかに多い。授業料免除状況では、年収500万未満の層で「授業料免除制度を知らない」という回答が11%と多く、依然として周知不足であることは否めない。また「授業料免除制度は知っているが申請していない」とする回答が55%にのぼる。申請を躊躇する背景を調査する必要があるかもしれない。

ここで自宅外通学者の回答に限ると、家計状況として保護者等から「5万円未満」の援助を受けているとする回答が55%であり、全学平均よりやや多い程度である。一方、1か月の平均支出額は「5万円未満」が58%を占め、1か月の食費は3万円未満が86%で全学平均の76%より目立って大きい。総合科学部では定期健康診断受診率が低いこともあり、健康管理へのアドバイスも必要と思われる。

再び全体の回答で、総合科学部の68%の学生がアルバイトに従事しており、その54%が週10時間以上の時間をアルバイトに割いている。他方で「勉学に支障はない」とする回答が84%にのぼる。アルバイトの目的に対する回答と照らし合わせると、食費・住居費を切り詰めながら、「生活費・学費」と学生生活を豊かにするための「レジャー・旅行費」をアルバイトで補おうとする学生の姿が覗える。

「健康状態について」では、睡眠時間、また喫煙や飲酒の頻度についても、男女ともに回答に他学部と大きな違いは認められない。

「学生生活上の問題点」では、大学生生活の意義を「勉強や研究」に見いだす割合が30%であり、全体平均の35%より低いが、一方でサークル活動とする回答が13%と多い。合わせると全学的な傾向と目立った違いはない。

「就職や進路」について悩む割合が総合科学部では多く、特に女子では58%に達している（男子37%）。専門職を目指す学部とは異なり、多様な選択肢を就職先として検討することになる本学部の性質に起因するものである。いずれにせよ学生への様々な情報提供、相談窓口を通じたきめ細かい対応が、今後とも必要であろう。

セクハラ、アカハラ、サークル内でのいじめ（嫌がらせを含む）を感じた学生は1%前後存在し、さらに悪徳商法、いたずら電話、ストーカー被害についても回答がある。また今回の調査では「カルトの勧誘」について総合科学部の男子学生の10%が「受けた」と回答している。カルトへの勧誘はここ数年活発化していると懸念され、今後も継続して学生に注意喚起を行うことが必要である。なお迷惑行為を受けた際の相談先として友人、学生相談室、学務係とする回答が多く、家族や教員が相談相手になっていない点に懸念が残る。

「修学状況について」では、他学部と同様、「国立大学だから」(49%)と「地元の大学だから」(35%)の回答が多い。その一方で、「希望する学部・学科があったから」とする回答が28%と前回よりも増えている(前回17%)。今後も受験生に対して、学部の教育方針をより積極的に広報する努力が求められる。

所属学部への満足度では、「満足している」および「ほぼ満足している」の合計が63%で、全学平均の66%と大差ない。ただし積極的に「満足している」とする回答割合は10%にとどまっており、また「満足できない」と回答した72%が「授業がつまらない」と答えている。学生の授業の満足度をいかに引き上げるかが、学部としての課題となるであろう。

「課外活動について」では、「サークル加入状況」が他学部と比べて高い割合を示している。また、アルバイトを続けながらサークルに参加しようとする傾向が見られる点については、近年の厳しい就職状況の中で、人的・情報ネットワークを少しでも広げたいという学生の希望の表れ、とも考えることができる。なお、学生行事を大学・学部側とともに充実させていこうとする学生側の自主組織も生まれつつあり、今後これらの組織との連携を強化しながら、学生側の自主性を育ててゆくことが重要な課題となっている。

大学入学後のボランティア活動では、総合科学部の44%の学生が何らかの活動に従事しており、全学平均の31%に比べても高い。「東北大震災」後、ボランティア活動への関心が高まったことも大きいと思われるが、本学部が「地域貢献」を教育の柱として、その指導に力を入れていることも影響していると考えられる。

「進路・就職について」では、公務員志望者が22%、総合職17%、事務職15%、教員15%、マスコミ8%と分かれる。実際、総合科学部の学生の多くが公務員講座などのセミナーに参加している。また就職先の選択で重視するものとしては、「就職先の将来性・安定性」(26%)、「人間関係のよいこと」(21%)、「収入」(19%)、「能力を発揮できること」(16%)である。公務員志望者の多くは地元の地方公務員を目指しており、全体として地元志向、また安定志向が見て取れる。他学部と比べて就職活動が進路決定に大きな影響を及ぼすと考えられるにも拘わらず、キャリア支援センターでの相談や就職セミナーへの参加に積極的ではない回答も見受けられ、学部として学生の積極性を引き出す指導が必要と思われる。

9-2 医学部

医学部は、医学科、栄養学科、保健学科の3学科から構成されており、各々の学科の回収者数と回収率は、医学科472人(71.2%)、栄養学科176人(85.0%)、保健学科464人(89.2%)であり、医学部全体では1,112人(80.0%)であった。大学全体の回収率(69.4%)と比較すると回収率はよくなっている。しかし、医学科は、回収率が前回調査の87.9%に比べ16.7%低下したことが問題である。

医学部は、蔵本地区の他の学部と同様に、卒業時に国家試験(医師、管理栄養士、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、保健師等の国家試験)を受験して免許を得た後、卒業後はそれぞれの専門職に就く学生がほとんどであり、在学中も目的意識を持って学習している学生が多い。これらの点を考慮して、以下に現状と課題を考える。

「住居・通学について」では、自宅通学の割合は28%と、前回調査の28%から変化がなく、地元からの受け入れができてきている状況である。「通学方法」では、「自転車」が73%と薬学部に次いで全学で二番目に多い。自転車に限ったことではないが、「通学中の事故あり」が14%と高く、近年の自転車事故の重大性や、特に蔵本地区では病院に隣接していることから、ルールやマナーの徹底が必要である。

「経済的な状況」に関して、「家庭の年間収入」では、「750万円以上の収入」がある家庭が41%で、歯学部とともに、他の学部と比較して割合が高くなっている。しかしながら、「500万円未満の収入」の

家庭が24%、「250万未満」が9%見られた。また、無回答が6%あり、デリケートな問題には答えたくないのか、あるいは親の収入を知らないのかも知れない。年収500万未満の家庭において「授業料免除を知っているが申請していない」が52%もいることの原因を探るとともに、「制度を知らなかった」が8%いることから、もっと周知の方法を考える必要がある。

自宅外通学者の1か月の平均収入では、1か月に「10万円以上収入」がある学生の割合が28%で前回調査より減少し、逆に「5万円未満」しか収入がない学生の割合が26%と前回調査の24%より若干増加し、生活が苦しい学生も多いことが分かる。また、「経済的状況」では、「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合が32%で、前回調査(31%)とほぼ同じであった。経済的にゆとりがない学生が他の学部と同様に多くおり、今後は、経済的に困窮している学生に対して、奨学金の受給率の向上、授業料免除の拡大などを通して、学生への経済的な支援を強化する必要がある。

次に「健康状態」であるが、「気になる症状」では、他の学部とほぼ同じ内容で、男女とも「アトピー・アレルギー」、「頭痛・めまい」、「不眠」等が多く、女子では「生理痛・生理不順」、「下痢・便秘」が多くあがっている。「主な悩みと不安」では、「勉強」に関する悩みが最も多く、次いで「就職や進路」、「交友・異性関係」、「自分の性格」「経済状態」などがあがっている。「悩みの相談相手」では、「友人」が最も多く、男子で56%、女子で71%になっている。一方、「誰にも相談しない」が男子で28%、女子で12%おり、これらの学生への対応が必要である。

迷惑行為をうけたことがあるのは、栄養学科の男子が32%と全学で一番多く、悪徳商法の被害も11%と全学で一番多い。ストーカーの被害は、栄養学科の女子で5%と高かった。大学内のアカハラは、栄養学科男子で11%と全学で最も高く、改善が必要と考えられる。また、「学生相談室があるのを知らない」は、医学科、保健学科でそれぞれ20%、22%もあり、機会を捉えて周知する必要がある。

「食事」では、「昼食の利用場所」で最も多いのが「蔵本会館食堂」で28%、次いで「弁当を購入」23%、「自宅」13%、「常三島第1食堂」12%、「その他」23%であった。「蔵本会館食堂」が前回の9%から大幅に増加したが、これは蔵本会館食堂が改装されたためと考えられる。「学生食堂について感じていること」では、「昼食時の混雑がひどい」49%、「値段が高い」24%、「メニューが少ない」17%などがあり、食堂の混雑の解消が課題と思われる。

「就学状況」では、「本学を選んだ理由」で「希望する学部・学科があったから」が46%で最も割合が高く、これは歯学部、薬学部と同じ傾向であり、その他の学部と比較して高くなっている。また、「所属学部満足度」では、「満足している」、「ほぼ満足している」を合わせると76%になり、他の学部と比較して満足している学生が多い。「これまでの単位取得状況」では、「全部取得できた」が77%で、他学部と比較して割合が高い。医学部では、卒業時に国家試験を受けて取得できる免許の種類や卒業後の進路(職種など)が明確であるので、本学を選ぶときから将来の職種を考慮している学生が多く、学部に対する満足度も高いことが分かる。しかしながら、「授業に対する満足度」では、「満足している」、「ほぼ満足している」を合わせた割合は60%で、全学平均の58%とほぼ同じ割合になっている。「満足できない」理由として「授業がつまらない」と「教員の工夫がたりない」が多くあがっているため、公開授業等で意見交換し、さらなる努力が必要である。「オフィスアワーの利用状況」では、医学部では「オフィスアワーについて知らない」が56%と全学部の中で最も高く、オフィスアワーの周知と活用法を検討する必要がある。

「課外活動について」では、「学内の文化系サークルに加入している」と「学内の体育系サークルに加入している」を合わせると割合が約75%になっており、歯学部、薬学部と同様にサークルへの加入者が多いことが分かる。「大学祭への参加」では、医学部では73%になっており、他学部と比較して積極的に参加している学生が多い。

「進路・就職について」では、「希望職種」で「専門職(医師、看護師等)」が58%になっており、歯

学部、薬学部とともに卒業後の進路が明確な学生の割合が高い。「大学が行う就職セミナーへの参加」では、「参加する」や「時間があれば参加する」と答えた学生の割合が50%で全学の平均69%と比較すると少ない。これは医学部の特殊性によるものであるが、診療放射線技師、臨床検査技師などの医療系の職種に就職する学生数も多いので、これらの学生に対して病院等の医療機関についての就職情報の提供や、医療機関への就職に関するセミナーの開催などの就職支援を充実させる必要がある。

9-3 歯学部

歯学部は歯学科と口腔保健学科の2学科から構成されている。今回の調査の回収者数と回収率は、歯学科153人(62.4%)、口腔保健学科56人(98.2%)、歯学部全体では209人(69.2%)であり、前回調査の回収率に比べ歯学科は12%も悪く、口腔保健学科は同程度である。歯学部学生数は全学部の中で最少であるが、歯学部全体の回収率は大学全体の値(69.4%)と同程度である。しかし、前回調査(78.8%)よりも10%弱低く、前々回調査(67.1%)よりもわずかに高い値である。

住居については、30%が自宅通学であり、前回調査結果の19%から大きく割合が増えている。一方、家族と別居しアパートあるいはマンションを借りている学生の割合は56%、間借り(下宿)の割合は11%である。1か月の家賃は3万円~6万円が84%を占め、前回調査結果(82%)と同程度である。また、その住居の満足度については「満足している」と「ほぼ満足している」学生の割合は合わせて76%であり、概ね不満は少ない。住居の紹介・斡旋者は、不動産業者の割合が54%と最も高く、徳大生協からの紹介(27%)の2倍である。通学方法は自転車が多く63%を占めるが、全学部の中でその割合は最も低い。一方、徒歩通学の割合は13%、自動車の割合は10%であり、両者とも全学部の中で最も高い。通学時間は15分未満が61%、15分~30分未満が20%、30分~1時間未満が13%で、全体の結果と同様の傾向を示す。また、歯学部学生の11%が通学中の交通事故を経験しており、これは前回の調査結果(15%)よりもわずかに減少した。

経済面については、家庭の年収が750万円以上の学生の割合は47%であり、全学部の中で最も多く、前回の調査結果(43%)と同程度である。一方、500万円未満の収入の家庭は24%で前回調査(21%)とは同程度、前々回調査(16%)よりも増えており、これは日本経済の現状を反映していると思われる。年収500万円未満の家庭の授業料免除状況では、「授業料免除を知っているが申請していない」が48%と最も多く、「制度を知らなかった」の6%と合わせて、54%が免除申請をしていない。特に「制度を知らなかった」学生の割合は前回調査(13%)の半分以下となり、授業料免除制度が以前よりも周知されていることが伺える。全額免除あるいは半額免除を受けている学生は合計30%で、前回調査結果(24%)よりも増え、全学部ではほぼ同じ割合である。自宅外通学者の1か月の平均収入額は10万円未満が64%を占めている。自宅外通学者の保護者等からの援助額については、10%が援助を全く受けておらず、3~5万円未満の援助を受けている割合が24%と最も高いが、一方、10万円以上の援助を受けている学生の割合は20%で、全学部の中で最も高い。自宅外通学者の1か月の平均支出額は、5~10万円未満が53%であり、全学部の中で最も高い。一方、10%の学生は支出額が3万円未満で、切り詰めた生活を送っている。自宅外通学者の1か月の食費は、2~4万円未満が64%以上を占めており、全学部の中で最も高い。学生自身の経済状況は、「ゆとりがある」と「普通」の占める割合は合計73%で、全学部の中で最も高い。一方、「大変苦しい」と回答した学生は7%である。奨学金を受給している学生の割合は36%であり、全学部の中で最も低い。一方、63%は受給しておらず、前回調査結果(61%)よりも受給率は下がっており、59%の学生は今後も奨学金を必要としていないようだ。39%の学生はアルバイトをしておらず、前回調査結果(52%)よりも減った。アルバイトをしている学生は、週に1~3日が合計51%と最も多い。1週間のアルバイト従事時間数は、5~10時間未満の学生の割合が34%と

最も高く、次いで、5時間未満が29%、10～15時間未満が23%を占めた。前回調査結果では5時間未満の割合は47%であり、アルバイト従事時間数は増えていると考えられる。歯学部は高学年になると、学内臨床実習や研究室配属、学外臨床研修など長時間の実習・研修があるため、長時間のアルバイトには従事しにくいと考えられる。アルバイトによって勉学に支障が生じていると回答した学生の割合は18%であり、前回調査結果（15%）よりもわずかに増加したが、78%には支障はない。アルバイト収入としては5万円未満が75%を占め、さほど高額の収入は得ていない。79%はアルバイトにおけるトラブルの経験はなく、何らかのトラブルを経験したと回答した学生は14%である。

健康状態については、歯学部男子学生の4%は睡眠時間が4時間未満であり、6～8時間未満は50%と割合が最も高く、次いで4～6時間未満が44%である。これは他の学部と同様の傾向である。また、何らかの気になる症状を持っていると回答した歯学部学生は女子では50%、男子では29%であり、明らかな男女差が存在する。女子の気になる症状としては、頭痛・めまいと生理痛・生理不順がともに12%で最も多く、次いでアトピー・アレルギー（9%）、下痢・便秘（6%）と続いている。男子はアトピー・アレルギーが16%と最も多い。喫煙に関しては、「喫煙歴がない」が男女とも最も高く、男子が63%、女子が95%であるが、特に男子の割合は全学部の中で最も低い。喫煙している男子のうち、毎日喫煙している学生は9%であるが、ときどき喫煙している学生は10%を占め、全学部の中で最も高かった。飲酒では、飲酒しない学生は男子の19%、女子の26%である。たまに飲酒する割合が最も高く、男子で44%、女子で58%である。一方、男子では「1週間に3～4日飲酒している」と「1週間に5日以上飲酒している」が合計16%であり、他の学部よりも多かった。週3回以上の飲酒習慣があると回答した学生の、1回あたりの飲酒量はとくに男子で「1合以上2合未満」と「3合以上4合未満」がそれぞれ33%を占めていた。一方、女子も「1合以上2合未満」と「2合以上3合未満」がそれぞれ38%、さらに「4合以上5合未満」が13%を占めており、学生に対する飲酒量についての指導の必要性が考えられる。

食事について、昼食の利用場所として歯学部の34%は蔵本会館食堂を利用しており、これは薬学部（48%）に次いで利用率が高い。次いで19%は弁当を購入している。学生食堂については、56%が昼食時の混雑に不満を抱いている。歯学部学生にとっても蔵本会館食堂の改修・再開は十分な成果があったが、今後は混雑緩和に対する改善が必要と考えられる。

大学生生活の意義としては「勉強や研究」が42%と最も高く、全学部の中でも最も高かった。次いで「豊かな人間関係を結ぶこと」（12%）や「将来を考えた資格等の取得」（11%）が高く、これは全学部において同様の傾向である。悩みと相談については、歯学部の男子の44%は「ない」と回答しており、他学部男子と比較して高い。悩みの内容としては「勉学」が23%と高い割合を示している。一方、女子も「ない」と回答した学生は38%であり、他学部女子と比較して高い。悩みの内容としては「勉学」が36%と最も高く、次いで「就職や進路」（21%）が続く。相談相手としては、男子の56%、女子の70%が「友人」を挙げている。一方、「誰にもしない」と回答した男子は25%と高く、女子は9%である。これまでもメンター制度の充実を図り、教員が相談相手となれるような支援体制で臨んできたが、さらに維持・強化していく必要がある。迷惑行為として、「悪徳商法」は学生の1%が、「いたずら電話」は5%、「ストーカー」は2%が被害を受けたことがある。「大学内でのセクハラ」は女子の1%が、「大学内のアカハラ」は男子の4%が被害を受けた。また、「カルトの勧誘」は4%が被害を受けており、学生委員会等が中心となって、今後もカルト勧誘の危険性について学生に周知徹底していかななくてはならない。さらに、迷惑行為を受けた際の相談先が「友人」と回答した学生は33%、「家族」は22%を占めている。学生相談室の利用はわずか11%の学生にとどまっている。

教職員・友人との交流について、教員との会話あるいは質問を7回以上したことがある学生が38%と最も多く、薬学部（56%）に次いで高い割合を示している一方で、教員との交流を最も全くしたことの

ない学生も13%いる。学生の80%には親しい友人がいて、親しい教職員がいる学生の割合は35%と全学部の中で歯学部が最も高い。一方、6%の学生には親しい教職員も友人もないことから、このような孤立した学生に対する支援体制の構築や強化が必要と考える。大学事務室の対応について「満足」と「ほぼ満足」と感じる学生の割合は合計54%であり、一方、「やや不満」と「不満」は17%であり、前回調査に比べて改善した。

盗難等犯罪被害としては14%の学生が被害に遭っている。被害の種類としては、男女とも盗難（男子13%、女子10%）が最も多く、女子では次いで痴漢（2%）が多い。盗難等犯罪被害を受けた場所は男子では路上が38%で最も高く、女子は大学構内と路上がそれぞれ41%で最も高い。

修学状況では、本学を選んだ理由として「希望する学部・学科があったから」が41%と最も高く、次いで「国立大学だから」が35%、「地元の大学だから」が27%である。これは医学部や薬学部と同様の傾向であり、また、前回調査結果とも同じ傾向である。所属学部満足度としては、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせると67%であり、前回調査（65%）と前々回調査（71%）との中間の値で、3人に2人は満足していることになる。一方、何らかの不满を抱いているのは14%である。単位取得状況については、「全部取得できた」が67%で、「ほとんど取得できた」の28%を合わせると、95%の学生がほぼすべての単位を取得している。また、授業出席状況では、91%の学生が「全部」あるいは「ほとんど」出席しており、「ほとんど」あるいは「全く」出席していない学生はいない。しかし、5%の学生は「出たり出なかつたりしている」ため、このような学生に対して何らかの指導が必要と思われる。授業欠席理由として、67%が「勉強意欲がわからない」ためと回答し、残念ながら、これは全学部の中で群を抜いて高い割合である。次いで、50%が「授業に魅力がない」としており、総合科学部（51%）に次いで高い割合である。一方、「授業が理解できない」学生も17%いる。学生の質の低下も問題のひとつと考えられるため、学習面のサポートについて何らかの対処が必要である。授業満足度については、「満足」と「ほぼ満足」が合わせて60%であるのに対し、「やや不満足」と「不満足」と感じているのは合わせて7%である。これらは前回調査とほぼ同じ結果である。不満な理由として、「授業内容がつまらない」、「教員の教え方に工夫が足りない」がそれぞれ48%、47%と高く、前回調査結果（33%、31%）に比べても高い。一方で、授業の予習復習にかかる時間は2時間未満が82%で、他の学部と同様の傾向である。最近の授業は、教員が配布資料を用意して、学生の筆記時間を減らして聴く時間を増やし、理解を深められるよう努力をしている一方で、学生側の予習・復習は十分ではないと考えられる。残念ながら、カンニングの経験がある学生は7%であり、他学部でもほぼ同様の割合である。

オフィスアワーの利用状況として、「利用したことがある」のは38%で最も高く、全学部の中でも最も高い。また、「オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない」（30%）と合わせて、約7割の学生はオフィスアワーの存在を知っている。オフィスアワーを利用しない理由としては、「教員に相談するのが面倒である」（33%）を除くと、「オフィスアワーの時間が短く利用しにくい」という理由が25%を占める。前回調査結果では「講義内容を十分理解できるのでその必要がない」という肯定的な理由が多かったが、これに比べると、オフィスアワーについて再検討の必要があると考える。図書館の利用回数については、「週2、3回程度」が21%で最も多く、次いで「月2、3回程度」（19%）、「週1回程度」（17%）、「月1回程度」（17%）であり、「毎日」利用する学生も7%いる。前回調査結果（月1回程度が30%）と比べると、利用率が高くなっている。図書館を利用する理由としては、「自習」が56%と最も高い。その一方、図書館を「利用しない」学生は13%いる。

課外活動として、学内の文化系あるいは体育系サークルに加入しているのは72%であり、加入していない21%を大きく上回っている。サークルに加入しない理由は、「学業の妨げとなる」の17%が最も高く、次いで、「練習がいやである」（14%）、「集団生活についていけない」（14%）、「通学に時間がかかるので時間的余裕がない」（14%）である。前回調査結果では「魅力的なサークルがない」が26%と最

も高かったことに比べて、加入しない理由に変化がみられる。新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事に参加しているのは43%、不参加は25%である。大学祭への参加は65%、不参加は31%であり、医学部、総合科学部とともに参加が不参加を大きく上回っている。また、70%の学生にはボランティア活動の参加経験がなく、前回調査結果と大きな差異はない。

進路・就職については、歯学部の場合、その進路情報の入手手段は限られており、先輩・知人からが29%と最も多く、次いで指導教員からが26%である。73%の学生が就職を希望しており、進学希望は15%であり、前回調査結果とほぼ同じである。歯学科においては、歯科医師免許取得後1年以上の臨床研修が義務づけられているため、大学卒業後すぐに進学できないことが反映されている。就職先選択で重視するものは、「就職先の将来性・安定性」(24%)や「収入」(23%)であり、他の学部と同様の傾向である。就職情報の入手先も他の学部同様、「インターネット」(33%)が最も高く、歯学部に特徴的な「先輩・知人」(31%)がそれに次ぐ。希望する職種は専門職が56%で、医学部、薬学部とともに卒業後の進路が明確な学生の割合が高い。大学が行う就職セミナーへの参加は48%の学生は参加せず、全学部の中で参加率は最も低い。歯学部では85%がキャリア就職センターを利用したことがない。その代わりに、歯学部学生委員会が独自の研修医マッチング説明会や卒業生・開業OBによる就職説明会を開催し、支援している。また、同窓会主催の懇親会に歯学科6年生が参加し、全国各地の支部同窓会会員に直接各地の歯科医需給状態などを聞くことができる機会も設けている。歯学科学生に対しては今後も独自の就職支援活動として、同窓会や後援会の協力を得ながら継続していく予定である。また、口腔保健学科学学生の就職支援活動については、キャリア就職センターと連携を図りながら、医療専門職に適した支援体制を構築する必要があると考える。

9-4 薬学部

薬学部は、薬剤師養成のための専門教育を行うことを目的とする6年制の「薬学科」と、創薬・製薬科学の研究者養成のための専門基礎教育を行うことを目的とする4年制の「創製薬科学科」で構成されている。今回の学生生活実態調査は、平成18年4月の両学科設置以来、すべての学年が揃ってから二度目となる。薬学部では入学試験において両学科を一括募集し、3年次後期(10月)から各学科に配属することとしている。今回の調査対象者は薬学部共通学科161名(1~2年次)、薬学科163名(3~6年次)、創製薬科学科82名(3~4年次)の合計406名であり、調査票の回答数は薬学部共通学科70名、薬学科151名、創製薬科学科70名であった。薬学部全体での調査票回収率(71.7%)は、前回調査の59.4%ならびに前々回調査の50.5%を上回る結果となった。薬学科(今回92.6%、前回86.4%)と創製薬科学科(今回85.4%、前回81.7%)の回収率は前回同様にほぼ9割であったのに加えて、今回は薬学部共通学科の回収率が前回の24.6%から43.5%へと上昇したことが特徴的である。したがって、調査結果には薬学部高学年の学生の考えがより反映されていることは否めないものの、前回調査に比べれば、薬学部学生全般の現状と課題が浮き彫りになっていることが期待される。今回の調査にあたっては、各研究室単位で回答用紙(マークシート)の回収を実施したことが研究室配属学生(3年次以上)の調査票回収率の向上に結びついたと考えられる。その一方で、薬学部共通学科(1~2年次)の学生の調査票回収率は依然として50%を割っている事実を踏まえると、学生生活実態調査実施時にはクラス担任制度を活用するなどして、研究室に配属されていない共通学科学生にも周知徹底をはかる必要がある。

「住居・通学」について、自宅からの通学学生は17%であり、前回調査を2ポイント下回った。他学部と比較すると自宅から通学する学生の割合は最も低く(全学部平均28%)、県外からの入学者が多いという傾向は前回調査と同様である。通学方法としては「自転車」いう回答が最も多く(79%)、通学時間は「15分未満」が76%であった。通学中に交通事故に遭った割合は前回の17%から14%に低下した。

交通安全講習会や交通安全キャンペーンへの参加などの意識喚起策を積極的に進めたことも一因と考えられる。

「収入・支出」について、1か月の平均支出額を7万円以上と回答した自宅外通学者は36%であり、全学部平均の24%を上回った。アルバイトをしていない学生(53%)は他学部と比較して最も多く、全学部平均の40%を13ポイント上回った。高学年学生の調査票回収率が高かったことを考慮すると、教育カリキュラムと関連した時間的制約が一因ではないかと考えられる。奨学金については、40%の学生が「現在受給中であり、受給の継続を希望する」と答えた。経済状況について「やや苦しい」あるいは「大変苦しい」と答えた学生が34%を占め、前回調査を5ポイント下回ったものの、依然として生活に余裕がないことがわかる。奨学金や授業料免除等の経済的支援は、今後も継続して取り組むべき重要課題の一つである。なお、年収500万円未満の家庭の学生の13%(全学部平均10%)が「授業料免除制度を知らなかった」と回答し、前回調査時の1%から大幅に増加した。薬学部においても本制度を再度周知することが必要と考えられる。

「健康状態」について、1日の平均睡眠時間は健康的とされる「6～8時間未満」と答えた学生が男子50%、女子52%であり、睡眠不足とされる「4～6時間未満」と答えた学生が男子43%、女子43%であった。気になる症状が「特にない」と答えた学生は男子67%、女子52%で、いずれも前回調査(男子54%、女子43%)より増加した。しかしながら、女子学生の半数以上が現在気になる症状を抱えていることから、それぞれの症状に対する早期の対処法について、保健管理センターとも連携したきめ細かい生活指導の必要性が感じられる。

「食事」について、昼食の利用場所を尋ねたところ「蔵本会館食堂」との回答(48%)が最も多く、前回調査を29ポイント上回った。その一方、「弁当を購入」と答えた学生は21%であり、前回調査を22ポイント下回った。今回の調査票回収率が、蔵本キャンパスに常駐する高学年学生で高かったことを考慮すると、蔵本会館の改修が済んだことを反映したものと考えられる。

「学生生活上の問題点」について、男子で86%、女子で87%の学生が「迷惑行為を受けたことはない」と答えており、男子、女子ともに前回調査(それぞれ78%、82%)を上回った。また、迷惑行為の内訳として、カルトの勧誘、悪徳商法、いたずら電話、ストーカー、大学内でのセクハラ、大学内でのアカハラ、サークル内でのいじめなどの回答があった。前回の調査結果(12%)とほぼ同様に15%の学生が「学生相談室を知らない」と答えていることから、学生相談室とも連携しながら、薬学部としてのカルト問題、悪徳商法問題、薬物乱用問題などの啓蒙・啓発活動を今後も継続的に実施する必要がある。

「修学状況」について、本学を選んだ理由としては「希望する学部学科があったから」、「国立大学だから」の順に回答数が多く、前回調査と同様の傾向であり、入学時における目的意識の高さがうかがわれる。「薬学部満足していますか」との設問に対し、「満足している」あるいは「ほぼ満足している」と答えた学生は60%(全学部平均66%)であり、他学部と比較して学部への満足度はやや低い。また、「授業に満足していますか」との設問に対しても、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は52%(全学部平均58%)であり、授業への満足度は他学部よりも低い結果であった。授業に満足できない理由としては、「授業内容がつまらない」と「教員の教え方に工夫が足りない」が最も多く、「授業内容が難しすぎて理解できない」が続いている。教員はこれらの調査結果を真摯に受け止め、薬学科と創製薬科学科という修業年限の異なる学科が同一学部内に存在するという今までにない教育システムの確立へ向け、学部や授業に対する満足度が100%となることを目標とした不断の努力が求められる。なお、カンニング経験が「ある」と答えた学生は8%で、前回調査(9%)とほぼ同様であったことから、学部全体としての厳格な取組が求められる。

「課外活動」について、サークルへの未加入率は27%であり、前回調査(34%)よりも低下している。これは低学年学生の調査票回収率の上昇も一因と考えられる。サークルへの加入や学生行事への参加は、

学生教育の一翼を担う重要事項であることから、薬学部としての学部内サークルの支援策等を一層充実させるため、学生を交えた議論の場において十分に検討する必要がある。

「進路・就職」について、就職を希望する学生は67%であり、前回調査（65%）とほぼ同様である。希望職種としては「専門職（医師・看護師等）」が55%で最も多くなっているが、前回調査（58%）よりは若干減少した。前回あるいは前々回調査からの就職希望者の割合（前回65%、前々回53%）と希望職種（専門職希望：前回58%、前々回61%）の推移を見ると、薬学6年制の導入に伴い、原則として薬剤師国家試験の受験資格が得られない4年制学科（創製薬科学科）の併設が、調査結果に大きく影響したと考えられる。

はじめにも述べたとおり、平成16年に公布された学校教育法の改正により薬剤師教育のための薬学教育は修業年限が4年から6年に延長され、同時に、多様な分野へ進む人材育成のため4年制学科が併設されることとなった。徳島大学では、両学科を入学試験時に一括募集し、3年次後期より両学科に配属するというカリキュラムを採用している。平成26年の3月には、6年制教育を受けた第3期生が卒業を迎える。このように大きな変革期にあつて、学部学生を対象とした学生生活実態調査の貴重なデータを有効に活用し、より良い修学・生活環境を構築するための実効性のある学生支援体制の充実に務めなければならない。

9-5 工学部

「住居・通学」について、工学部学生の1ヶ月家賃は、他学部比べて4万円未満とする学生の割合が多く（昼間67%、夜間82%）、安い住居を利用している。中でも、夜間の学生は、3万円未満の学生が42%と、特に安い住居を利用している。ただし、満足度自体は、他学部とも大きな差はない。これは、家庭の年収を反映している。

「収入・支出」について、工学部夜間では、年収が250～500万円未満と回答した学生が34%と、他と比べて非常に多い。また、750万円未満とする学生は、夜間で73%、昼間で67%と、医学部の54%、歯学部の42%と比べると大きく上回っている。また、工学部夜間では、保護者からの援助が全くないと回答した学生が30%であり、他学部の3倍程度の多さとなっている。1週間当たりのアルバイト時間も、工学部夜間では10時間を超える学生が61%であり、また、工学部昼間の学生も53%が10時間を超えて就業している。これらの割合は、医学部、歯学部、薬学部よりもはるかに多い。こうしたことを反映してか、アルバイトによって勉学に支障が生じていると回答した学生は、工学部夜間で、他学部よりも高くなっている。

工学部学生に対しては、勉学とアルバイトとの時間の使い方等について、適切な助言を行なっていくことが必要である。また、授業料免除制度についても周知徹底していく必要がある。また、大学としては、こうした経済的不均衡を考慮しながら、学内での奨学金の配分方法等について検討していく必要があるだろう。

「健康状態」について、工学部夜間男子で、毎日喫煙する学生が14%にのぼっており、喫煙の健康への影響や、分煙のしくみなど、引き続き徹底していくことが肝要だろう。

「食事」について、常三島地区では、SanjoやEmireなど軽食店に引き続き、第2食堂がCreAとして新しく再スタートし、若干の分散が図られているものの、工学部では依然として食堂の昼間の混雑に不満を持つ学生が多い。特に低学年は、限られた時間の中で昼食をとる必要があり、昼食時の混雑の軽減方策は、学生生活を快適にするためにも検討し続ける必要がある。

「学生生活上の問題点」について、「勉学」、「就職や進路」、「交友・異性関係」など、多くの学生が何らかの悩みを持っている。工学部では“学びの相談室”を設置し、学生相談室等との橋渡しを行なっ

いるが、学生相談室等の利用は少なく、友人が主な相談相手となっている。また、1/4程度の男子、1/6程度の女子は、悩みを「誰にも相談しない」としている。教員との会話・質問を4回以上したことがあると回答した学生は、夜間で35%、昼間で30%と、他学部と比べて少なくなっている。そして、夜間の11%、昼間の10%は親しい教職員も友人もいないと回答している。教員側からも、学生に積極的に働きかけ、学生にとって相談しやすい存在となるよう努力していく必要があるだろう。また、「学生生活上の問題点」では、大学生生活の意義について、工学部昼間では18%、夜間では16%が「趣味・娯楽」と回答している。また、「ただ何となく」、「特に重点もなく程々に」と回答した学生は、昼間で20%、夜間で21%となっている。すなわち、30～40%の学生が、「勉学や研究」に重きをおけていない状態である。

工学部学生の入学動機は、「国立大学だから」と「地元の大学だから」という回答が多い。これは、家庭の経済的状況を背景としたものであると思われる。満足度は他学部と比べてもそれほど低くはないが、単位修得数や授業への出席状況は、他学部よりも劣っている。授業に満足していない学生は10%程度であるが、その理由として「難しすぎる」との回答が他学部よりも多い。

工学部では、「志望する学部・学科があったから入学してきた」とする学生が少ないことを前提とし、「勉学や研究」への動機・意欲を向上させるための取り組みが必要であろう。

「課外活動」について、工学部夜間の学生のサークル加入率は、アルバイトのために時間的余裕がなく、他学部に比べてかなり低い。昼間学生の加入率も若干低いが、それを説明する際立った理由はみつからない。また、工学部学生は学生行事への参加率も、他学部に比べて低い傾向がある。「悩みを相談する人がいない」とする学生が多いということも鑑み、サークルや学生行事への積極的な参加を通じたコミュニケーションの場づくりを支援することも考える必要があるだろう。学生行事に関しては、実行委員会の企画・運営能力の向上をサポートすることで、行事を学生全体にとって魅力あるものとし、学生全体の参加意欲の向上を図っていくという道筋が考えられる。

「進路・就職」について、就職先を考える上での情報は、インターネットを通じて得ると回答した学生が最も多く、次いで、新聞・就職情報誌、就職担当教員であった。多くは技術職を希望する学生が多いのが特徴である。大学が行う就職セミナーや就職支援センターの積極的な利用はそれほど多くは無い。技術職を希望する学生の要望に合ったセミナーの企画や情報の充実を検討する必要があるかもしれない。ただ、工学部では各学科で就職担当教員が配置されているため、きめ細やかな対応が行えているものと思われる。

第10章 総括と提言

第26回学生生活実態調査は、本学に在学する学部学生全員（5,848人）を対象として実施し、4,060人から回答を得た。回収率は69.4%で、前回の61.9%前々回の54.4%よりは上がったが、第22回（71.4%）には及ばなかった。実態の正確な把握には高い回収率が必要なので、この回収率をあげる工夫が求められる。調査項目は、「基本的事項」、「住居・通学」、「収入・支出」、「健康状態」、「食事」、「学生生活上の問題点」、「修学状況」、「課外活動」、「進路・就職」の9項目で、過去の調査との継続性を考慮しつつ若干の変更をおこなった結果、今回の総設問数は79問となった。

今回の調査結果から把握した学生生活の現状と問題点を整理し、全学的な立場から学生生活支援をおこなうために、以下の総括と提言をまとめた。

1. 住居・通学について

全体の80%以上が30分未満の通学時間であり、大学の近くに住居があり、通学する学生が多い。問題は11%の学生が通学中に何らかの交通事故に遭っていることである。被害者になる場合も重大だが、加害者になる場合もあり、特に、約70%の自転車通学者については道路交通法が平成25年12月1日に改正され、自転車の通行に関する左側通行の徹底や罰則の強化がなされており、保険加入のことも含め交通安全に関する指導を強化する必要があるだろう。

2. 経済状況について

学部間の違いはあるが、家庭の収入が250万円未満というのが約9%で、これに対応するように「生活が大変苦しい」という学生も約10%存在する。

この割合は、前々回、前回の調査とほとんど同じである。例年と同じ提言になるが、授業料免除の対象を広げたり、希望者には各種奨学金の情報がきちんと伝わるようにする必要がある。

3. 健康状態について

例年と同様であるが、過度の睡眠不足の学生が数%、さらに何らかの気になる症状を抱えている学生が約40%にのぼっている。これらの症状への対処や生活習慣等の生活面の指導を含めた対処法の事例や解決の手伝いをする仕組みが、保健管理センター等の大学側の仕組みとしてあることをしっかり知らせることが大事であると思われる。また、健康診断も含めて、自発的に大学側の仕組みを利用するような周知も重要である。喫煙する学生はある一定の割合を占めており、これらの学生に対する積極的な禁煙指導や治療など、なんらかの対策が必要であろう。また、キャンパス内の禁煙区域は広がっており、構内全域における分煙の徹底やマナー向上、非喫煙者への配慮を目指すべきであろう。

4. 食事について

朝食をほとんど取らない学生が約20%いるという状況は、前回、前々回とほとんど同じである。これについては生協食堂からの協力もあるのだが、なかなか改善しない。当人も自覚するような顕著な障害が現れないためであろう。家庭での習慣もあり、大学としてどこまで関与できるかについては限界があるが、積極的な推進も必要である。

工学部第二食堂の改善（生協が運営するCreAへの変更）等、本年は大変充実した改善が大学側によって行われた。一方、常三島地区での工事の影響も有り、昼食時の混雑に対する不満については一時的な影響も反映されていると思われる。恒常的な昼食時の混雑の緩和については、時間割の組み方、

自主学習スペースの活用、昼食時間内における時間差での利用等工夫できる部分もあると思われる。

5. 学生生活上の問題点について

学生生活の意義として、まず第一に「勉強や研究」におく学生が多いことは望ましい傾向と言える。もっとも、「ただ何となく」というネガティブな回答も依然として6%ほど存在し、これらの学生に対するケアも重要な点である。

悩みや問題があっても誰にも相談しない学生が相変わらず30%ほど存在し、その中には相談すること自体によって何らかの解決法が見つかるものも存在するはずであり、相談先と相談方法について根気よく周知徹底する必要があると思われる。また、学生相談室があることを知らない学生が約19%も存在する。本年度からの蔵本での常駐相談開設が大変重要な一歩である。これによって一定の効果が得られるように、学生相談室への相談が必要な学生へ十分に情報が行きわたるように周知する必要がある。また、何らかの迷惑行為を受けたことがある学生も相変わらず20%ほど存在し、学内での盗難被害にあった学生も少なからず存在する。未成年や、成人後間もない学生が様々なトラブルに巻き込まれないように、対処法をしっかりと伝えておく必要がある。「クーリング・オフ制度」を知らない学生がいなくなるように、オリエンテーションでの周知が必要である。同様にセクハラ・アカハラについても根絶すべく、大学として学生、教職員等の構成員全てが、真摯に取り組み続けて行く必要がある。

6. 修学状況について

出席状況のあまり芳しくない学生が10%程度いるのが問題である。出席を厳しくとる等による個別の出席状況把握や、それにあわせてきめ細かい指導は、学生の生活リズムを維持させる上でも役に立つのではないと思われる。これと符合するように、授業に満足していない学生も約10%程度存在するが、これは教員側の問題ばかりであるとは言い切れない。受身の受講ではなく、自主的に学ぶ姿勢を引き出すような指導が必要である。カンニングをしたことがあるという学生が約10%いるというのも問題である。どのような小さな不正行為もしてはならないという高い倫理意識を持たせると同時に、試験を実施する側もカンニングさせない態勢をきちんと整えておく必要がある。

7. 課外活動について

課外活動については約70%の学生が参加をしており、大変望ましい状況と言える。学生の自主的な活動を行うことにより、社会人として必要な様々な資質を自主的に身につけ、鍛練する場となって頂きたい。30%の学生が課外活動を行っていないが、課外活動以外の学園祭等の学生行事や、ボランティア活動、さらには勉学生活を通じて、しっかりとした勉強や研究の上に、社会における必要な資質を自主的に学んで頂きたい。その意味でも次年度からスタートするボランティアサークルへの積極的なサポートが有効に機能するように大学側も周知徹底する必要がある。

8. 進路・就職について

利用率の向上としては数字に表れてはいないが、就職支援センターがキャリア支援センターとなって、サポート体制が強化されており、必要な学生には十分なサポートが可能な体制になっている。必要な学生が自主的に活用できるように、学生相談室同様に、学生への活用方法の案内などの活動を積極的に進めて行く必要がある。また、学生生活における大きな悩みの一つに進路や就職の不安があり、人生のキャリアをどのように設計するかについてもきめ細かいサポートが必要である。

学生支援室としては、今回の調査結果が徳島大学における学生支援に適切に反映されるよう願っている。

あ と が き

「継続は力なり」一己を知ることの大切さ

あとがきを読んで頂いてありがとうございます。この学生生活実態調査は昭和28年に初めて実施されて以来、なんと60年の歴史をもっています。第1回から21回までは抽出した3割の学生を対象としていました。現在の学部生全員を対象とする形になったのは平成16年の第22回調査からとなります。今回の回収率は約60%でした。これは本学の学生の過半数を超える学生の皆さんにご協力頂いたこととなります。

序章にあるように、この調査の目的は「今後の福利厚生等の改善及び修学支援に資する基礎資料を得ること」です。79の設問に対する回答もあまり大きな変化はなく、ほぼ一定の傾向を示し、本学の状況はある程度定まっている感じがします。一方、回答をよくよく見ると、時代の変化や、大学の置かれている状況も反映されています。調査によって何が改善されたか、どうしてこのような回答になっているのか、について詳細に検討する必要があります。また、時代に合わせて少しずつ設問の見直しをしていますが、継続の観点から、設問自体には大きな変更を加えていません。大学として何ができるか、何をすべきかという観点に立つと、今回の調査結果だけでなく、回答の長期間の変化についても十分な解析がなされる必要があるでしょう。

このあとがきをご覧になって頂いている方は、この学生生活実態調査報告書を一読頂いているかと思います。是非活用してください。同僚、友人、知人、徳島大学に関わる方全てに読むことを勧めてください。徳島大学の学生の実状を知る、すなわち己を知ることが、よりよいキャンパスライフを送る、送って頂くための道標にきっとなると思います。

最後に、この報告書の作成にあたって頂いた多数の委員の先生方に、お礼を申し上げたいと思います。また、この作成を支えて頂いた学生生活支援課の事務職員の方々にお礼を申し上げます。そして、勿論のことですが、忙しい学生生活の間に調査に応じて頂いた学生の皆さんにも、お礼を申し上げたいと思います。この実態調査報告書が、徳島大学の学生のためにさらに活用され、真に役立ちますように。

平成26年3月

学生支援センター 学生生活支援室長
大 政 健 史



26th
Tokushima Univ.
Campus Life



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の
規定による「大学機関別認証評価」を受け、
「大学評価基準を満たしている」と認定されました。
(平成19年3月28日)

・認証評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
・認証期間：7年間（平成19年4月1日～平成26年3月31日）

なお、平成26年4月以降については、大学評価・学位授与機構において審査中です。

平成26年3月

徳島大学